

フ可キ義務ノ外總テ悉ク報酬ナキ貸借ノ性質ヲ具有スルニ因テナ
リ
報酬ナキ貸借ニ於テハ返還ノ義務ノ目的ハ貸渡ノ物ニ均シキ他ノ
物ニ在リ而シテ貸主ノ義務ハ不行即チ定期前ニ物ヲ請求セサル
ニ在ルナリ然レモ貸貸ニ於テハ貸主ノ義務ハ借受人ニ使用セシム
ルニ在リトス此ニ由テ之ヲ觀レハ利息附ノ貸借ハ片務契約ニシ
テ貸貸ハ雙務契約ナリト知ル可シ

〔九百六十三號〕 耗盡物ノ貸借ト准入額所得權ニ附テ差違アル所ノ件

三箇アリ

其一 借主ノ權利ハ之ヲ其相續人ニ傳フルヲ得可ク准入額所得權
ハ其權ヲ有スル者ノ死去ニ因テ消滅ス尤モ其死去返還ノ期限前
ニ在テモ其權利ヲ消滅ス何トナレハ此期限ヲ定メシ所以ハ入額

所得權ノ時間ノ延長スルカ爲メニ非スシテ之ヲ減縮センカ爲メ
ナレハナリ

其二 耗盡物ノ貸借ハ契約ヨリ生シ准入額所得權ハ契約又ハ遺囑
ヨリ生ス

其三 准入額所得者ハ保證ヲ立ルノ義務アリト雖モ耗盡物ノ借主
ハ之ヲ立ツルノ義務ナシ

〔九百六十四號〕 無償名義ノ貸主ハ其詐詭ノ外己レノ責ト爲ヌヲ要セ
ス故ニ此貸主ハ貸渡セシ物ノ不良ナル時又ハ之ヲ奪取セラレタル
時ト雖モ之ヲ擔保セス但シ此物ノ不良ナリシ事又ハ他人ノ所有ナ
リシ事ヲ諒知シテ之ヲ貸渡シタル時ハ別段ナリトス
要償名義ノ貸主ハ右ニ反シ總テ其過失ヲ以テ自己ノ責ト爲サ、ル
可カラズ故ニ此貸主ハ假令ヒ良意ニテアリシ時ト雖モ物ノ不良ナ

耗盡物ノ貸借ノ本質此貸借ヨリ生スル諸般ノ義務

第九百九十九條

ルヲ又ハ之ヲ奪取セラレシヲ以テ己レノ責トナスヲ要ス
〔九百六十五號〕「約束ノ期限後約束ノ場所云々」トアリ

余ハ先ツ約束ノ期限後ト云フコヨリ説カン貸主ハ其貸渡シタル物
ト同一物ニ不圖至急ノ要用アル旨ヲ證スト雖モ使用物ノ貸借ニ於
ケルカ如ク定期前ニ其返還ヲ請求スルヲ得サルナリ使用物ノ貸借
ニ於テ貸主ニ此權利アリトスルハ何ソヤ借主ニ物ヲ耗盡ス可キノ
權ナキヲ以テ此物ノ其掌中ニ存スルハ通常ノ事ナルニ因リ滿期前
ト雖モ借主ハ夥多ノ損害ヲ被ムラスシテ之ヲ返還スルヲ得可シト
法律上ニテ推測スレハナリ之ニ反シテ耗盡物ノ貸借ニ於テハ貸渡
サレシ物ヲ耗盡シ得可キニ因リ借主ニ於テ貸與ノ物件ト同一物ヲ
求ムルハ容易ニ非サレハナリ

〔九百六十六號〕約束ノ期限ナキ時ハ貸主ハ何時タリトモ隨意ニ返還

ヲ請求スルヲ得可シ

然レモ借主己レニ借受ノ物ヲ耗盡シ畢リ而シテ之ト同質ノ物ヲ所
持セサルヲ有ルヲ以テ裁判廳ハ其時ノ模様ニ因テ多少ノ猶豫期限
ヲ與フルヲ要ス

又裁判官ハ第一千二百四十四條ニ循ヒ滿期後ト雖モ負債主ノ貧困ナ
ルヲ見ル時ハ猶ホ之ニ猶豫期限ヲ與フルヲ得ルナリ然レモ之ヲ與
フルト與ヘサルトハ全ク裁判官ノ見込ニ在リトス

〔九百六十七號〕若シ借主ニ於テ返還スルヲ得可キ時又ハ返還ノ方法

アル時返還ス可シト言ヘル約束有ル時ハ裁判官ニ於テ宜シク其返
還ノ期限ヲ定メサル可カラス

借主ノ返還セント欲スル時ニ返還セント言ヘル約束アル時モ右ノ
如ク裁判官ニ於テ返還ノ期限ヲ定メサル可カラス此別約ヲ以テ返

此書物ノ借借ノ本質此借借ヨリ生スル諸般ノ義務

還スルモ返還セサルモ全ク借主ノ氣儘ナリト言フ意ニ解ス可カラ
ス若シ此ノ如ク解スレハ則チ貸借契約ヲシテ其効ナカラシムルニ
至ラン何トナレハ爲スモ爲サルモ己レノ氣儘ナリト言ヘル事ノ
如ク錢務ノ本旨ニ悖戻スル者有ラサルヲ以テ其勢借主ニ於テ返還
ノ義務ナキカ如クナレハナリ

此別約ハ契約ニ其効ヲ有セシムルノ意ニ之ヲ解セサル可カラス貸
主ハ借主ヲ質直ノ人ト信シタルカ故ニ之ニ貸渡スチ肯シタルナリ
然ラハ則チ貸主ハ最初借主カ返還シ得ル時ニ返還スルナラント思
惟セシニ相違莫カル可シ

〔九百六十八號〕約○束○ノ○場○所○ニ○ト○云○フ○ヲ○テ○說○明○セ○ン○返○還○ノ○場○所○ニ○附○キ
其約束ナキ時ハ何時ニ於テ返還ヲ爲ス可キ乎第千二百四十七條ノ
法文ニ一種類中ノ一物ヲ以テ目的トナス義務ノ辨濟ハ負債者ノ住

所ニ於テ之ヲ爲ス可シトアリ

此處ニテモ亦此規則ヲ遵守セサル可カラサル乎然リト言フ者乃チ
曰ク貸主保護ノ爲メ普通法ノ條規ヲ引用ス可シト云ヘル法文ハ我
未タ嘗テ之ヲ見スト、否ト云フ者ハ將ニ言ハントス借主ノ義務ハ借
受ノ物ト同價ノ物ヲ返還ス可キニ在リ然ルニ今返還ス可キ物ヲ以
テ貸借ノ成リシ場所外ニ拂フ可シトセハ假令ヒ之カ借受ノ物ト同
一ナリト雖モ其價額ノ如キニ至テハ未タ必シモ差支ナシトナス能
ハサルナリ蓋シ物ノ價額ハ其所在ニ因テ多少異ナル可ケレハナリ
ト

第千八百九十
二條第千八百
九十三條

〔九百六十九號〕付○與○セ○ラ○レ○タ○ル○物○ト○同○量○同○質○ノ○物○又○ハ○貸○借○物○ノ○貨○幣
ナ○ル○時○ハ○之○ニ○均○シ○キ○金○額○ヲ○返○還○ス○ル○云○々トアリ
付與セラレシ物ヲ保持シ後ニ其之ヲ返還ス可キ義務ハ耗盡スルモ

耗盡物ノ貸借ノ本質此貸借ヨリ生スル諸般ノ義務

耗盡セサルモ總テ隨意ニ之ヲ取扱フ借主ノ權利ト併行セサル者ト
ス借主ハ之ヲ保持ス可キ義務アルニ如何ソ之ヲ隨意ニ取扱ヒ又ハ
之ヲ耗盡スルヲ得ケンヤ

右ノ如キ理由ナルヲ以テ借主ハ己レノ受取リシ物ヲ返還スルノ義
務有ラスシテ之ニ均シキ他ノ物ヲ返還ス可キ義務アルノミ故ニ借
主ハ一種類中ノ負債者ナリ是ヲ以テ借受ノ物件意外ノ一ニ於テ滅
却スルコト有リト雖モ借主ハ唯其所有物ヲ失フノミナリ貸主ニ對シ
テ負フ所ノ義務ハ決シテ免カル、ヲ得サルナリ何トナレハ其義務
ノ目的ハ滅却セシ者ニ在ラスシテ滅盡ス可カラサル一種類中ノ物
ニ在レハナリ

使用物ノ貸借ニ於テハ借主ハ義務ヲ免カル、ヲ得可シ何トナレハ
其義務ハ滅却シタルヲ目的トスレハ其滅却ニテ自カラ消散セサル

自第千八百九
十五條至第九
百九十七條

ヲ得サレハナリ耗盡物ノ貸借ニ於テ借主タル者其義務ヲ免カレン
ニハ其返還ス可キ物類ヲ悉クシテ滅盡スルニ至ランヲ要ス然レモ
非常ノ變ニ際セスンハ豈ニ此ノ如キコトアラシヤ

〔九百七十號〕 返還ノ義務ハ其目的トスル所金額外ノ物ニ在ルト金額

ニ在ルトニ因リ之ヲ盡スノ方法ニ於テ自カラ異ナル所アリトス
第一ノ場合 返還ノ義務ノ目的ハ貨幣外ノ物タル時即チ返還ス可
キ物ノ貨幣ナラサル物タル時○借主ニ於テ貸渡サレシ物ト同量同
質ノ物ヲ返還シタル以上ハ其義務ハ自カラ消散ス可シ故ニ貸借物
ニ如何ナル價額ノ變換アルト雖モ敢テ之ヲ顧慮スルニ足ラサルナ
リ是ヲ以テ借主ノ返還ス可キ物貸借ノ物ヨリ稍高價ナル時ト雖モ
之ト同量同質ナル以上ハ貸主タル者之ヲ請求スルニ於テ毫モ躊躇
スルニ及ハサルナリ

耗盡物ノ貸借ノ本質此貸借ヨリ生スル諸般ノ義務

借主モ亦其受取リシ物ト同量同質ノ物ヲ返還スレハ假令ヒ此物貸借ノ物ヨリ廉價ナル時ト雖モ此ニ由テ己レノ義務ヲ免カル、ヲ得可シ語ヲ變ヘテ之ヲ言ヘハ論ス可キ者唯、物件アルノミ其價額ノ如キハ敢テ問フヲ要セスト某ノ年ポルドーニ於テ某ノ釀造シタル幾量ノ酒一樽ヲ余ヨリ汝ニ貸渡シタリトセンニ汝ヨリ同年同所ニ於テ同人ノ釀造シタル同量ノ酒一樽ヲ余ニ返還スレハ則チ汝ハ直ニ義務ヲ免カル、ヲ得可シ

自第九百二
條至第九百
三條

〔九百七十一號〕然レモ借主其借受ケタル物ト同一ノ物ヲ返還シ能ハサル時例之ハ滿期ニ至テモ猶ホ之ヲ購求ス可キノ金額ナキ時又ハ之ヲ購求セントスルモ其意ヲ果シ難キ時ハ何等ノ結果ヲ現出セシム可キヤ曰ク然ル時ハ借主ニ精算ヲ立ツ可キノ義務アルノミ併シ此精算トハ如何ナル精算ヲ謂フ乎貸渡サレシ物ノ精算ナル乎抑返

還ス可キ物ノ精算ナル乎

此問題ニ於テハ法律上ニ區別ノ在ル有リ若シ返還ノ場所ト其時日トチ雙方ノ者ニテ定メタル時ハ借主タル者其返還ス可キ時約束ノ場所ニ於テ其返還ス可キ物ニ屬スル代價ト同一ノ金額ヲ貸主ニ還附セサル可カラス余巴里ニ在テ當時五百「フラン」ノ價アル物ヲ汝ニ貸渡シ何日何時ニ於テ汝ヨリ同一ノ物ヲ受取ル可シト約シタリ然ルニ期日ニ至リ約束ノ所ニ於テ貸借ノ物ニ等シキ物ハ六百「フラン」又ハ四百「フラン」ノ價トナルニ至レリ斯ノ如キト有レハ則チ汝ハ余ニ六百「フラン」又ハ四百「フラン」ヲ拂ハサルヲ得ス倘シ汝ヨリ余ニ實物ヲ返還セシトナサハ余ニ於テハ此價額ヲ受取リシモ同様ナリ若シ返還ノ場所ト時日トノ取定ナキ時ハ貸借ノ成リシ場所ニ於テ其時契約ノ時物ニ屬セシ價ニ準シ借主ヨリ貸主ニ金額ヲ返還セサ

耗盡物ノ貸借ノ本質此貸借ヨリ生スル諸般ノ義務

ル可カラス

〔九百七十二號〕第二ノ場合 返還ス可キ物金額ナル時○借主ハ己レ
 ニ貸渡サレタル貨幣ト同一ノ貨幣ヲ返還スルヲ要セス其返還ス可
 キ者ハ其受取リシ金額ニ均シキ金額ナリ又余カ二十「フラン」ノ金貨
 ナ以テ汝ニ千「フラン」ヲ貸渡シタリトセンニ其後新法ノ頒布ニ因リ
 二十「フラン」ノ金貨二十五「フラン」又ハ十五「フラン」ノ相場トナリキ然
 ル時ハ汝ハ余ヨリ受取リシ金貨ニ均シキ金貨(即チ二十五「フラン」ノ
 金貨)五十箇ヲ余ニ返還スルノ義務ナシ汝ノ余ニ拂フ可キ者ハ余ノ
 貸渡シタル金額即チ千「フラン」ナリ何トナレハ金額ノ貸借ニ於テ雙
 方ノ者ノ見ル所ハ金貨ニ非スシテ之ニ屬スル價額幾許ナルヤニ在
 レハナリ

〔九百七十三號〕金塊ノ貸借ハ第一ノ條件ニ從ヒ以テ之ヲ處置ス可キ
 ナリ借主ハ嘗テ其受取リシ金塊ト同量同質ノ金塊ヲ返還セサル可
 カラス何トナレハ其借受ケシ物ハ金額ニ非スシテ金塊ナレハナリ
 〔九百七十四號〕借主ニ於テ約束ノ期限ニ至リ己レニ貸渡サレシ物又
 ハ其價額ヲ返還セサレハ裁判廳ニ訴ヘラレタル時ヨリ以來ノ利息
 ナ拂ハサル可カラス

○第二款 結約者ノ能力

〔九百七十五號〕第壹 貸主ノ能力
 耗盡物ノ貸借ハ貸主ニ取リテハ讓與ノ事業ナルヲ以テ讓與ヲ爲ス
 可キ能力ヲ有スル者ニアラスンハ之ヲ爲スヲ得ス
 故ニ幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、許可ヲ受ケサル婦ノ結ヒタル貸借契
 約ハ其効ナキ者トス然レモ是レ唯、右等ノ者ニ對シテ而已ニシテ借
 主ニ對シテハ總テ其効ノ生セサルハ無シ斯ク此契約ヲ借主ニ對シ

結約者ノ能力

テノミ効ヲ生セシメ無能力者ニ對シテ其効ナカラシムルハ是レ偏
ニ無能力者ヲ庇保センカ爲メノ目的ニ出シ者ト謂フ可シ此ノ如キ
定メ方ナルニ因リ無能力者ニアラスンハ以テ契約ヲ無効ナリト申
立ツルヲ得サルナリ
故ニ幼者若シ己レノ物ヲ貸渡シタル時ハ此物ノ有ラン限リ之ヲ取
戻スヲ得可ク又借主タル者ハ其借受ケタル物ニ意外ノ滅却アリ
シ時ト雖モ總テ之ヲ以テ己レノ責ト爲サ、ル可カラス蓋シ借主ハ
契約ヲ以テ無効ナリト申立ツルノ權ナキヲ以テ滅却ノ責ヲ無能力
者ニ負ハシムルヲ得サレハナリ若シ又借主ニ於テ良意カ又ハ惡意
ニテ借受ケノ物ヲ既ニ耗盡シ終リシ時ハ最早幼者ニ其取戻ノ權ヲ
シトス然リト雖モ其代リニ其曾テ貸渡セシ物ニ均シキ他ノ物ヲ定
期前ニ借主ニ請求スルノ權アリ

〔九百七十六號〕 所有ニ非サル物ノ貸借ニ附テハ如何例之ハ余ノ所有

ニ非サル酒一樽ヲ汝ニ貸渡シタリトセンニ此貸借ハ法ニ適從スル
者ナル乎曰ク否、何トナレハ貸渡サレシ物ニ均シキ物ヲ返還ス可キ
義務ハ其貸渡サレシ物ヲ耗盡ス可キ權即チ其所有權ヲ得ルコトニ由
リテ生スル者ナリ然ルニ此場合ニ於テハ貸主ニ其所有權ナケレハ
如何ソ借主ニ於テ之ヲ得可キノ理アラシヤ若シ貸借ノ物件遺失物
或ハ盜物ニ在レハ其効ナキヤ殊ニ明カナリトス此場合ニ於テハ借
主己レノ借受ケタル物ヲ其所有者ヨリ奪取セラル可シ(第二千二百
七十九條)

又貸借ノ物件遺失物ニモ非ス又盜物ニモ非サル時ト雖モ右ノ論理
ニ基キ以テ處置ヲ施サ、ル可カラス借主タル者惡意ニテ物ヲ借受
ケシニ非サレハ動産ニ附テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ

證書ヲ有スルニ等シト云ヘル規則ヲ引證シ所有者ノ取戻ヲ拒絕スルヲ得可キナリ

其レ然リ然レモ之ヲ引證スルト引證セサルトハ全ク借主ノ權内ニ在ルヲ以テ貸主ハ親カラ心中ニ於テ之ヲ引證スルノ不正タル所以ヲ明知シナカラ剩ヘ此規則ヲ借主ニ中立ツ可シト強迫スルヲ得可ケンヤ是ヲ以テ若シ意外ノ場合ニテ物ノ滅却スルコト有レハ借主ハ一モ其返還ス可キ物ナシ借主將ニ言ハントス余ハ汝ノ貸渡セシ物ノ所有者タランカ爲メ之ニ均シキ物ヲ返還ス可キ義務ヲ負ヒシナリ然ルニ汝ハ余ニ其所有權ヲ移轉セサリキ故ニ余ハ汝ヨリ受取リシ物ニ均シキ物ヲ返還ス可キ義務ナシトス

〔九百七十七號〕右ニ拘ハラス所有ニ非サル物ノ貸借ト雖モ其成立ス可キ場合ニ箇アリ

第一ノ場合 貸借ノ物件盜物若シハ遺失物ニ在ルモ借主良意ニテ既ニ之ヲ耗盡シ終リタル時〔第一千二百三十八條〕何トナレハ此場合ニ於テハ借主其所有權ノ利益ヲ受ケタレハナリ

第二ノ場合 貸借ノ物タル盜物タラス又遺失物タラサル時借主動産ニ附テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シト云ヘル規則ニ據リ所有者ノ取戻ヲ拒絕シ以テ其所有權ヲ得〔第一千二百七十九條〕又ハ良意ニテ既ニ之ヲ耗盡シ終ヘタル場合〔第一千二百三十八條〕

〔九百七十八號〕其レ既ニ斯ノ如シ然ラハ則チ貸借上ヨリ生スル對人ノ訴權ハ將タ誰ニ屬スヘキ乎貸主ニ屬ス可キ者ナルヤ抑所有者ニ屬ス可キ者ナルヤ余以爲ク貸主ニ屬ス可キ者ナリト貸主借主ニ對シテ將ニ言ハントス余ノ貸渡シタル物假令ヒ余ニ屬セサリシニモ

セニ汝ハ何ソ之ニ是非スルノ理アラフヤ此事ハ余ト所有者トニ於テ處置ス可キ事件ナリ且ツ余ニ於テ讓渡ヲ爲シ而シテ汝ニ得セシメタル所利益ハ余ヨリ汝ヲ眞ノ所有者ト爲シタルト毫モ異ナル所ナシ故ニ汝ハ余ニ對シ義務ヲ盡ス可キナリ汝ハ關係ナキ所有者ニ對シ義務ヲ盡スヲ要セサルナリト此論理ハ盜物ヲ貸渡シタル時ニ於テモ亦適用スルヲ得可キ者ナリ其故如何トナレハ盜賊ト雖モ借主ヨリ之ヲ見レハ眞ノ貸主タルニ相違ナケレハナリ是ヲ以テ所有者ノ故障ヲ申立テサル上ハ借主、貸主ニ返還ヲ爲シ以テ己レノ義務ヲ免カル、ヲ得可シ

〔九百七十九號〕 第貳 借主ノ能力

借主タラント欲スル者ハ義務ヲ負フ可キ能力有ルヲ緊要トス故ニ能力者借主トナリテ取結ヒシ貸借契約ハ法律上ニテ其効ナカル可

シ成程無能力者ニ返還ノ義務アルト有リト雖モ是レ貸借ニ就テ然ルニ非ス全ク道理上ノ原則即チ他人ニ損害ヲ被ムヲセ以テ己レヲ益ス可カラスト云ヘル原則之ヲ然ラシムルナリ是故ニ無能力者ノ借受ケシ物意外ノ場合又ハ其過失ニテ滅却スルト有ル時ハ其義務ハ直ニ消散ス可シ但シ詐詭有ル時ハ別段ナリトス然レヒ此場合ニテハ無能力者ノ外貸借契約ヲ以テ無効ナリト申立ツルノ權アラサレハ貸主ハ定期前ニ於テ物ノ返還ヲ請求スルトヲ得サル可シ

○第三款 使用物ノ貸借ト耗盡物ノ貸借ノ差違

○使用物ノ貸借

〔九百八十號〕 第一 物ヲ貸渡ス 第一 物ヲ貸渡ハ其使用ヲ許

使用物ノ貸借ト耗盡物ノ貸借ノ差違

ハ其使用ヲ許スカ爲メナリト
雖モ是ニ由テ其耗盡セサルヲ

スカ爲メニシテ是ニ由テ其耗
盡スルニ至ルヲ要ス

要ス

第二 貸主ハ引續テ其貸渡シ
タル物ノ所有權ヲ保有ス

第二 貸主ハ其貸渡シタル物
ヲ讓與スルナリ

第三 借主ハ確定物ノ負債主
トナルナリ何トナレハ其返還
ス可キ者ハ其借受ケシ者ナレ
ハナリ

第三 借主ハ一種類中ノ物ノ
負債主トナルナリ何トナレハ
其返還ス可キ者ハ貸渡サレシ
物ニ非スシテ之ニ均シキ物ナ
レハナリ

第四 貸渡サレシ物全ク意外
ノ場合ニ於テ滅却スルコト有レ

第四 貸渡サレシ物全ク意外
ノ場合ニ於テ滅却スルコト有リ

ハ借主ノ義務ハ其目的ナキニ
由リ自カラ消散スルニ至ル可
シ

ト雖モ借主ハ此ニ由テ其義務
ヲ免カル、ヲ得ス何トナレハ
其義務ノ目的ハ滅却セシ物ニ
在ラスシテ其一種類中ノ物ニ
在レハナリ

第五 使用物ノ貸借ハ必シモ
報酬ナキヲ要ス

第五 耗盡物ノ貸借ハ道理上
ニテ報酬ナキヲ要スルノミ

第六 貸主ハ定期前ト雖モ其
物ニ不圖至急ノ要用アル旨ヲ
證シ以テ其返還ヲ請求スルヲ
得可シ

第六 貸主ハ此特權ヲ有セス

○第三章 利息附ノ貸借

利息附ノ貸借

第一千九百五條

〔九百八十一號〕利息附ノ貸借トハ貸主一時其物ヲ失フニ附キ其償ヲ得ルノ約束ニテ借主ト取結ヒシ所ノ耗盡物ノ貸借ナリ(書式三百七十一號以下參觀)

故ニ利息トハ貸渡ノ價額ト返還ノ價額トノ間ノ餘分ノ差引キ高ナ

リ

高利トハ過分ノ利息即チ利息法ノ制限ヲ超過スル所ノ利息ナリ

羅馬法律ニ就テ考フルニ十二法ノ行ハル、ニ際シテヤ利息ノ割合

ハ百分ノ十二ト定テ在リキ其後度々法律ノ頒布アリテ或ハ利息ヲ

禁制シ或ハ之ヲ許シ或ハ之ヲ制限セシメ有リシカヨユスチニヤン

帝ノ代ニ至リ終ニ利息ノ制限ヲ設ケ貴人ニ附テハ百分ノ四商人ニ

附テハ百分ノ八其他ノ人ニ附テハ百分ノ六ト定メタリ

我カ古法ニ於テハ「カノ」法(寺法)ニ倣ヒ度々國王ヨリ布令ヲ出シ貸

借上ニ於テ利息取立ノ約ヲ結フヲ禁シタリ此禁ヲ犯スコハ則チ一箇ノ高利貸(ユシユール)ト名ツクル犯罪ニシテ人之ヲ目シテ重罪ニ準擬シタリ

此布令ハ慣習法ノ行ハル、地方ニ於テ普通法トナルニ至レリ

成文法ノ行ハル、地方ニ於テハ羅馬法ニ少シク制限ヲ加ヘ以テ之

ヲ遵守シタリ

〔九百八十二號〕ドロリアンテレンシエル中世法律ハ右ニ反シ利息附ノ貸借ヲ爲スコヲ許シ商

事上ニ於テハ利息割合ノ定方ヲ以テ雙方ノ者ノ自由ト爲シ民事上

ニ於テノミ之ニ制限ヲ加ヘ其割合ヲ以テ百分ノ五ト定メタリ(千七

百八十九年十月二日立憲政府ノ決議)其後ノ法律(千七百九十三年四

月十一日)ハ民事上ニ於テモ利息ノ割合ヲ以テ締約者ノ意向ニ任セ

リ此時ヨリ以來民事上ト商事上トニ關セス百分ノ五ニテナリ百分

利息附ノ貸借

ノ十ニテナリ又ハ百分ノ百ニテナリ總テ人々ノ欲スル所ノ割合ニ於テ利息附ノ貸借ヲ爲スヲ得タリ

我古法ニテ利息附ノ貸借チ一切禁シタルヨリ法ヲ避クルヲ欲セサル者ハ無償ノ貸借ノ少シモ其利益トナラサルヲ見テ唯其資本ヲ保有シ又法ヲ遵奉セサル者ハ其數實ニ夥シク皆チ百方術ヲ盡シテ法ヲ避ケント欲シ刑罰ニ觸ル、^一チチモ顧ミス貸主ハ高額ノ利息ヲ借主ニ約諾セシメリ故ニ其弊ヤ資本ノ融通ヲ梗塞シ商工ノ二業ヲ衰頽セシメタル而已ナラス刑ニ觸ル、者チモ續々輩出セシムルニ至レリ

中世法律ニ於テ利息ノ割合ヲ雙方ノ自由ニ歸セシ事モ亦大弊害ヲ醸スノ原因トナリシ

第一千九百七條〔九百八十三號〕民法編纂者ハ此弊害ヲ防制スルノ緊要タル所以ヲ知

察セサリシニ非サレトモ如何セン當時ノ形勢ニ於テハ之ヲ防制スル法度ヲ設クル好機會ノ有ラサリシチ、因テ利息附ノ貸借ヲ許可シ而シテ中世法律ニ於ケルカ如ク利息ノ割合ヲ雙方ノ自由トナシタリ

然レモ貸主ヨリ過分ノ利息ヲ取立ツルノ弊ヲ防カント欲セシナリ而シテ之ヲ防カントハ貸主ヨリ借主ニ約諾セシメタル利息ノ割合ヲ證書ニ記載セシムルニ在リトナセシ蓋シ立法者ハ貸主カ其慾心ノ證書面ニ寫シテ世人ノ之ヲ知ルヲ恐レ以テ過分ノ利息ヲ約諾セシムルノ意ノ屢ナカラントチ希圖セシナリ

然ル故貸主ヨリ貸渡シタル金額ト其約諾セシメタル利息ノ割合トチ明白ニ區別セシメ以テ之ヲ證書ニ記載セシムルヲ緊要トセシナリ若シ元金ヲ以テ其利息ト混淆スルヲ許セハ是ニ由テ法ヲ避クル

ハ實ニ容易ナルニ至ラン

是ヲ以テ利息ノ割合ト元金ノ高トヲ證スルニ足ル者ハ其證書ノミ
ニシテ證人ニテハ勿論負債主ノ自由アリト雖モ之ヲ以テ其證トナ
スヲ得サリキ法律ニテ高利貸ノ慾心ヲ寫スニ足ル確乎不滅ノ證ヲ
存セシムルハ之カ其慾心ノ露ハル、ヲ耻テ善道ニ入ラントナシテ希圖
シテナリ

〔九百八十四號〕 民法ニテハ利息ノ割合ヲ結約者ノ協議ニテ定ムルヲ
許スニモセヨ其條目中ニ總テ法ニテ之ヲ禁セサル場合ト云フ詞ヲ
加ヘタリ當時ニ於テハ其禁制法ナカリシト雖モ之ヲ設クルノ緊要
ナルハ既ニ人ノ知ル所トナリ而シテ其制限法ノ發行セラレシハ僅
ニ民法頒布ヨリ四年後即チ千八百七七年九月三日ニ在リ此法ニ言ヘ
ル有リ爾後契約上ノ利息ハ民事上ニ於テ百分ノ五ヲ超ヘ商事上ニ

ニテ特ニ利息ヲ騰貴スルヲ許スハ商人其借受ケタル金額ヨリ利
ヲ得ルノ大ニシ且ツ貸主ニ大ナル危險アルヲ以テナリ

〔附言〕 民事商事ノ訴訟中ニ貸借ノ利息法律ノ定限ヲ超過シタル
ノ證アル時ハ法律ヲ以テ其利息ノ高ヲ法律上ノ利息ニ改算シ尙
ホ餘分アレハ之ヲ元金ニ算入ス可シ○若シ元利共ニ消却ノ後チ
ナル時ハ貸主チシテ利息ノ越高ニ拂方チナシタル日以後ノ利息
ヲ加ヘ之ヲ返還セシム(高利ノ負債ニ關スル千八百五十年十二月
十九日法律第一條參觀)

千八百七七年九月三日ノ法律ハ第九百七條ノ如ク證書ヲ以テ利息
ノ割合ヲ定ム可シト令セス其然ル所以ハ既ニ結約者ノ超ユ可カラ
サル境界ヲ定メタルヲ以テ其許容ノ利息ニテ貸借ヲ爲スハ少シモ
耻ツ可キヲニ非ストナレハナリ此一點ニ於テハ民法ノ規則ハ暗ニ

千八百七七年九月三日ノ法ニテ廢セラレタリト云フヲ得可シ故ニ現今利息ノ割合ヲ證スルニハ如何ナル場合ニ於ケルモ宣誓或ハ負債主ノ自白ヲ用フルヲ得可シ又證人ヲ許サル、場合ニ於テハ證人ヲ用フルヲ得可キナリ

〔九百八十五號〕民法ハ金額ノ貸借ニ就テモ又飲食物或ハ其他不動産ニ就テモ雙方ノ者ノ協議ニテ利息ノ割合ヲ取定ムルヲ許ストノ明文ヲ舉クルト雖モ千八百七七年九月三日ノ法ハ金額ノ貸借ニ就テノミ其利息ヲ制限スルニ過キス故ニ現今ニ於テモ飲食物又ハ其他ノ動産ノ貸借ニ就テハ百分ノ五又ハ百分ノ六以上ノ割合ニテ利息ヲ約諾セシムルヲ得可キナリ故ニ余五百「フラン」ノ價アル酒一樽ヲ貸渡スニ方リ借主ヲシテ一箇年ノ後テ之ニ均シキ酒一樽ト其外利息ノ名義ニテ百「フラン」トヲ返還ス可キヲ約諾セシムルヲ得可シ

第一千九百六條

〔九百八十六號〕

千八百七七年九月三日ノ法ハ第一千九百六條ヲモ亦第一千

九百八條ヲモ廢シタルニ非サルナリ故ニ借主ニ於テ己レノ約諾セサル利息ヲ拂ヒシ時ハ最早之ヲ取戻スヲ得ス又之ヲ元金ニ充テ用フルヲ得ス蓋シ法律上ニ於テ借主カ之ヲ拂ヒシハ全ク其正當ナリト認メル自然ノ義務ヲ盡スカ爲メナラント推測スルナリ然リ而シテ自然ノ義務ヲ隨意ニ盡スカ爲メ物ヲ拂ヒシ時ハ最早之ヲ取戻スヲ得ストハ固ヨリ是レ一般ノ原則ナレハナリ〔第一千二百三十五條〕○義務ヲ盡スカ爲メ物ヲ拂ヒシコアルモ全ク其誤謬ニ出テタル時ハ之ヲ以テ隨意ノ仕拂ヒナリト思考ス可カラス若シ斯ノ如キ事アルニ於テハ負債主即チ誤テ物ヲ拂ヒシ己レノ誤謬ニテ拂ヒシヲ證シ之ヲ取戻スヲ得可シ譬ヘハ茲ニ相續人アリテ其先人ノ負債ハ利息ヲ生ス可キ者ナリト誤認シ而シテ之ヲ拂ヒシ時ハ其然ル

利息附ノ貸借

所以ヲ證シ直ニ之ヲ取戻スノ權アリ

第一千九百八條

〔九百八十七號〕

利息ノ事ヲ別段附記セサル元金ノ請取書アル時ハ借主ニ於テ既ニ其利息ヲモ拂ヒシト推測ス可シト云ヘル規則アリ

此推測ハ反對ノ證ヲ以テ擊破シ得可キ者ニ非ス何トナレハ第一千九百八條ハ始メニ此推測ヲ擧ケ而シテ更ニ此請取書ハ借主ニ其義務

(利息ヲ拂フノ義務)ヲ免カレシムト公言スレハナリ

且夫レ此推測ハ至極道理ニ適スル者ト謂フ可シ今既ニ請求シ得ル利息ト雖モ決シテ利息ヲ生スルヲ無ク且ツ其時効ノ期限モ餘程短少ニシテ僅ニ五年間(第一千二百七十七條)タルニ過キサレハ債主ハ之ヲ請求ス可キ權ヲ保有セシヨリ寧ロ利息ヲ生スル元金ノ請求權ヲ保有スルノ利アルニ如カサルナリ

此ノ如キ理由ナルヲ以テ法ノ借主ニ許ス所ハ之カ既ニ請求シ得ル

ル利息ヲ借主ノ拂ヒシ元金ニ算當ス可キノ權ヲ以テス故ニ若シ債主ニ於テ其請求シ得ル利息ノ事ヲ附記セサル受取書ヲ引渡シタル時ハ此ニ由テ之カ利息ヲ受取りシナラント推測スルハ豈ニ其レ自然ナルヲニ非スヤ

〔九百八十八號〕利息ノ變シテ元金トナリ而シテ利息ヲ生スルニ至ルハ之ヲ請求シ得ル時ヨリ一箇年ノ經過ス可キヲ要ス(第二帙千五百十七號ヨリ千百六十號參觀)

〔九百八十九號〕我輩ノ未タ講究セサル所ノ件アリ即チ遲滯ノ利息ニエシテレモラトワール)及ヒ法律上ノ利息ノ事是ナリ

遲滯ノ利息(「エンテレー、モラトワール」「エンテレー」ハ利息ナリ「モラトワール」ハ羅典ノ「モラー」ヨリ出ツ「モラー」ハ遲延ノ義ナリ)トハ雙方ニテ明白ノ約束ヲ爲サ、リシ時法律上負債主ノ辨濟ヲ遲滯セシ日ヨ

リ償金トシテ債主ニ得セシムル所ノ利息ヲ謂フ一般ノ原則ニ據レハ金額ノ負債主カ返還ヲ遅延シタリト稱シ得ルハ之カ返還ノ訴ヲ受ケシ時ヨリ以後ニ限ル可ク唯、期限ノ満チシ事又ハ返還ノ催促ヲ受ケシ事而已ニテハ之カ返還ヲ遅滞シタリト言フヲ得サルナリ故ニ遲滞ノ利息ハ自然ニ生ス可キ者ニ非ス而シテ其生シ始マルハ債主ノ裁判廳ニ出訴セシ時ヨリ以後ニ限ル可キナリ

余ヨリ一年間汝ニ利息ナキ約定ニテ千「フラン」ヲ貸渡シタリトセンニ期滿ツルモ仍ホ汝ハ余ニ返還スルコトナク余ニ夥多ノ損害ヲ被ムラシメタリ然レモ余ニ償トシテ収受シ得可キ者ハ唯ニ百分ノ五又ハ百分ノ六ノ利息タルニ過キス加之其生シ始マルハ期限ノ満チシ日ヨリ以後ニ非スシテ余ノ汝ニ對シテ訴ヲ起セシ日ヨリ以後ニ在リトス是ヲ以テ余ノ訴ヲ起セシ日ニ汝ヨリ余ニ返還ヲ爲サハ余ハ

一モ償ヲ得ルコト能ハサル可シ若又汝ノ返還ヲ爲セシヤ出訴ノ日若クハ其二三日内ニ在レハ余ノ受取ル可キ所、實ニ瑣細ノ償金タルノ
 (第二帙千百五十號)

法律ノ意タルヤ余ノ訴ヲ起ス時迄余ノ金額ハ其請求ナキヲ以テ余ニ無用ナリトシ且ツ假令ヒ余ニ於テ訴ヲ起ス時ト雖モ余ハ之ヲ以テ其百分ノ五又ハ百分ノ六ヨリ以上ノ利ヲ得ルニ至ラサル可シト爲スナリ其レ或ハ然ラン、然リト雖モ法律ノ債主ヲ遇スルヤ蓋シ又酷ニ過クル所アリト謂フ可シ

右ノ事ハ措テ論セス債主ニ益有ル事一アリ今之ヲ注目セン乃チ債主タル者期限後ニ至リ仍ホ返還ヲ得ス然ルモ此ニ由テ敢テ損害ヲ被ムラサル時ト雖モ其裁判廳ニ訴ヘタル時ヨリ百分ノ五又ハ百分ノ六ノ利息ヲ請求シ得可キ事はナリ

〔九百九十號〕 例外ノ場合ニ於テハ返還ノ催促アル日ヨリ利息ノ生スルコトアリ又返還ノ催促ナクトモ訴ノ起ルコトナクトモ其自カラ生スルコトアリ(第千七百七十四條、第千六百五十二條及第二千一條)然ル時ハ之ヲ法律上ノ利息ト云フ遲滞ノ利息モ亦法律上ノ利息ニ相違ナシトス何トナレハ之ヲ生セシム可キハ法律ナレハナリ

然レモ此ニ遲滞ノ利息ト言ヘル名稱アル所以ハ負債主其返還ヲ遲延シタル日ヨリ以後ニアラスンハ之ヲ請求シ得サルヲ以テナリ

又保證人社員及ヒ爲替手形所持人ノ利益ノ爲メ制定ノ一例外アリ此等ノ者ハ催促ヲ爲サスト雖モ利息ハ法律上ニ於テ當然ニ生スルニ至ル可ク且ツ資本ノ返還ナキニ附キ利ヲ得ル能ハサリシカ又ハ法律上ノ利息ヨリ鉅大ノ損害ヲ被ムリシ時ハ利息ノ外尙ホ多少ノ償金ヲ請求スルノ權アリ(第千八百四十六條、第二千二十八條)○商法

第七十八條及第八十四條○第二帙千五百五十六號ヲ參觀ス可シ

○年金

第千九百九條
第千九百六條
第千五百三條

〔九百九十一號〕 年金トハ利息銀(アレタージュ)ト名ツクル定期ノ供給ヲ請求ス可キノ權利ナリ

年金ニ無期ノ者アリ又畢生間ノ者アリ

無期年金トハ資本ヲ渡シ置キ其利息ヲ請求スルノ權利ニシテ此資本ハ債主之ヲ取戻スヲ得スト雖モ負債主ハ隨意ニ之ヲ返還スルヲ得可キナリ

畢生間年金トハ資本ヲ渡シ置キ債主ノ存命中又時トシテハ約定ノ期限間其利息ヲ請求ス可キ權利ニシテ此資本ハ債主モ取戻スヲ能ハス負債主モ返還スルヲ得サルナリ

○第一章 無期年金

年金 無期年金

○第一款 古法ノ無期年金

〔九百九十二號〕無期年金ヲ分別シテ二トス、一ヲ設置ノ年金ト謂ヒ一
ヲ不動産上ノ年金ト謂フ

○第一節 設置ノ年金

ラント、コンスタチエ

〔九百九十三號〕設置ノ年金トハ金額又ハ日用品ヲ定期ニ請求ス可キ
權利ナリキ此權利ヲ得ルニハ動産ヲ讓與シ以テ負債主「アレラーシ
ユ」〔即チ金額或ハ飲食物〕ヲ拂フ可キ義務ヲ負ハシメ且ツ此資本ノ返
還ニテ此義務ヲ免カレ得ル權ヲ之ニ付與スルヲ緊要ナリトセリ
利息附ノ貸借ハ古法ノ禁スル所タリシヲ以テ資本ヲ有スル者ニ其
入額ヲ得セシメ又金額ノ入用アル者ニ其財産ヲ賣却セスシテ金額
ヲ得セシムルカ爲メ遂ニ設置ノ年金ヲ創定スルニ至リキ
余ヨリ足下ニ何年間各歳百分ノ五ノ利息ニテ二萬「フラン」ヲ貸渡シ

タリトセハ此契約ヤ其効ヲ生スル能ハス蓋シ法律上之ヲ目シテ不
正ノ契約トセシカ故ナリ

余ヨリ足下ニ期限ヲ定メスシテ二萬「フラン」ヲ讓與シ最早之ヲ足下
ニ請求セサル旨ヲ約シ又足下ハ其償トシテ足下及ヒ足下ノ相續人
ヨリ余及ヒ余ノ相續人ニ各歳千「フラン」ノ息銀ヲ拂フ可キ旨ヲ約シ
タリトセハ此契約ハ適正ノ者トセラレタリ

故ニ金額ハ之ヲ貸スルヲ得サリシナリト雖モ何トナレハ金額
ヲ貸スルハ則チ利息ヲ得可キ約ヲ以テ之ヲ貸渡スト同一ナレハ
ナリ金額ヲ讓與スルハ法ノ禁セサル所ナルヲ以テ金額ヲ貸渡シ以
テ利息ヲ得ルニ其期限ヲ定ムル時ハ則チ不正ノ事トナリテ法禁ニ
觸ル、無キ能ハス之ニ反シテ其期限ヲ定メサル時ハ適正ノ事ト爲
リテ法禁ニ觸ル、ヲ免カレリ蓋シ設置ノ年金トハ無期ノ貸借ト毫

古法ノ無期年金 設置ノ年金

モ異ナル所アル無シ何トナレハ息銀ト名ツクル利息ノ拂方ヲ遲滯セサル以上ハ元金ノ請求ヲ爲シ得サルニモセヨ借主ハ隨意ニ之ヲ返還ス可キノ權アレハナリ

但シ何レノ場合ニ於ケルモ百分ノ五以上ニテ息銀ヲ約諾(借主ニ)セシムルハ法ノ許サ、ル所ナリ

〔九百九十四號〕 設置ノ年金ハ本來必ス買戻ス可キ者トス本來必スト言ヘハ則チ如何ナル反對ノ約アリテモト謂フ意ナリ又買戻シテ得可キトハ則チ息銀ノ負債主ニ於テ資本ヲ返還シ之ヲ拂フ可キ義務ヲ免カレ得ルヲ謂フナリ

買戻スト言ヘル語ハ既ニ賣却シタル物ヲ取戻スノ謂ヒナリ然ラハ則チ息銀ノ負債主ハ何物ヲ賣却ス可キ乎曰ク息銀ヲ拂フ可キ義務即チ是ナリ故ニ息銀ヲ請求ス可キ權ハ賣却物ニシテ其代價

ハ元金ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ年金ノ設置ハ買戻ノ權ヲ保有シテ息銀ヲ拂フ可キ義務ヲ賣渡スヲナリト謂フチ得可シ此買戻ノ權ハ別段ノ約束ナキモ賣主其都合ニ因リ之ヲ行フチ得可ク且ツ之ヲ拋棄シ能ハサルナリ

○第二節 不動産上ノ年金

ラントフオンシエール

〔九百九十五號〕 不動産上ノ年金トハ分支ノ所有權ニシテ既ニ讓與シタル不動産ニ保存セシ者ナリ此處ニ言ヘル分支ノ所有權トハ不動産ヲ讓與シタル者永世間即チ自己ト相續人ノ爲メ其讓與ヲ受ケタル者又ハ之ヲ所有スル者ニ對シ定期ノ供給ヲ請求ス可キ權ヲ謂フナリ

〔九百九十六號〕 年金ニテノ賃貸ト稱セシ者ハ例之ハ余ヨリ足下ニ不

不動産上ノ年金

動産ヲ讓與シ各歳息銀トシテ金額日用品又ハ畜類ノ如キ物ヲ利分
 トシテ足下ヨリ收受ス可キ旨ヲ約シ且ツ其供給ヲ保證スル爲メ此
 不動産上ノ物權ヲ余ニ保存セシムル所ノ契約ヲ謂フナリ而シテ此
 息銀ヲ請求ス可キ權ヲ不動産上ノ年金ト謂フナリ此ニ謂フ所ノ不
 動産上ニ保存セル物權ハ書入權ノ如ク其不動産ノ何人ニ移轉セシ
 ヤニ關セス何處迄モ之ニ從屬シ而シテ息銀ノ債主ヲシテ其全部又
 ハ其一部分ヲ所有スル人ヨリ息銀ヲ請求スルヲ得セシメタリ蓋シ
 此物權ハ書入權ノ如ク分ツ可カラサル者ナリキ然レモ不動産ヲ所
 有スル者ハ之ヲ所有スルコトニ附キ利分ヲ拂フノ義務アル而已ニテ
 己レノ身上ニ一モ負擔スル所有ヲサレハ現今書入ノ不動産ヲ所有
 トナシタル者ノ如ク之ヲ拋棄シ以テ己レノ義務ヲ免カル、ヲ得タ
 リハ此拋棄ヲ稱シテ財產棄捐(デゲルピスマン)ト謂ヘリ

[九百九十七號] 茲ニ一ノ注視ス可キ事アリ即チ息銀ヲ拂フ可キ義務
 ヲ負ヒ以テ不動産ノ讓與ヲ受ケタル者(即チ其讓渡人ニ契約ヲ爲シ
 タル者)己レノ身上ニ義務ヲ負フヲ要セス而シテ書入ノ不動産ヲ所
 有トナシタル者ノ如ク之ヲ拋棄シ以テ息銀ヲ拂フ可キノ義務ヲ免
 カレ得可キコト是ナリ故ニ眞ノ負債主ハ即チ不動産ナリト謂フ可シ
 然レモ不動産ノ讓與ヲ受ケタル者息銀ヲ拂フ可キ義務ヲ行ヒ且ツ
 之ヲ全フスルコト其讓與者ニ約シタル時ハ別段ナリトス此場合ニ
 於テハ此者ノ身上ニ義務アルヲ以テ不動産ヲ拋棄スト雖モ義務ヲ
 免カル、ノ權ナシ而シテ此別約ヲ證書中ニ記入ス可キハ遂ニ一種
 ノ風ト爲リシニ因リ年金ニテ賃貸證書ニ於テ其記載セラレサルヤ
 甚タ渺ナカリシト謂フ

是ヲ以テ不動産上ノ年金ハ設置ノ年金ノ如ク唯ニ息銀ヲ請求ス可

キ人権ニ非スシテ息銀ニ於ケル物權即チ眞ノ分支ナリト謂フ可キナリ

〔九百九十八號〕設置ノ年金ハ本來必ス買戻スヲ得可シ(九百九十四號)ト雖モ不動産上ノ年金ハ之ヲ買戻スヲ得サリシハ通常一般ノ規則ナリキ或人言ヘルアリ此年金ハ眞ノ所有權タルヲ以テ其賣戻ヲ爲ス時ハ是レ之ヲ剝奪スルナリ故ニ此權ヲ有スル者ノ承諾アラズンハ之ヲ剝奪スルヲ得スト

例外ニ於テ不動産上ノ年金ト雖モ之ヲ買戻スヲ得可キ場合二箇アリ

其一 契約ノ時買戻ノ權ヲ行ヒ得可キ旨ヲ別段ニ約シタル時

其二 此別段ノ契約ノ有無ニ關セス讓與サレタル不動産家屋ニシテ都市中ニ在ル時○各歲拂フ可キ息銀ノ高家屋ノ貸賃ヲ越ユルヲ

間有ルニ由リ之ヲ所有ト爲シタル者之ヲ滅却セシムルニ於テ大ニ利アリ何トナレハ物ノ滅却ニ附キ年金ノ消滅セルハ猶ホ現今物ノ滅却ニ附キ書入權ノ消滅スルカコトクナレハナリ故ニ義務者ニ於テ之ヲ滅却セシムルノ弊ヲ防制シ以テ公私ノ利益ヲ圖ラント欲シ此場合ニ於テハ年金ノ買戻ヲ許セシナリ

〔九百九十九號〕千七百八十九年八月十一日ノ法律及ヒ千七百九十年九月二十九日ノ法律ハ資本ノ流通ヲ易カラシメシメカ爲メ無期ノ不動産上ノ年金ト雖モ之ヲ買戻スヲ得可シト決定シタリ

○第二款 民法ノ無期年金

〔千號〕我民法ハ年金ヲ以テ設置ノ年金ト(即チ動産ノ資本ヲ讓與シ以テ得タル息銀請求ノ人権)不動産上ノ年金(即チ讓渡セシ不動産上ニ保存セシメタル物權)ニシテ其讓與者ニ之ヲ所持スル者ヨリ息銀ヲ

請求セシメ得ル者トニ區別セス故ニ現今ニ在テ總テ年金ト稱スル者ハ動産資本ノ讓與ヨリ成立セシ者ト不動産ノ讓與ヨリ成立セシ者トニ關セス唯息銀ヲ請求スル一人ノ人權タルニ過キス(千十三號參觀)

然レ他ノ點ニ附キ法律上ニテ動産資本ノ讓與ヨリ成立シタル年金ト不動産ノ讓與ヨリ成立シタル年金トノ間ニ設ケタル差違夥多アリ是レ我輩ノ後ニ於テ講究セントスル所ナリ(千十六號參觀)

○第一節 動産資本ノ讓與又ハ無償ノ名義ニテ設定セシ無期年金

〔千一號〕 第壹 總論

現今利息附ノ貸借ハ法律ノ禁セサル所タルヲ以テ年金ハ其用ヲ爲ス最モ妙ナク古法ノ時代ニ比スレハ其方法ヲ用フル者モ亦尠ナ

シトス

然レ民法ハ年金設定ノ契約ヲ掲ケ而シテ唯之ニ僅少ノ改正ヲ加ヘタル而已ナリ

茲ニ吾人ノ意ヲ用ヒテ注視ス可キハ民法ニ於テ利息附ノ貸借ノ款ニ年金ノ事ヲ載セ且ツ其年金ヲ成立セシムル契約ニ貸借ノ名稱ヲ附セシ事是ナリ

第千九百九條ニ資本(動産)ヲ貸渡シテ之ヲ取戻スヲナク唯其利息ノミヲ得可キ契約ヲ爲スヲ得可シ此類ノ貸借ヲ名ツケテ年金ノ設置ト謂ヒ契約シタル利息ヲアレラージユト謂フトアリ

是レ蓋シ年金ノ設置ハ到底貸借ノ一種類ニ外ナラサルヲ以テナラズ年ノ負債主ノ如ク資本ヲ受取リ其所有者トナリ以テ之ヲ隨意ニ取扱フヲ得且ツ己レノ受取リシ資本ト同額ノ資本ヲ返還シ以テ

動産資本ノ讓與又ハ無償ノ名義ニテ設定セシ無期年金

利息仕拂ノ義務ヲ免カル、ヲ得可キナリ

然レモ貸借ト年金ノ設置ト其間異ナル所ナキニシモ非ス即チ年金ノ設置ニ附キ資本ヲ讓與シタル者ハ何レノ時ニ於ケルモ同額ノ資本ヲ請求シ得サル事是故ニ其返還ヲ爲スト爲サ、ルトハ全ク借主ノ勝手タリトス故ニ債主ノ人権ノ目的タルヤ資本ニ在ラスシテ息銀ニ在ルヲ知ル可シ負債主ハ息銀ヲ拂フ可キノ義務アル而已ニシテ其之ヲ遲滞ナク拂フ上ハ一モ他ヨリ請求セラル、者ナシ加之若シ此義務ヲ免カル、ヲ欲セハ唯、資本ヲ返還スルヲ以テ足レリトス」右ニ反シ貸借ニ於テハ貸主タル者約定ノ期滿ツレハ何レノ時ニテモ資本ノ返還ヲ請求スルヲ得可キナリ是レ其人権ノ目的タルヤ全ク利息ノミニ止ラスシテ多クハ之ヲ生スルノ資本ニ在レハナリ

〔千二號〕金額ノ讓與ヲ以テ設置シタル年金ハ到底利足附ノ貸借ノ一種類ニ外ナラサルニ由リ通常貸借ト同シク千八百七年九月三日ノ法律ノ域内ニ在ル者トス故ニ息銀ノ割合タルヤ尋常ノ利息ノ割合ノ如ク民事上ニ於テ百分ノ五ヲ超ヘ商事上ニ於テ百分ノ六ヲ超ユルヲ得ス

讀者ノ宜シク茲ニ意ヲ留ムヘキコトアリ總テ利息ノ變シテ元金トナリ而シテ利息ヲ生スルニ至ルハ之ヲ請求シ得ル時ヨリ一年間ヲ經過スルヲ要ス(第千百五十四條)ト雖モ息銀ノ變シテ元金トナリ而シテ利息ヲ生スルニ至ルハ其請求セラレ得ル時ヨリ三箇月又ハ六箇月ナリ總テ一年以内ノ定期ノ經過シタルコトニテ充分トナスヲ得ルコト即チ是ナリ(第千百五十五條)

〔千三號〕年金ハ要償ノ名義ヲ以テセストモ之ヲ設置スルヲ得可キナリ故ニ之ヲ設置スルニハ贈與ニテナリ又遺囑ニテナリ總テ無償ノ

動産資本ノ讓與又ハ無償ノ名義ニテ設定セシ無期年金

名義ヲ以テスルヲ得可シ然レモ斯ノ如クシテ設置シタル年金ハ貸借ト一モ類似スル所ナシトス

第九百一十一條〔千四號〕 第貳 年金ノ買戻

第九百一十一條ニ設置ノ年金ハ本來必ス之ヲ買戻スヲ得可シト云ヘル原則アリ其意蓋シ負債主ヲシテ己レノ代ヨリ子々孫々ノ代ニ至ル迄其債主及ヒ其相續人ニ各歲利分ヲ拂フ可キノ義務ヲ負ハシ置キテ一モ之ヲ脱スルノ方法ヲ授ケサルハ天然ノ自由ノ理ニ反シ世上ノ融通ヲ害スル者ト爲セハナリ

然レモ債主ハ便利ノ所ニ資本ヲ附シ當分之ヲ動カスニ及ハスト安堵セシヨリ未ダ數日ナラスシテ卒然之ヲ受取ラサルヲ得サルカ如キ事アレハ又奔走シテ之ヲ預ク可キ相當ノ所ヲ搜索セサルヲ得ス果シテ然ラハ債主ノ不幸ヤ亦甚シキ者アリト謂フ可シ依テ法律ハ

十年内ニ於テハ年金ヲ買戻スヲ得スト云ヘル別約ヲ結フヲ許セリ此一點ニ附テハ民法ハ古法ヲ換用シタル者ト謂フ可シ蓋シ古法ニテハ期限ノ長短ニ關セス總テ買戻ノ妨碍トナル別約ヲ爲スヲ禁セシナリ

然レモ法律カ十年以上ノ期限間ニ於テ年金ハ買戻スヲ得スト云フ別約ヲ爲スヲ禁スルハ是レ何ノ故リヤ余ハ之ヲ辯明スルニ足ル一ノ理由アルヲ見サルナリ夫レ年金ノ設置トハ貸借ノ一種類タルヲ免カレサルナリ然リ而シテ貸借ニ於テハ借主タル者ハ十五箇年又ハ二十箇年又ハ四十箇年間返還ヲ爲スヲ得サル可シト云フ別約ヲ結フモ妨ケナク且ツ法モ之ヲ禁セサルナリ斯ノ如キ別約ハ貸借上ニ於テ少シモ公益ニ害アル所ナシト爲シ更ニ之ヲ以テ年金ノ設置上ニハ其患ナキ能ハスト爲スハ蓋シ亦奇ナラスヤ

動産資本ノ讓與又ハ無償ノ名義ニテ設定セシ無期年金

〔千五號〕 雙方ノ者十年以上ノ期限ニテ此別約ヲ爲スト雖モ全ク其効
ナキニ非ス唯其期限カ法律上ニ減縮セラレ、而已ナリ(第千六十條
ニ基ク)

〔千六號〕 買戻ハ十年ノ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲サ、ル旨ヲ約
シ得ルノミナラス猶ホ買戻ヲ爲スニハ其幾日前ニ豫メ債主ニ通知
セシムルハ之ヲ行ハサルヘシト約スルヲ得可キナリ

第千九百十二
條第千九百十
三條

〔千七號〕 第參 債主ハ資本ノ返還ヲ請求スルヲ得スト云フ原則ノ例
外

債主ハ息銀ヲ請求スル權利ヲ得ルカ爲メ且ツ負債主ノ懈怠ナク其
義務ヲ行フヲ暗ニ之ニ約諾セシメテ資本ヲ讓與シタルナリ故ニ
負債主ヨリ其義務ヲ怠タリタル時ハ之ヲ取戻スノ權ナカラサル可
カラズ是ヲ以テ債主ハ左ノ場合ニ於テハ資本ノ返還ヲ請求スルノ

權アリ

〔千八號〕 第一 負債主ヨリ二年間其義務ヲ盡サ、ル時〇此文章ハ之

ヲ二様ノ意ニ解スルヲ得可キナリ其文字ニ就テ之ヲ解スレハ則チ
初年ノ歴シ時ヨリ二年ノ間負債主ヨリ息銀ノ仕拂ヲ怠ラサル以上
ハ資本ヲ請求スルヲ得可カラスト云フ意トナラサルヲ得ス果シテ
然リトセハ年金ノ設置ヨリ三年ノ後ニ至ラサレハ資本ヲ請求スル
ヲ得サルナリ其故如何トナレハ初年中ニ負債主ハ息銀ヲ拂フ可キ
義務ナキヲ以テ假令ヒ其義務ヲ盡サ、ル事アルモ之ヲ以テ其懈怠
ト稱スル能ハサレハナリ此年ノ經過セシ時ヨリ始テ拂方ナシ義務
ノ履行ナシト謂フヲ得可キナリ

然レ此解釋ハ一般ニ人ノ取ラサル所ナリ法律ノ述ヘントスル所
ハ負債主ヨリ二年間引續テ息銀ヲ拂ハサリシテ而已ニテ資本ヲ請

勸産資本ノ讓與又ハ無價ノ名義ニテ設定セシ無期年金

求スルヲ得可シト謂フニ在リ

〔千九號〕 息銀ノ仕拂ナキヲ而已ヲ以テ年金ノ設置ヲ解除スルヲ得可キ乎將タ又之ニ反シ第千百八十四條ニ於テノ如ク一旦訴ヲ起サ、レハ之ヲ解除スルヲ得可カラサル乎

此問題ヲ解スルノ有益ナルヲ即チ左ノ如シ

其一 若シ息銀ノ拂方ナキヲ而已ニテ年金ノ設置契約ヲ解除スルヲ得可シトセハ裁判官息銀ノ拂方ナキノ證ヲ得ルヤ否ヤ直ニ其解除ヲ申渡サ、ル可カラス裁判官ハ第千二百四十四條ニ據リ資本ノ返還ニ附テ猶豫期限ヲ與フルヲ得可シト雖モ息銀ノ仕拂ニ附テハ之ヲ與フルヲ得サルナリ何トナレハ裁判官負債主カ二年間延滞シタルヲ知レハ之ニ資本ノ返還ヲ命スルヲ要(資本ノ返還ヲ命スルヲ要ストアルハ是レ唯其言渡ヲ爲サ、ルヲ得サルノ謂ヒナリ)故

ニ資本ノ返還ニ附テハ裁判官其猶豫期限ヲ與フルモ妨ケナシ)スレハナリ加之債主執行力アル證書ヲ有スル時ハ裁判所ニ出訴シテ裁判言渡ヲ受ケストモ強テ負債主ニ資本ノ返還ヲ爲サシムルヲ得可シ

其二 若シ又第千百八十四條ニ於テノ如ク裁判所ニ出訴セスンハ年金ノ設置契約ヲ解除シ得可カラストセハ裁判官其解除ヲ申渡ササルヲ得又息銀ノ仕拂ニ附キ負債主ニ猶豫期限ヲ與フルヲ得可シ故ニ負債主カ裁判官ヨリ許サレタル期限内ニ於テ息銀ヲ拂フ時ハ此契約ハ解除スル能ハサルナリ

世人ノ一般ニ決スル所ニ據レハ此ニ適用ス可キハ第千百八十四條ニ於テノ解除ニ非スニテ(何トナレハ該條ハ雙務契約ノミニ附テ設ケシ者ナレハ之ヲ以テ片務契約タル年金設置ニ當ルヲ得サレハナ

動産資本ノ讓與又ハ無償ノ名義ニテ設定セシ無期年金

リ負債主ノ失權デセヤンス空シク期限ヲ過シタルトニテ權利ヲ失フヲ謂フニ在リトシ而シテ此失權ハ法律上ニ載セラレテ裁判所ニテ當行ス可キ者タルヲ要スト

〔附言〕反對ノ説ヲ唱フル者ノ曰ク第千百八十四條ニ記シタル雙務契約ノ語ハ立法官ノ意ニテハ要償名義ノ契約ト同義ニ用ヒタルナリ何トナレハ結約者中、物ヲ受取タル一人其代リトシテ他ノ一人ニ物ヲ與ヘサル場合ニ於テ雙務片務ノ別ナク總テ要償名義ノ契約ハ該條ニ據テ決定ス可ケレハナリ然ルニ今第千九百十二條ハ即チ第千百八十四條ヲ適施スル者タルニ過キサルナリ

〔千十號〕其レ然リ、然レヒ此事ニ附テハ負債主ニ於テ仕拂ノ催促ヲ受ケ而シテ仍テ之ヲ怠タリタルトヲ要スル乎此問題ニ附テハ三箇ノ説アリ

第一説 解除ハ豫メ催促ナクトモ唯二年間息銀ノ仕拂ナキト而已ニテ之ヲ爲スヲ得可シ

第二説 此問題ヲ解スルニハ區別ヲ立テサル可カラス若シ年金ハ債主ノ住所ニ於テ拂フ可キ約アル時ハ豫メ催促ヲ爲サ、ルモ可ナリ何トナレハ債主ハ負債主ヲ責メテ「足下ヨリ息銀ノ仕拂ヲ余ノ住所ニ於テ爲ス可キノ契約ナルカ故ニ足下ハ余ニ之ヲ差出ス可キノ義務アリ」ト言フヲ得レハナリ若シ又年金ハ負債主ノ住所ニ於テ之ヲ拂フ可シトノ約アル時ハ豫メ催促ヲ爲サ、ル可カラス何トナレハ負債主ハ「何故ニ足下ハ余ノ宅ニ來ラサリシヤ余ハ之ヲ拂フノ備ヘテ爲セシニ」ト申立ルヲ得レハナリ

第三説 如何ナル場合ニ關セス總テ催促ヲ爲スヲ緊要トス其故ハ我法律ニ「日限ノ經過ハ催促ノ代用ヲ爲ス」ト言ヘル規則有ラサレハ

ナリ因テ負債主ヲ遲滯ニ附セント欲セハ常ニ之ニ催促ヲ爲サ、ル
可カラス但シ之ニ反スルノ明約アル時ハ別段ナリトス(第千百三十
九條)若シ債主ニシテ其受取ル可キ金額ヲ請求セサル時ハ則チ負債
主ハ債主カ之ニ用ナク且ツ其之ヲ請求スル時迄暗ニ之ヲ己レニ保
有スルヲ許セシナラント思慮セサルヲ得ス

〔千十一號〕 第二 負債主ヨリ契約ノ如ク保證ヲ立テサル時〇例之ハ
之カ曾テ約束シタル所ノ不動産ノ書入ヲ拒絕スル時ノ如シ又負債
主カ其嘗テ書入タル家屋ヲ破壊シタル時ノ如ク其既ニ契約ノ保證
ヲ取消シ又ハ之ヲ薄フシタル時ハ負債主ハ契約ニ附テノ保證ヲ立
テサル者ニ準擬セラレ可キナリ

〔千十二號〕 負債主ヨリ約束ノ保證ヲ立ツル能ハサルヲ而已ニテハ直
ニ年金ノ設置契約ヲ解除スルヲ得サル事アリ即チ義務ノ目的タル

尺度量衡ヲ以テ數フ可キ物ニ在ル時是ナリ何トナレハ債主ニ損害
ヲ被ムラシメヌシテ他物ヲ以テ更ニ保證ヲ立ルヲ得可ケレハナリ
故ニ負債主過失ナキモ其義務ヲ履行スルヲ能ハサル時ハ裁判官負
債主ニ他物ヲ以テ其義務ノ履行ヲ允許スルヲ得可シ例之ハ負債主
ヨリ質ノ名義ニテ引渡サント約シタル動産其過失ナクシテ滅却シ
タル時ハ不動産ノ書入ヲ允許シ而シテ之ニ其義務ヲ履行セシムル
時ノ如シ

第三 負債主分散又ハ倒産ヲ爲シタル時

○第二節 不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金書式五百
九十七號參觀)

〔千十三號〕 第壹 總論

古法ニ於テ不動産上ノ年金ト稱セシ者ハ所有權ノ支分ニシテ一ノ

負債主分散又ハ倒産ヲ爲シタル時 不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金 四三九

物權ナリ而シテ何人ニ論ナク總テ其不動産ヲ所有スル者ヨリ息銀ヲ收受シ得キノ權利ナリキ(九百九十五號ヨリ九百九十七號迄ヲ參觀ス可シ)

民法ハ不動産上ノ年金ヲ廢シ而シテ之ヲ以テ動産資本ノ讓與ニテ得可キ息銀ノ人權ト等シク一箇ノ人權ニ過キスト爲セリ然レモ是ニ由リ不動産ノ讓與ヲ以テ息銀ノ人權ヲ設定スルヲ禁セス(第一帙千四百五號參觀)

此改正ノ目的タルヤ二箇ノ點ニ在リ

第一 財産ノ流通ヲ易カラシメント欲ス
 第二 封建ノ餘習ヲ掃除シ「ワスサリエター」(封建制度ノ時侯伯ノ隸屬其主ヨリ土地ヲ預リ之ヲ農民ニ耕サシメ各歲稅ヲ收メ其幾分ヲ己レノ主ニ納メ殘分ヲ自己ノ益トナセシナリ之ヲ「ワスサリエター」

ト謂フ)ノ弊風ヲ消滅セント欲スルニ在リ蓋シ前文ニ言フ所ノ物權ハ不動産ノ讓與者ヲシテ其所有者ヨリ各歲利分ヲ請求スルヲ得セシムルノ質アルヲ以テ當世ニ於テモ尙ホ世人ニ往古ノ制ヲ追思セシムルニ足ル者ナレハナリ

併シ民法ハ此目的ヲ充分ニ達スルヲ能ハサリキ何トナレハ此改正タルヤ唯ニ其名アル而已ニテ其實大ニ間然ス可キ所アレハナリ抑息銀ノ人權ヲ得可キ約ニテ不動産ノ讓與ヲ爲スハ變務契約ヲ取結フト一モ異ナル所ナキカ故ニ其獲得者ヨリ約束ノ息銀ヲ拂ハサル時ハ讓與者ニ解除ノ權(既ニ取結ヒシ契約ヲ取消スノ權ナリ)アリ而シテ其解除ノ訴權ハ物上ノ訴權ナルヲ以テ獲得者ニモ對抗スルヲ得可ク又外人ニモ之ヲ以テ對抗スルヲ得可ク唯第一ノ獲得者ヨリ其不動産ヲ受取リシ者ニ對シテ直ニ行フヲ得サルノミ故ニ讓與

不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

者ハ先ツ第一ノ獲得者ヲ裁判所ニ呼出シ之ニ其義務ノ不行ヲ責メ以テ契約ノ解除ヲ得而シテ後チ更ニ不動産ヲ受取リシ者ヨリ之ヲ取戻スノ手續ヲ爲サ、ル可カラス又其都合ニ依テハ解除ノ爲メ起シタル訴ニ不動産ヲ有スル者ヲモ干渉セシメ第一ノ獲得者ニ對シテ起シタル解除ノ訴ト不動産ノ所有者ニ對シテ起シタル取戻ノ訴トニ附キ同時ニ一箇ノ裁判言渡書ヲ取ルヲ得可シ

是ヲ以テ古法ニ於テノ不動産上ノ年金ト不動産ノ讓與ニ因リ民法ニ準シ以テ設置シタル年金トニ異別アル所ハ不動産ヲ所有トナシタル者ニ對シ息銀ノ債主ヨリ直ニ訴ヲ起シ得サル事即チ債主ハ其結約者ニ對シ豫メ解除ノ訴ヲ起サ、レハ不動産ヲ所有ト爲シタル者ヨリ之ヲ奪取スルヲ得サル事(但シ不動産ノ占有者息銀ヲ拂フヲ好ム時ハ別段ナリトス)而已ニ在リトス故ニ此二者ノ異ナル所ヲ以

テ其本質ト其果効ニ在リト言ハンヨリ寧ロ訴ヲ起スノ手續ニ在リト言フニ如カサルナリ若シ法律ニテ解除ノ訴權ヲ人權上ノ訴權ナリトシ而シテ之ヲ以テ他人ニ對シテハ其効ナキ者トセシナレハ其目的ノ達スルハ蓋シ最極ノ點ニ在ラン乎

債主ハ解除ノ訴權ノ外其讓與シタル不動産上ニ一ノ特權ヲ有セリ

(第二千百三條第一項)

〔千十四號〕 不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金モ動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金ノ如ク動産上ノ權利中(第五百二十九條)ニ列ス可キ者ニテ其無期ナル時ハ之ヲ買戻スヲ得可キナリ

年金ノ設置ニ其期限ヲ九十九年以上ニ定ムル時又ハ三代以上ノ爲メ即チ設置者其子(其孫及ヒ其曾孫ノ爲メ之ヲ設置スル時ハ之ヲ稱シテ無期ノ年金ト謂フ故ニ期限ヲ九十九年以内ニ定メ以テ設置シ

ラントハ、ニルマシユエム
不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

タル年金又ハ三代ノ爲メ即チ設置者其子其孫ノ爲メ設置シタル年金ハ之ヲ有期ノ年金ト謂フ由テ之ヲ買戻ス^{ラント、スタンボレル}トテ得千七百九十年十二月二十九日ノ法律第一卷第一條

〔千十五號〕年金ヲ買戻スニハ如何シテ可ナラン乎息銀ヲ拂フ可キ義務ヲ免カレント欲スル負債主ハ其嘗テ受取リシ不動産ヲ返還シ以テ其義務ヲ免カル、ノ權ナシ之ヲ免カル、ニハ唯、金額ヲ拂フノ一方法アルノミ然レヒ其金額ハ幾許ノ割合ナル可キ乎

此問題ニ附テハ一ノ區別ヲ立テサル可カラス
第一 息銀ヲ金額ニテ拂フ可キ時○年金ハ法律上ノ割合(利足ノ)ニテ設ケラレシト法律上ノ推測スル所タルヲ以テ之ヲ買戻スニハ百分ノ五ノ割合ニ由テ計算ヲ立テサル可カラス故ニ各歳息銀ノ名義ニテ拂フ可キ金額ヲ二十ノ數ト乘スル時ハ返還ス可キ金額ノ高チ

知ルチ得可キナリ是ヲ以テ五千「フラン」ノ息銀ノ負債主ハ十萬「フラン」ノ金額ヲ返還シ以テ其義務ヲ免カル、ヲ得可シ

第二 息銀ヲ日用品、穀物又ハ畜類ニテ拂フ可キ時○此場合ニ於テハ息銀ヲ金額ニ直サ、ル可カラス然レヒ物品ノ代價ハ變換セサル者ニ非サレハ今年ノ割合ヲ以テ他年ノ割合ニ準スルチ得サルナリ是ヲ以テ物價ノ平均ヲ取ルチ緊要トス而シテ其方法ハ十四年ノ間ニ於テ其年毎ニ日用品、穀物又ハ畜類ノ價ハ幾許ナリシヤヲ取調ヘ物價ノ最モ騰貴ナリシ歳二年ト物價ノ最モ下落ナリシ歳二年トノ物價ヲ取除ケ残り十箇年ノ物價ヲ加算シ而シテ其加數ヲ十ニ割レハ則チ一年ノ平均高チ得可シ茲ニテハ百分ノ四ノ割合ニ因リ買戻チ爲サ、ル可カラス故ニ一年ノ平均高チ二十五ノ數ト乘シ以テ返還ス可キ金額ノ高チ知ルチ得

不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

〔千十六號〕不動産ヲ讓與シ以テ得タル年金ト動産資本ノ讓渡ヲ以テ得タル年金ト相互ニ類似スル所ノ點數多アリ即チ此二者ハ孰レチモ必ス買戻シ得可キ事又動産上ノ權利中ニ在テ唯一箇ノ人權ニ過キサル事等是ナリ(千號及千十四號參觀然レモ其相互ニ異ナル所ノ件民法ニ於テモ亦數多アリトス請フ其最モ緊要ナル者チ左ニ掲ケ

○不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

第一 此年金ノ買戻ハ三十年以内ニ之ヲ爲サスト約束スルヲ得可シ(第五百三十條)法律ハ殊ニ不動産ノ所有權ヲ重ンス

○動産資本ノ讓與ヲ以テ設置シタル年金

第一 此年金ノ買戻ハ十年以内ニ之ヲ爲サスト約束スルヲ得ルノミ(第千九百十一條)

ルヲ以テ其常トス

第二 年金買戻ニ附キ豫メ其箇條ヲ定ムルヲ得可シ尙ホ之ヲ詳説スレハ負債主ノ息銀ヲ拂フ可キ義務ヲ免カレント欲スル時其返還ス可キ資本ノ高チ前以テ取定メ得ル事是ナリ余足下ニ不動産ヲ讓與シ各歲五百「フラン」ノ息銀ノ權ヲ得タリ然ルニ若シ買戻ノ事ニ附キ別段ノ約束ナキ時ハ法律上ノ割合(即チ百分ノ五)ニ據テ負債

不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

第二 年金買戻ニ附キ豫メ其箇條ヲ定ムルヲ得ス即チ百分ノ六ノ割合ニ據ラスンハ之ヲ爲サル可シト言フカ如キノ約ヲ結ハシムルヲ得ス故ニ余足下ニ十萬「フラン」ノ資本ヲ讓與シ各歲五千「フラン」ノ息銀ノ權ヲ得ル時足下義務ヲ免カレントセハ余ニ十二萬五千「フラン」ヲ返還セサル可カラスト言ヘル約ヲ結ハシムルヲ得ス其

主之ヲ買戻スヲ得可ク即チ十萬「フラン」ヲ返還シテ之ヲ爲スヲ得可キナリ然レモ買戻ハ法律上ノ割合ヨリ超過シタル割合ニ由リ例之ハ十二萬「フラン」若クハ十二萬五千「フラン」ヲ返還セサレハ之ヲ爲サ、ル可シト謂フ別段ノ約束ヲ取結フヲ得可シ此處ニテ斯ノ如ク別段ノ約束ヲ爲スト雖モ其高利貸ノ犯罪トナラサルヤ明カナリ何トナレハ資本ハ不動産ノ代

買戻ハ法律上ノ割合ニ據ラズンハ之ヲ爲スヲ得サルナリ而シテ之ニ反スル別約ハ則チ高利貸犯罪ニシテ其効ヲ生セサル者トス

價ニシテ如何ナル法ト雖モ高貴ノ代價ニテ賣買ヲ爲スヲ禁セサレハナリ

然レモ買戻ノ事ニ附キ右ノ如ク箇條ヲ定ムト雖モ其効ナキコアリ是レ則チ債主カ買戻ノ妨碍ヲ爲サンカ爲メ此目的ノミニテ過當買戻高チ約諾セシメタル時ノ如シ是レ全ク公益ノ爲メ約條ヲ無効トスル權ヲ付與セルナリ

第三 債主ハ負債主ヨリ一年

不動産ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

第三 債主ハ負債主ノ二年間

間息銀ヲ拂ハサリシト而已ニ
 テ資本ノ返還ヲ請求スルヲ得
 可シ是レ普通法ノ條規タル第
 千百八十四條ノ許ス所ニシテ
 一モ他ニ債主ノ遵奉ス可キ特
 別ノ法律有ラサレハナリ

引續テ其義務ヲ盡サ、リシ時
 ニアラヌンハ之ニ資本ヲ請求
 スルヲ得ス(第千九百十二條)

第四 息銀ノ權ヲ得ル爲メ不
 動產ヲ讓渡シタル者ハ其不動
 產ノ賣主ノ如ク看做サル、ヲ
 以テ其歲毎ニ得可キ息銀ノ高
 ト二十トノ乘數(即チ不動產ノ
 賣代)此不動產直價ノ十二分ノ

五ヨリ以下ナル時ハ其契約ノ
 取消ヲ請求スルヲ得可シ

「千十七號」此等ノ差違ヲ明知セハ我輩ハ一問題ヲ講究シ以テ容易ニ
 其有益ナル所以ヲ察スルニ足ル可シ第五百三十條ノ法文ニ據レハ
 不動產ヲ讓與シテ年金ヲ得ルニ特別ナル二箇ノ方法ヲ用フルヲ得
 可ク一ハ唯、不動產ヲ讓與シテ年金ヲ得ル事例之ハ余足下ニ不動產
 ヲ讓與シ各歲五千「フラン」ノ息銀ヲ請求ス可キ權ヲ得ル事是ナリ此
 場合ニ於テハ息銀ノ權ハ不動產ノ代價ナリトス一ハ不動產ノ代價
 ヲ豫定シテ例之ハ之ヲ十萬「フラン」トナシ其代價ニテ不動產ヲ讓與
 シ然ル後チ其買主ニ此代價ヲ保有スルヲ許シテ各歲五千「フラン」ノ
 息銀ヲ拂フ可キ約ヲ結ハシメ得ル如キ是ナリ然ル時ハ不動產ヲ年
 金ト換ヘシニ非ス其代價ノ請求權ヲ以テ之ニ換ヘタルナリ〇右二

不動產ヲ讓與シ以テ設置シタル年金

箇ノ場合ニ於テ區別シタル所ニシテ第一ノ方法ヲ以テ創定シタル年金ヲ不動產上ノ年金ト名ツケタリ何トナレハ之ヲ得ルニ不動產ヲ讓與シタレハナリ第二ノ方法ヲ以テ創定シタル年金ヲ設置ノ年金ト稱シタリ何トナレハ賣買ノ代價即チ動產資本ノ(貨幣ヲ謂フ)讓與ヲ以テ之ヲ得ルニ由テナリ

現今ニ於テモ此區別ヲ立テサル可カラサル乎將々又之ニ反シ之ヲ同一ノ物トナスヲ要スル乎若シ賣買契約ノ後特別ノ證書ヲ以テ其代價ノ請求權ヲ年金ニ換ヘタル時ハ則チ此年金ヲ不動產ノ讓與ヲ以テ得タル者ト同視セサルヲ要ス此處ニテ爲シタル事二箇アリ一ハ不動產ノ所有者ニ動產權(即チ賣買ノ代價ヲ請求スル權)ヲ得セシメタル所ノ賣買一ハ代價ノ請求權ヲ年金ニ換ヘタル所ノ更約ノリジョン是ナリ故ニ動產資本ノ讓與ヲ以テ年金ヲ得タリト謂フ可キナリ

然レモ賣買契約書中ニ於テ代價ノ請求權ヲ息銀ノ權ニ更改シタル時ハ則チ必スヤ右二箇ノ場合ヲ混淆ス蓋シ第五百三十條ハ不動產賣買ノ代價ノ代リニ得タル年金ト不動產賣買ノ代價トシテ得タル年金トヲ同視シ之ヲ以テ皆ナ不動產ノ讓與ニテ直ニ得タル年金ニ準據スレハナリ

○第二章 畢生間ノ年金

「千十八號」第壹 總論

畢生間ノ年金トハ我輩ノ既ニ明言シタルカ如ク約定ノ期限間若クハ債主ノ存命中元金ノ利息ヲ得可キ權利ニシテ此元金ハ債主ヨリ之ヲ請求スルヲ得ス又負債主ヨリモ之ヲ差戻スヲ得サル條件ヲ以テ讓與スル者ヲ謂フ語ヲ變ヘテ言ハ、此年金ハ一人又ハ數人ノ存命中又ハ債主ノ存命中(畢生間ノ年金期限ハ債主ノ生命ヲ以テ之ヲ

定メタルヲ多シ息銀ヲ請求スルノ權利ナリ(書式五百九十七號ヨリ
六百一號參觀)

此年金ハ無期ノ年金ノ如ク動産權ノ中ニ列ス可キ者ニシテ且ツ民
法上ノ果實ヲ生ス可キ無形ノ權利ナリ故ニ畢生間ノ年金ノ入額所
得權ヲ得タル者ハ其既ニ收受シタル利益ヲ全ク己レノ所有ト爲ス
ヲ得可ク且ツ其所得權ノ終ル時ト雖モ將來ノ息銀ヲ請求ス可キ權
ヲ返還スルノ義務アルニ過キス(第五百八十四條、第五百八十八條、第
千四百一條第二項、第千五百六十八條及第一帙千五百三十六號ヨリ
千五百三十八號マテヲ參觀ス可シ)

畢生間ノ年金ノ息銀ハ無期ノ年金ノ息銀ノ如ク五年間ヲ以テ其時
効ノ期限トスト雖モ之ヲ請求スルノ權利ハ無期ノ年金ト同シク三
十年間ヲ經過スルニ非サレハ時効ニテ其消滅スルヲ無カル可シ(第

第一千九百六十
八條、第一千九百
六十九條

二千二百七十七條、第二千二百六十二條)

〔千十九號〕 第貳 畢生間ノ年金ハ如何ニシテ之ヲ設置シ又ハ之ヲ得
ル乎

年金ハ要償名義ヲ以テスルヲ得可ク又無償名義ヲ以テスルヲ得可
キナリ

〔千二十號〕 第參 要償名義ニテ畢生間ノ年金ヲ設置スル事

此年金ハ金額動産又ハ不動産ノ讓與ヲ以テ之ヲ設置スルヲ得可シ
動産タルト不動産タルトニ關セス總テ確定物ヲ以テ畢生間ノ年金
ヲ設置スルハ是レ一ノ純粹ナル同意契約ナリトス何トナレハ我法
律ニ於テ確定物ノ所有權ヲ移轉スルニハ其物ノ引渡ヲ要セサレハ
ナリ余足下ニ不動産ノ讓與ヲ約シ又足下ハ其償トシテ余ノ存生中
余ニ五百「フラン」ノ息銀ヲ拂フ可キ旨ヲ約シタリトセンニ其時既ニ

畢生間ノ年金

年金ハ設置セラレ其時ヨリ足下ハ余ニ息銀ヲ拂フ可キノ義務アリ
 何トナレハ不動産ノ所有權ノ(其引渡ナクトモ)足下ニ移轉スルハ此
 時ナレハナリ

金額又ハ種類ヲ以テ定メタル動産(例之ハ麥幾斗ト謂フカ如シ)ヲ以
 テ年金ヲ設置スルハ實物契約タルコト多キニ居ル何トナレハ茲ニ息
 銀ノ仕拂ヲ約シタル者ニ約束ノ物件ヲ引渡サスンハ其所有權ヲ移
 スヲ得サレハナリ

然レモ息銀ハ物件ノ引渡ニ附キ定メタル期限前ニ之ヲ拂フ可シト
 云フ約束ヲ爲スモ何ノ差支カ之レ有ラン此ノ如ク別段ノ約束ヲ畢
 生間ノ年金ニ於テ許ス所以ハ是レ全ク之カ偶生ノ質ヲ具有スルニ
 因テナリ實ニ此別段ノ約束ハ契約(譯者曰ク年金ヲ設置スルニ附キ
 爲ス契約)ニ高利貸犯罪ノ形容ヲ帶ハシメス何トナレハ息銀ノ仕拂

ヲ約シタル者ハ未タ物ヲ得サルニ先キンシ債主ノ早死ニテ一ノ償
 ナク悉ク之ヲ得ルニ至ルモ圖ル可カラサレハナリ

右ニ反シ金額ノ讓與ニ因テ契約シタル無期ノ年金ニ就テハ此別段
 約束ヲ以テ適正ナル者ト爲ス可カラス物件ノ引渡前ニ拂ハレタル
 息銀ト其後ニ拂ハレタル息銀トノ加數若シ法律上ノ利足ヲ超過ス
 ル時ハ其契約タルヤ(譯者曰ク無期ノ年金ヲ設置スルニ附キ此別段
 約束ヲ以テ爲シタル契約)高利貸ニ準擬セラレテ其効ヲ生スルニ至
 ラス

〔千二十一號〕要債名義ニ於ケル畢生間ノ年金ハ必ス偶生ノ事ニ關セ
 サルハ無シト云ヘル原則ヨリ左ノ條件ノ發出ス

第一 資本ヲ讓與スル者ハ法律上ノ利息ヲ超過スル息銀例之ハ百
 分ノ十又ハ二十又ハ五十ヲ約束セシムルヲ得可シ(第千九百七十六

條○畢生間ノ年金ノ期限ニ定メタル者其設置後間モ無ク死去スル時ハ負債主ニ大利アリトス蓋シ負債主ハ己レノ受取テ所有ト爲シタル資本ヨリ餘程僅少ノ金額ヲ息銀トシテ拂ヒタル而已ニテ己レノ義務ヲ免カル、ヲ得レハナリ若シ此者ニシテ長壽ヲ保ツトセハ債主ニ大利アリ何トナレハ債主ハ其引渡シタル資本及ヒ尋常ノ貸借ニテ得可キ所ノ法律上ノ利息ヨリ許多ノ金額ヲ得可ケレハナリ」然ラハ十萬「フラン」ノ資本ヲ讓與シテ五千「フラン」ノ畢生間ノ年金ヲ得タル時ノ如ク年金ノ設置ニ附キ法律上ノ利息ヲ超ヘサル時ハ此年金ヲ以テ如何カ思考ス可キ乎然ル時ハ其契約ヲ以テ資本ノ贈與ナリトス可キ乎曰ク否其契約ハ偶生ノ事ニ關スル要償契約ナルヲ常トス夫レ人ノ金額ヲ他ニ置クヤ必ストモ百分ノ五ノ利息ヲ取ルニ限ル事トナス可カラス百分ノ三又ハ百分ノ四ノ利息ニテ之ヲ貸

渡ス事往々之レ有リ故ニ余長壽ヲ保ツノ見込アレハ資本ヲ讓與シ以テ百分ノ五ノ年金ヲ得可キ約ヲ爲スモ未タ必シモ利ナシト期ス可カラス然ル時ハ余ノ資本ノ利息ハ百分ノ三又ハ百分ノ四ニシテ未必ノ事ニ關シタル分カ百分ノ二又ハ百分ノ一ナリト謂フヲ得可シ〔千二十二號〕併シ未必ノ事ト雖モ之ヲ推察スルノ難カラサル時例之ハ老耄ニシテ病ニ罹リ居ル者カ其畢生間各歲三千「フラン」ノ息銀ヲ請求ス可キ權ヲ得テ十萬「フラン」ノ資本ヲ讓與シタルカ如キ時ハ其契約ヲ以テ資本ノ虛有權ノ變形贈與ナリト謂フ可シ然レハ此贈與ハ法ニ適スル者ナリ何トナレハ金額又ハ動産權ノ贈與ハ唯其引渡ノミニテ之ヲ爲スヲ得可シ受贈者ノ承諾ヲ記載シタル公成證書アルヲ要セサレハナリ故ニ之ヲ取消スニハ能力ノ所缺ニ因ラサレハ能ハス

〔千二十三號〕第二 畢生間ノ年金設置ニ附キ爲シタル不動産ノ讓與ハ十二分ノ七ヨリ以上ノ損失アル時ト雖モ之ヲ取消ス_レテ得ス_レ○未必ノ者ハ豫メ之ヲ推度シ以テ其價ヲ定ムルヲ得サル可シ然ラハ則チ年金設置ノ事ニ附キ讓與シタル不動産ノ入額ノ見積高息銀ノ高ヨリ以上ナル時ニ於テモ其契約ハ偶生ノ事ニ關スル要償契約タルノ質ヲ失フニ至ラサル乎曰ク然リ難者アリ之ヲ駁シテ曰ク年金ハ入額所得權ニ外ナラス故ニ此不動産ノ虛有權ハ無償名義ヲ以テ之ヲ讓與シタルニ非スヤト此論ハ道理ニ適セサルナリ年金ハ入額所特權ノ外他ノ性質ヲ有スル者ナリ即チ不動産ノ滅失スル_レトアリト雖モ依然トシテ其効アル事是ナリ總テ畢生間ノ年金ハ未必ノ事ニ關セサル_レト無キヲ以テ損失ノ事チ口實トシテ其契約ヲ取消ス_レテ得ス

但シ偶生ノ事アルノ確乎タル時ハ此論ト雖モ信據シテ可ナリ故ニ年金ノ事ニ附キ息銀ノ負債主ニ一モ危險ナキ時例之ハ不動産ノ讓與者甚々老耄ニシテ且ツ其不動産モ田畑ノ如ク容易ニ破滅セサル者ナル時ハ事實ノ模様ニ因リ年金ノ設置ヲ以テ過低ノ代價ニテ不動産ヲ賣渡ス事ナルヤ又ハ變形ノ贈與ナルヤヲ推究スルヲ得可キナリ故ニ損害又ハ法式ノ所缺ヲ以テ之ヲ取消シ得ルヲ通法トス併シ余ハ夥多ノ法學士ノ所論ニ從ヒ要償名義ニテ爲シタル不動産ノ贈與ト雖モ無能力者ヨリ之ヲ爲サス又ハ存留_レノ法_レ譯者曰ク財產中ニテ他ニ讓渡ス事ヲ得サル部分ヲ規畫シタル法_レヲ避クルノ目的ニテ之ヲ爲サ_レル時ノ如ク總テ詐詭_レニ出テサル上ハ是ヲ以テ法ニ適合スト謂ハン

第一千九百七十四條
第一千九百七十五條

〔千二十四號〕第三

畢生間ノ年金ハ既ニ死去シタル人ノ身上ニ之ヲ

設置シタル時即チ現存セサル人ノ生命ヲ期トシテ之ヲ設置シタル時ハ其効ナシ○一方ノ者ハ息銀ノ權ヲ得ルカ爲メ資本ヲ讓與シ而シテ此權ハ偶生ノ事ニ關スルヲ以テ其消滅スルヤ今日ナルヤ明日ナルヤモ圖ラレス然レモ其引續クヤ亦數十年ノ久シキニ至ルモ知ル可カラス然ルニ右ノ場合ニ於テハ此權ハ一瞬間タリトモ成立セシトナシ故ニ何ノ理アリテカ之ヲ得ルト有ラン是ヲ以テ資本ノ讓與ハ其原因ナキナリ因テ其効ナシトス

〔千二十五號〕法律ハ又一步ヲ進メ存在スル人ノ身上ニ設置シタル年金ト雖モ此人ヤ其契約ノ時既ニ病ニ犯サレ居テ夫レヨリ二十日間ニ死去スル時ハ是ヲ以テ効無キ者トス
息銀ノ負債主ノ資本ヲ受取ルヤ損失ヲ受ル時ノ埋合セノ爲メナリトス併シ右ノ如キ場合ニ於テハ損失ヲ受ルノ畏レアル可キ理無シ

何トナレハ年金ノ期限ニ定メタル人ハ既ニ病ニ罹リ居テ之カ爲メ其死ニ至ルヤ必然ナレハナリ故ニ契約ハ原因ナキニ附キ其効無キヤ明ケシ

然レモ斯ノ如ク其効ヲ生セサラシムルニハ左ノ三件無カラサル可カラス

- 第一 年金ノ期限ニ定メタル人契約ノ時既ニ病ニ罹リ居ル事
- 第二 此人ヤ此病ニテ死去スル事
- 第三 此人ノ死去スルヤ其時ヨリ二十日間ニ在ル事

ポチエー氏ハ之ニ加フルニ「病アリシトテ雙方ニテ知ラサリシ事」ト云フ條件ヲ以テセリ若シ雙方ニテ病アルヲ知ラサリシナレハ契約ノ目的トスル事物ノ性質ニ就テノ錯誤即チ契約ノ所缺アレハナリ而シテ同氏ハ錯誤ナキ時即チ雙方ニテ病アルヲ知リ居シ時ハ契約

ヲ維持ス可シトセリ民法ハ此ノ如ク此區別ヲ立テス病アルヲ明
知セシ時ト雖モ原因無キ者トシテ契約ヲ無効タラシム但シ年金ヲ
得タル者カ贈與ヲ爲スヲ欲シタルヲ明白ニシテ其引渡シタル資本
貨幣又ハ他ノ動産ナル時且ツ之ヲ受取りシ者年金ヲ得タル者ヨリ
無償名義ニテ受取ルノ能力ヲ有セシ時ハ別段ナリトス

〔千二十六號〕又債主ノ生命ヲ年金ノ期ト爲シタル時ニモセヨ前文ノ
如キ條件アルニ於テハ其契約ハ無効タルヲ免カレス成程債主ハ己
レノ病ニ罹リシヲ知ラサル事無カル可シト雖モ何ソ此ニ由テ其無
効タルヲ證スルニ足ランヤ此處ニテ契約ノ無効ナルハ雙方ノ錯誤
ニ由テ然ルニ非ス原因ノ缺亡シ之ヲ然ラシムルナリ併シ此處ニ於
テモ必ス錯誤無カル可シト固執スルヲ得サルカ如シ蓋シ死ニ垂テ
ル人ト雖モ其死スルノ期ヲ知ラサルヲ多ケレハナリ

〔千二十七號〕數人ノ身上ニ年金ヲ設置シタル時ハ右ニ反シ假令ヒ其
中ノ一員既ニ病ニ罹リ居テ其時ヨリ二十日間ニ死去スト雖モ此ニ
由テ其契約ヲ取消スヲ得ス實ニ此場合ニ於テハ資本ノ讓與ニ其
原因アレハナリ即チ債主ニ利ヲ得ルノ望アルヲ是ナリ今又假リニ
債主ニ錯誤アリトスルモ此ニ由テ契約ヲ無効トナスニ足ラス只此
錯誤ハ過當ノ割合ニテ年金ノ設置セラレタル事ノ原因タルノミ併
シ此處ニテハ損失ハ取消ノ原因トナラス

第千九百七十
八條
〔千二十八號〕第四 年○金○ノ○設○置○者○ハ○息○銀○ノ○仕○拂○ナ○キ○而○已○チ○原○因○ト○ナ
シ○以○テ○契○約○ヲ○取○消○サ○シ○ム○ル○ヲ○得○ス○○此○處○ニ○テ○ハ○第○千○百○八○十○四○條
ニ在ル原則ヲ換用セシナリ而シテ斯ク之ヲ換用スル所以ハ畢生間
ノ年金ニ離ル可カラサル偶然ノ質アルニ由レリ一旦年金ノ設置ニ
シテ其局ヲ終フル時ハ最早是レヨリ生シタル事ヲ復スル能ハサル

ナリ息銀ノ負債主既ニ損失ヲ被ムリタルナラハ爾後利ヲ射ルノ望
ナカラサル可カラス然ルニ契約ヲ取消サシムレハ負債主ニ此望ヲ
剝取スルノ憂ヲ來サン

然ラハ則チ負債主息銀ヲ拂ハスシテ債主ノ權利ヲ害スルヤモ圖ル
可カラサルナリ法律ハ此不虞ニ備ヘンカ爲メ債主ニ許スニ息銀ニ
均シキ利息ヲ生スル價ノ財産(負債主ノ財産)ヲ差押ユル事ヲ以テス
故ニ債主ハ此財産ヲ賣却シ其代價ヲ貸渡シ而シテ其利息ヲ年金ノ
代リニ取ルヲ得可シ

〔千二十九號〕若シ負債主ニシテ債主ノ保證タルニ足ル充分ノ資本ヲ
有セサル時ハ債主ハ第九百七十七條ニ據テ契約ノ解除ヲ請求ス
ルヲ得可シ該條ニ謂ヘルコト有リ負債主其差出ス可キ保證ヲ立テサ
ル時ハ契約ヲ解除スルヲ得可シト然レモ其解除ハ既往ニ溯テ効ヲ

生セサルカ故ニ豫算シタル向後時期ノ年金ノ高ニアラスンハ債主
ハ其返還ヲ請求スルノ權ナシ

第九百七十
九條

〔千三十號〕

第五 負債主ハ曾テ其受取リシ資本ヲ返還シ且ツ其既ニ

仕拂ヒタル息銀ヲ取戻サスト申述フルト雖モ息銀ヲ拂フ可キ義務
ヲ免カルハヲ得ス○年金ノ事ニ附キ其任務ヲ實行スルコト如何程困
難ナレハトテ負債主ハ之ヲ免カルハヲ得ス成程負債主ハ此ニ由テ
破産スルニ至ルモ圖ラレスト雖モ是レ全ク其以前ニ利ヲ得サリシ
ノ不幸ニ出ル者ナレハ何クニカ其尤チ歸スル所アラソヤ故ニ負債
主ハ契約ノ條規ヲ終始遵守セサル可カラス

第九百六十
九條

〔千三十一號〕

第肆 無償名義ニテ年金ヲ設置スル事

畢生間ノ年金ハ生者間ノ贈與ニ因テ之ヲ設置スルヲ得可シ遺囑ニ
因テモ亦之ヲ設置スルヲ得可キナリ

畢生間ノ年金

無償名義ニテ年金ヲ設置スル事ハ一モ貸借ト干涉スル所有ヲサルナリ

遺囑ニ因リ年金ヲ設置スルハ契約ヨリ出ルニ非サルナリ

生者間ノ贈與ニ因リ年金ヲ設置スルハ契約ヨリ出ツト雖モ之ヲ以テ偶生契約ナリト思考ス可カラズ

第一千九百七十條

〔千三十二號〕

遺囑又ハ生者間ノ贈與ニ因リ畢生間ノ年金ヲ設置シタルニ於テハ總テ他ノ恩與ヲ爲シタル時ニ於ケル如ク能力ノ缺亡ニ附テ之ヲ無効トナスヲ得可ク又兒子ノ出產、忘恩或ハ約束ノ實施ナキ事等ヲ以テ之ヲ取消スヲ得可ク又此贈與ヲ相續者ニ爲シタル時ハ此者之ヲ返還(財産ノ合部中ニ)スルヲ要ス可ク又此贈與ノ高可得處置ノ定分ニ超ヘタル時ハ之ヲ減殺スルヲ得可シ

然レモ此恩與ノ高譯者曰ク即チ遺囑又ハ贈與ノ爲メ設置シタル年

金ノ高(可得處置ノ定分ヲ超過スルト否トハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ知ルヲ得可キ乎茲ニ一子ト六萬「フラン」ヲ有スル者アリテ三千「フラン」ノ畢生間ノ年金ヲ遺囑シタリトセンニ其遺囑ハ其可得處置ノ定分三萬「フラン」ヲ超過スル乎若シ年金ヲ得タル者一二年ノ間ニ死去セルニ於テハ決シテ然ラサルナリ然レモ若シ此者五十年又ハ八十年ノ壽ヲ保ツトセハ定分ヲ超過スルヤ必セリ然リ而シテ債主ノ死去ハ豫メ知ル可キニ非サレハ此問題タルヤ吾人ノ能ク解釋スルヲ得可キ所ニ非ス因テ法律ハ之ニ干涉スルヲ忌ミ存留人(譯者曰ク佛蘭西法ニテハ家主ノ財産ヲ分別シテ二トス一ハ贈與ト爲ヌヲ得可キ財産ナリ一ハ贈與スルヲ得シテ貯留ス可キ財産ナリ此貯留ス可キ財産ヲ存留財産ト謂フ其財産ヲ有スル人ヲ存留人ト謂フ故ニ該文ニ言フ所ノ存留人ハ贈與ヲ爲サントスル家主ニ外ナラス猶

ホ精細ナル事ハ相續篇及ヒ贈與篇ニ於テ之ヲ見ル可シニ謂テ曰ク
 汝ハ丁寧反覆能ク思慮ヲ旋ラシ計算ヲ立テ以テ自カラ處置ス可シ
 汝若シ年金ノ權ヲ有スル者カ長壽ヲ保タスト考フレハ之ニ年金ヲ
 設定セヨ若シ又此者カ長壽ヲ保ツト推量スレハ汝ノ可得處置ノ定
 分ヲ悉ク之ニ贈レヨト(第二帙六百十四號六百十五號參觀)
 然レモ年金ノ高ハ之ヲ定ムルノ緊要ナル場合アリトス乃チ畢生間
 ノ年金ノ遺囑ヲ受ケタル者ノ外ニ他ノ遺囑ヲ受ケタル者數名アリ
 テ其各自ノ受取タル物ヲ比較シテ減セサルヲ得サル場合ニ於テハ
 此年金ノ價ヲ確定セサル可カラス然ラサレハ何ノ術アリテカ之ヲ
 比較シテ減スルヲ得ケンヤ然ル時ハ年金ヲ得タル者ノ位置、年齡、
 體質等ニ就テ年金ノ期限ヲ推度シ以テ其價ヲ定ム可キナリ

第千九百七十(千三十三號) 畢生間ノ年金ヲ設置スルニ其原因ニ附テハ之ヲ無償ノ
 三條

者トナスモ其法式ニ就テハ之ヲ無償ノ者ト爲サ、ルヲ得可シ茲ニ
 ハ自己ノ爲メ取結フ要償契約ニ就テ他人ノ爲メ年金ヲ設置スル場
 合ヲ舉クルナリ第千九百七十三條ニ「年金ノ設置ハ其資本ヲ甲ヨリ
 乙ニ讓與スト雖モ他人ノ爲メタルヲ得可シ」トアレハ該條ハ右ノ場
 合ニ設クル者ト謂フ可シ今茲ニ例ヲ舉テ此件ヲ説明セン余ハ一萬
 「フラン」ニテ足下ニ家屋ヲ賣渡シ而シテ此金額ハ余ヨリ足下ニ付ス
 可キ旨ヲ約シ且ツ足下チシテ「ポール」ノ畢生間之ニ五百「フラン」ノ年
 金ヲ拂フ可キ約ヲ爲サシメタリ又ハ余ヨリ足下ニ家屋ヲ讓與スル
 モ余ノ爲メ一モ足下ニ約諾セシムルヲナク唯「ポール」ノ畢生間之ニ
 年金ヲ拂フ可キ約ヲ足下ニ爲サシメタリ此二ノ場合ニ於テハ余ハ
 贈與トシテ「ポール」ニ畢生間ノ年金ヲ付授セリ然レモ「ポール」ハ之ヲ
 承諾スルニ贈與ノ受諾ニ附テノ諸法式ヲ履ムヲ要セス私印證書ヲ

以テ之ヲ證スルヲ得可ク加之其承諾ハ暗ニ之ヲ爲スヲ得可ク例之ハ息銀ヲ收受スルカ如キ事柄ニテ之ヲ爲スヲ得可キナリ
 此ニ言フ所ノ贈與ハ純粹ナル同意契約ニ從屬スル別段ノ約束タルニ在レハ敢テ贈與ノ法式ヲ履ムヲ要セサルナリ是レ第千百二十一條ノ適例ナリ

斯ノ如ク年金ヲ設置シタル事ヲ以テ其法式ニ就テ考フル時ハ之ヲ以テ贈與ナリト言フヲ得サレトモ其原因ニ就テ之ヲ推セハ其贈與タル所以能ク得テ知ル可キナリ故ニ能力ノ缺亡ヲ口實ト爲シ以テ之ヲ無効ト爲スヲ得可ク又兒子ノ出產、忘恩或ハ約束ノ實施ナキ事等ヲ原因トナシ以テ之ヲ取消スヲ得可ク又此贈與ヲ相續人ニ爲シタル時ハ此者ニ之ヲ返還スルヲ要ス又此贈與ノ過分ナル時ハ之ヲ減殺スルヲ得可キナリ

右ノ如クポールノ爲メ契約ヲ以テ年金ヲ設置シタルポールヨリ之ヲ承諾セサルニ於テハ余ハ其授付ヲ止メ之ヲ余ノ所有ニ歸セシムルヲ得但シ此年金ノ余ニ屬スルヨリモポールニ屬スル事ノ買主ニ(家屋ノ買主)正當ナル利益アル時例之ハ買主カポールノ父若クハ子タル時ハ別段ナリトス

〔附言〕 若シ夫婦結縁中共通財産ヲ以テ夫婦ノ爲メニ畢生間ノ年金ヲ設置シタル時ハ其年金ノ權利ハ共通ニ屬ス可シ然リ故ニ共通ヲ解除スル時ハ年金ノ權ヲ以テ分派ス可キ財産ノ合部中ニ加入セサル可カラス○然レモ若シ別段ノ約束ヲ以テ年金ハ夫婦中生存シタル者ニ歸ス可シト約束アル時ハ如何
 此ニ四箇ノ說アリ第一、第二、第三ノ說ハ皆ナ其別段ノ約束ヲ有効ナリトシ之ヲ實行ス可シト主張セリ

第一說ニ曰ク生存セル配耦者ハ要償名義ヲ以テ死亡シタル配耦者ヨリ年金ヲ得タルナリ故ニ共通ニ對シ必ス償還ヲ爲ス可シ○第二說ニ曰ク死亡シタル配耦者ヨリ要償名義ヲ以テ之ヲ得ルト雖モ共通ニ對シ償還スルノ義務ナシ○第三說ニ曰ク年金ヲ獲得スルモ返還ノ義務ナシ然レモ其名義ハ無償名義ナリ

第四說即チ余ノ持論ニテハ配耦者ノ生存セル者ニ歸ス可キ別段ノ約束ハ無効ナリトス(ダローズ氏編輯ノ定期集録ニ就テ余カ論ヲ參考ス可シ)

〔千三十四號〕 第五 畢生間ノ年金ハ何人ノ身上ニ之ヲ設置スルヲ得可キ乎

年金ヲ某ノ身上ニ設置ストアル時息銀ノ權ヲ得シ者ハ總テ此人ナリト解讀ス可カラズ此ノ如キ言詞アル時ハ此人ノ生命ヲ年金ノ期

ト爲シ此人ノ死去ニ因テ年金ハ消滅ス可シト謂フ意ヲ寫出シタル者ト之ヲ解ス可シ年金ハ息銀ヲ得可キ人(即チ債主)ノ身上ニ設置セラル事多キニ居ル然レモ負債主ノ身上ニモ亦少シモ年金ノ事ニ干渉セサル所ノ外人ノ身上ニモ之ヲ設置スルヲ得可シ

又年金ハ數人ノ身上ニ之ヲ設置シテ其各人ノ死去毎ニ幾分カ之ヲ消滅セシムルモ亦ハ其全員ノ悉ク死去スル時迄其生殘リシ者ノ身上ニ之ヲ轉涉セシムルモ皆ナ勝手タル可シ若シ年金ニシテ一ノ明約ナク數人ノ身上ニ設置セラレタル時其中ニテ生殘リシ者ノ身上ニ之ヲ移轉セシム可キヤ否ヤヲ知ラントセハ唯其時ノ模様ニ因リ之ヲ推考スルノ外亦他ニ手段ナシトス

第一千九百八十一條
〔千三十五號〕 第六 畢生間ノ年金ヲ設置スルニ之ヲ差押フ可カラサル者ト爲スヲ得可キ乎

要償名義ニテ設置シタル年金ハ總テ差押フ可カラサル者ト爲ス
 ナ得ス若シ斯ノ如キ制度ナキ時ハ負債主タル者ニシテ(譯者曰ク之
 ナ息銀ヲ拂フ可キ負債主ナリト解ス可カラス却テ是レハ請求スル
 權ヲ有スル債主ニシテ他ニ負債アル者ト考フ可シ眞ノ財産ト稱ス
 可キ物(譯者曰ク即チ息銀ヲ請求スル權)ヲ有シナカラ其以前ノ債主
 ノ目的トナセシ所ヲ潰崩シ且ツ資力無キニ之レ有リト見セシメ以
 テ以後ノ債主ヲ欺クヲ得可シ他人又此負債主ハ德義上負債ヲ爲ス
 ナ得サル事決シテ無シト謂フ可カラス然レ此ノ如キ事ヲ實行シ
 以テ終始變セサランコト欲スレトモ亦得可カラサルナリ
 無償名義ニテ設置シタル年金ハ之ヲ差押フ可カラサル者ト爲スナ
 得可シ此差押フ可カラサルノ質アレハトテ年金ヲ受ケタル受贈者
 又ハ受遺囑者ノ債主ノ害トナル可キ理ナシ何トナレハ此ニ由リ其

抵當ノ減スル事有ラサレハナリ蓋シ此債主ハ始メヨリ恩與セシ物
 ニ望チ屬シタルコト有ル可カラサレハナリ

遺囑又ハ贈與ニテ設置シタル年金ニシテ之ヲ受贈者又受遺囑者ノ
 食料ニ供ス可キノ明約アルニ於テハ之ヲ差押フ可カラサル者ト看
 做スナ法トス(訴訟法第五百八十一條第四項)

差押フ可カラサル年金ト雖モ其贈與後ノ債主又ハ其遺囑開始後ノ
 債主ハ裁判官ノ許可ヲ得テ其定メタル分迄ヲ差押フルヲ得可シ(訴
 訟法第五百八十二條)

又食料ノ爲メ贈與又ハ遺囑セラレタル年金ト雖モ食料ノ事ニ附テ
 ハ如何ナル債主タルニ論ナク皆ナ之ヲ差押フヲ得可シ
 第千九百七十
 七條 [千三十六號] 第柒 畢生間ノ年金ノ設置ニ附キ其雙方ノ者ノ間ニ生
 スル効

負債主ニハ左ノ義務アリ

第一 約定ノ保證ヲ立テサル可カラス。○若シ負債主ニシテ此任務ヲ實行セサル時例之ハ債主ノ保證ト爲サンカ爲メ其約定シタル如ク不動産ヲ書入サルカ又ハ保證人ヲ出サ、ル時ハ債主タル者契約ノ解除ヲ申立テ以テ資本ノ返還ヲ請求スルヲ得可ク且ツ其解除ノ時迄ニ受取リタル利息銀カ假令ヒ法律上ノ利息ヲ超ユルニモセヨ最早之ヲ償還スルヲ要セス蓋シ此息銀ノ高タル法律上ノ利息ヲ超過スルト雖モ決シテ之ヲ法度ヲ超ユル者ト考フ可カラス何トナレハ債主モ解除ノ時迄ハ年金ノ代價ヲ失フ危険ノ衝ニ當リタルヲ以テ其法律上ノ利息ヨリ上ニ出テタル分ハ實ニ此危険ノ代價ナリト謂フ可ケレハナリ

〔千三十七號〕 解除ハ約定ノ保證ノ立テラレサリシ事而已ニテハ直ニ

之ヲ爲ス丁ヲ得ス裁判官ハ負債主ニ之ヲ立テシムルカ爲メ猶豫期限ヲ與フルヲ得可シ

爰ヲ以テ裁判言渡ニテ解除ノ申渡サレル迄ハ年金ハ繼續ス可シ故ニ左ノ結果ヲ生ス

(一) 年金ニ附テノ保證ヲ立テストモ訴訟ノ終ラサル迄ニ債主(譯者曰ク此債主ノ生命ハ此年金ノ期限ナリト知ル可シ)ノ死去アリテ其年金ノ消滅スルヲアレハ負債主ハ資本ヲ保有スルヲ得可シ斯ノ如キ場合ニ於テハ實ニ解除ヲ爲ス可キノ原因ナシトス

(二) 訴訟ノ間ニ約定ノ保證ヲ立ツル時ハ解除ハ申渡サレサル可シ併シ負債主ハ己レカ義務ノ施行ヲ延滞シテ債主ニ爲サシメタル費用ヲ償還セサル可カラス

(三) 解除ノ裁判言渡ニ附キ控訴ヲ爲スヲ得可キ時ハ負債主保證ヲ

立テ以テ其効ヲ奏スルヲ得何トナレハ控訴院ニ於テ裁判ヲ申渡スニハ其之ヲ申渡ス時ニ附テ事由ノ有様ト原被ノ申立トヲ按議スルノ成規ナレハナリ

約定ノ保證ヲ立テサル者ニ附テ我輩ノ陳述シタル條件ハ約定ノ保證ヲ立テ、其後之ヲ取崩シ又ハ之ヲ減殺シタル者ニモ適用スルヲ得可キナリ何トナレハ約定ノ保證ヲ立テサルト既ニ立テタル保證ヲ取除クト左ノミ異ナル事無ケレハナリ

〔千二十八號〕第二 年○金○引○續○ク○上○ハ○息○銀○ノ○仕○拂○ノ○如○何○ニ○困○難○ナ○ル○時○ト○雖○モ○間○斷○ナ○ク○之○ヲ○拂○ハ○サ○ル○可○カ○ラ○ス○(千三十號參觀)○息銀ノ拂方ナキ事ノミニテハ債主ニ契約ヲ銀除スルノ權無シ唯、負債主ノ財產ヲ差押へ之ヲ賣却シ其代價中ニテ息銀ニ均シキ利息ヲ生スル分迄ヲ備へ置カシムルヲ得ル而已(千二十八號參觀)

第一千九百八十條

息銀ハ民法上ノ果實タルヲ以テ日毎ニ生スル者トス故ニ債主ハ年金ノ期限ニ定メタル人ノ生存セシ日數ニ準シタル息銀ノ外之ヲ得ルノ權ナシ但シ之ヲ前拂ニスルノ約アル時ハ別段ナリ然ル時ハ年金ノ消滅セシ時ヨリ爾後ノ分ニテモ其既ニ拂ハレシ以上ハ最早之ヲ返還スルヲ要セス

第一千九百八十二條 〔千二十九號〕第珊 畢生間ノ年金ノ消滅

畢生間ノ年金ハ其期限ノ目當タル人ノ死去ニ因テ消滅ス
畢生間ノ年金ハ其期限ノ目當タル人ノ生命ニ關スルヲ以テ債主ハ此人ノ生存スルヲ證セスンハ息銀ヲ得ル能ハス而シテ之ヲ證スルニハ裁判所ノ所長若クハ邑長ノ下付シタル存生ノ證書ヲ以テスルヲ尋常ノ方法トス(千七百九十一年三月二十七日ノ法律第十一條)併シ此證書ノ外他ノ證據ヲ用フルヲ得サルニ非ス公證人ノ渡シタ

畢生間ノ年金

ル證書モ亦充分ノ證トセラル、ヤ明ケシ

〔千四十號〕第玖 無期ノ年金ト畢生間ノ年金トノ差違

第一 無期ノ年金ハ之ヲ得可キ者ノ相續人ニモ亦之ヲ拂フ可キ者ノ相續人モ移轉スル者トス畢生間ノ年金ハ其期限ノ目當タル人ノ死去ニ因テ消滅ス

第二 無期ノ年金ハ之ヲ買戻スヲ得可シ(千四號及千十四號參觀)畢生間ノ年金ハ買戻スヲ得ス

第三 動産資本ノ讓與ニ因リ無期ノ年金ヲ設置スルニハ法律上ノ利息ノ割合ニ基クニ非サレハ能ハス(千二號參觀)畢生間ノ年金ハ雙方ニテ自由ニ其割合ヲ定メテ之ヲ設置スルヲ得可シ

第四 無期ノ年金ハ負債主ヨリ息銀ヲ拂ハサル事ニテ之ヲ解除スルヲ得可シ(千七號、千八號及千十三號參觀)畢生間ノ年金ハ此事ヲ原

因トナシ以テ之ヲ解除スルヲ得ス(千二十八號參觀)

○第十一卷

附託及ヒ係爭物ノ附託

○第一章

一般ノ附託及ヒ附託ノ諸種類

第一千九百十五
條
第六條

〔千四十一號〕凡ソ附託譯者曰ク茲ニテハ附シ託スルノ意ニ之ヲ解ス
 可カラズ附託セラルノ意ニ取ル可シ元來此語ハ「デポー」ナル佛語ヲ
 譯シタル者ニテ此「デポー」ナル語ハ之ヲ附託スルノ義ニ解スルヲ得
 可ク又之ヲ附託セラル、ノ意ニ解スルヲ得可シ是ヲ以テ何レノ義
 ニ之ヲ用フルモ佛文ニ於テハ妨ナシトス然ルニ「デポー」ナル語ヲ附
 託ニ換ヘ以テ彼ノ文ヲ譯セハ其首尾相整フニ至ラサル「儘」之レ有
 リ然リト雖モ未タ穩當ノ譯語ヲ發見セサレハ暫ク前譯者ノ譯例ニ
 從フナリ故ニ該文ニテ附託ノ語ヲ附託スルノ義ニ解ス可カラサル
 ナリトハ廣ク之ヲ解スレハ他人ノ物ヲ監守シ後ニ之ヲ其儘ニテ返
 サンカ爲メ之ヲ受取ル所ノ所爲ナリトス

附託及ヒ係爭物ノ附託 一般ノ附託及ヒ附託ノ諸種類

附託ニ二種アリ一ヲ通常ノ附託ト謂ヒ一ヲ係争物ノ附託ト謂フ
 通常ノ附託トハ結約者雙方ノ所爲ニシテ即チ一箇ノ契約ナリトス
 係争物ノ附託トハ争ニ係ル物件ヲ他人ノ手ニ預ケ置ク事ニシテ此
 他人ハ其争ヒノ終ル時マテ之ヲ監守シ其所有者ナリト申渡サル、
 者ニ之ヲ返還ス可キヲ謂フ此預方ハ協議ノ上之ヲ爲ス事アリ又裁
 判所ノ言渡ニ附キ之ヲ爲ス事アリ(第千九百五十五條)
 第一ノ場合ニ於テハ附託ハ一ノ契約ナリ第二ノ場合ニ於テハ裁判
 上ノ所爲ナリ是レ第千九百十五條ニテ附託ヲ契約ト稱セスシテ所
 爲ナリト言フテ總テノ場合ニ通スル語ヲ用フル所以ナリ蓋シ契約
 ノ語タル其義稍狭少ニ涉ルヲ以テ裁判上ノ事ヲモ之ニ包括セシメ
 ントスルモ能ハサレハナリ(第千九百十五條及第千九百十六條ヲ參
 觀ス可シ)

○第二章 通常ノ附託

○第一款 通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

自第千九百十七條至第千九百二十條

〔千四十二號〕 通常ノ附託トハ一方ノ者他ノ一方ノ者ニ動産タル物ヲ
 渡シ他ノ一方ノ者其預リ賃ヲ約スルヲ無ク之ヲ自己ノ物ノ如クニ
 監守シ其催促アル時ハ直ニ之ヲ其儘ニテ返還ス可キ旨ヲ約スル所
 ノ契約ヲ謂フ

前文ニ(物ヲ渡シ云々)トアリ是ヲ以テ附託ハ實物契約ニシテ其目的
 トスル物ノ引渡ナクハ成立セス余カ汝ノ物ヲ預ルヲ約シタリ
 トセンニ余ハ是ニ由テ義務アルヤ疑ナシトス何トナレハ我法律ニ
 テハ羅馬法ノ「約東」譯者曰ク附託ヲ受ケン物ヲ貸渡サン物ヲ賣ラン
 トノ約ノ如ク未タ以テ附託、貸借、賣買ノ契約ト爲スニ足ラサル約束
 ナリ尙ホ貸借ノ九十三號ヲ參觀ス可シハ義務ヲ生セスト云フ規則

通常ノ附託 通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

ヲ棄テ之ニ反スル「約束ハ義務ヲ生ス」ト云フ規則ヲ奉スレハナリ故
 ニ余若シ預カルヲ肯セサレハ汝ハ償金ヲ請求スルノ權アリ然レモ
 此義務ヲ生スル約束ハ無名契約ニシテ附託契約ニ非サルナリ蓋シ
 附託契約ハ其目的タル物ヲ受取ルニ非サレハ成立セス此物ヲ受取
 ラスンハ之ヲ監守シ而シテ後ニ返還ス可キ義務ヲ負フ能ハサルナ
 リ然レモ唯思想上ノ交付ニテ充分ナル事アリ例之ハ附託ヲ受ケタ
 ル者カ他人ヨリ預ケントスル物ヲ借主(貸貸ノ借受人ナリ)借主又ハ
 賣主等ノ名義ニテ既ニ所持セル時ノ如キ是ナリ

〔千四十三號〕又(動産タル物品云々)トアリ故ニ不動産タル物ハ之ヲ附
 託スルヲ得ス實ニ物ヲ附託スルトハ或人ノ家ニ之ヲ預ケ置キ其
 入用アル時ニ之ヲ引取ランカ爲メナリ然ルニ不動産ハ決シテ其所
 在ヲ變セサル者ナレハ之ヲ引取ルヲ要セス不動産ニ附テモ例之ハ

家屋ノ如キ之ヲ他人ニ信任シ其中ニ大氣ヲ流通スル事其掃除及ヒ
 其修覆等ニ至ル迄ノ事ヲ一切司トラシメ得ルハ敢テ疑フ可キニ非
 スト雖モ此ハ名代契約タルニ外ナラサルナリ
 又他ノ一方ノ者ハ云々スルヲ約ストアリ此ニ由テ受託者ハ其附託
 セラレタル物ヲ監守シテ後ニ之ヲ返還ス可キノ義務ヲ負荷スルヤ
 知ル可キナリ附託者ハ之ニ反シ何モ約セシ事ナケレハ一モ義務有
 ラサルナリ但シ附託者ニモ輕少ノ義務アル事アリ是レ例之ハ受託
 者其附託セラレシ物ヲ監守スルニ附キ費用ヲ爲シタル時ニ於テノ
 如シ然レモ此義務ハ契約ヨリ直ニ生スルニ非ス此契約ノ事ニ附テ
 發出スル將來ノ事柄ヨリ生スル者ナリ故ニ附託ハ此義務ノ原因ニ
 非スシテ其媒介ナリト謂フ可キナリ是レ附託ヲ以テ片務契約中ニ
 列スル所以ナリ是ニ由テ附託ノ事ニ附キ制定ス可キ私印證書ハ其

通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

數一ニテ足レリトス

〔千四十四號〕又預リ賃ヲ約スル事ナクトアリ故ニ此契約ハ第千九百十七條ニ明言セル如ク其本質ニ於テ必ス無報ノ者トス然レモ第千九百十八條ノ第二項ニ預リ賃アル附託ノ事アルヲ見レハ此附託ハ其本質上ノミニテ無報ノ者ト思考セサル可カラサル乎曰ク否預リ賃ヲ拂フノ約アレハポチエー氏ノ所説ノ如ク附託ハ勞力賃借トナルナリ而シテ第千九百二十八條ノ第二項ハ同氏ノ説ニ從テ之ヲ記録セシナリ

第千九百三十〔千四十五號〕又之ヲ監守シ云々トアリ故ニ契約ノ目的ハ物ノ監守ニ在リ此監守ノミニテ目的トシテ受託者ニ引渡スナリ因テ受託者ハ之ヲ使用スルノ權ナシ併シ受託者ト雖モ附託者ノ允許アレハ之ヲ使用スルヲ得ルナリ但

シ此允許アリテモ受託者其附託セラレシ物ヲ使用セサレハ其契約ハ決シテ附託タルノ質ヲ變セス故ニ受託者ハ此物ヲ自己ノ物ノ如クニ監守シテ可ナリ若シ之カ使用ヲ始ムルニ於テハ其使用ニテ物ノ耗盡セサル時ハ其契約ハ變シテ使用物ノ賃借トナル可シ然ル時ハ之ヲ保持スルニ良善ナル家長ノ如クセサル可カラス若又其許サレシ所ノ使用物ニ耗盡ス可キノ質アル時ハ契約ハ變シテ耗盡物ノ賃借トナル可シ此場合ニ於テハ受託者ハ此物ノ破損ヲ以テ己レノ責トナサ、ル可カラス然レモ此等ノ賃借ノ契約ハ未ダ悉ク附託タルノ質ヲ脱スル能ハサルナリ何トナレハ物ヲ預ケタル者ハ約定ノ期限前ト雖モ己レノ欲スル時ニ其返還ヲ請求スルヲ得レハナリ故ニ此ハ無名契約ニシテ附託ト賃借トノ併合シタル者ト言フモ亦可ナリ

通常ノ附託ノ本質及ヒ其本質

物ヲ使用スルノ允許ハ暗ニ之ヲ爲スヲ得可ク又明白ニ之ヲ爲スヲ得可シ若シ附託セラレタル物例之ハ額面ノ如キ物ニテ之ヲ使用セサレハ遂ニ損傷スルニ至ル者ナレハ暗ニ其使用ノ允許アリシト容易ニ臆斷スルヲ得可シ若又此物タル大切ニ之ヲ使用スルト雖モ其損傷スルニ至ル時又ハ一度ヒ之ヲ使用ニ供スレハ忽チ耗盡スルニ至ル時ハ暗ニ其使用ノ許可アリト臆測シ難シ

第一千九百二十七條

〔千四十六號〕

又自己ノ物ノ如クニ監守シトアリ故ニ受託者ハ附託セラレタル物ヲ保存スル事ニ附キ自己ノ物ノ如ク之ニ注意シテ足レリ若シ受託者其事務ノ支配ニ怠慢且ツ不巧ナル人ナル時ハ附託者ハ之ニ望ムニ良善ナル家長ノ注意ヲ以テスルヲ得ス此ノ如ク怠慢且ツ不巧ナル人ニ物ノ監守ヲ信任シタルハ之ヲ信任シタル者ノ過失ナレハ將タ誰レニカ其咎ヲ歸センヤ使用物ノ貸借ニ於テハ大ニ

之ト異ナル可シ是レ全ク借主ハ物ヲ使用スルノ利アリト雖モ受託者ハ此ニ他人ノ職務ヲ行フニ由レリ

又名代人ノ如キモ其本人ニ代テ職務ヲ行フト雖モ自カラ其任ニ當テ之ヲ支配スル充分ノ才能ヲ具有スルト自負スルカ故ニ法律ハ之ニ望ムニ良善ナル家長ノ如ク事ニ注意センコトヲ以テスルナリ受託者ハ之ニ反シ一モ此ノ如キ任ニ當ルヲ約セサルナリ汝カ馬ヲ附託セント申述フレハ余ハ之ヲ承諾スルニ此馬ヲ余ノ馬ノ群中ニ入レヨトノ語ヲ以テス可シ是レ余カ余ノ馬ト同様ニ汝ノ馬ヲ秣カハント言フニ異ナラス

〔千四十七號〕右等ノ條理ニ基キ以テ我輩ハ左ノ問題ヲ解釋スルヲ得可シ

受託者ノ所有物ト其附託セラレタル物ト同時ニ危險ニ係リシニ受

通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

託者ハ其力唯、此二者中ニテ其一箇ノミノ外免カル、チ得可カラサル時終ニ己レノ物ノミチ免カレシメタリ然ル時ハ其附託セラレタル物ノ滅失ハ其責ト爲サ、ル可カラサル乎第千八百八十二條ノ使用物ノ借主チ處スルノ例ニ準擬シ以テ之カ處置チ爲サ、ル可カラサル乎

受託者ノ物滅失セシ物ヨリ高貴ナル時ハ否ト答フルニ何ソ囁嚅スルニ及ハンヤ何トナレハ受託者ハ良善ナル家長ノ爲ス可キ事チ爲シタレハナリ

受託者ノ物滅失セシ物ト同價ナル時モ亦然リ何トナレハ法律ハ受託者ニ附託者ノ物チ自己ノ物ヨリ重ンス可シト命セサレハナリ然レヒ受託者ノ物滅失セシ物ヨリ下等ナル時ハ受託者ニ責アリ若シ受託者ノ物二箇アリテ皆チ危難ニ陥リシトスレハ其救フ者ハ必

ス上等ノ物タルヤ論チ俟タス然リ而シテ受託者ハ己レノ物ニ注意スルカ如ク附託セラレシ物チ注意スルノ義務アレハナリ併シ此ノ如キ場合ニ於テハ受託者ハ滅失セシ物ノ代價チ悉ク拂フヲ要スル乎曰ク否、受託者ハ其附託者ニ對シ將ニ云ハントス余カ汝ノ物チ救ヒ余ノ物チ犠牲ニ供シテ義務チ盡セシトスルモ汝ハ余ノ犠牲ト爲シタル物ノ代價チ拂フノ義務アリ何トナレハ第千九百四十七條ニ準シテ汝ハ余ノ(附託セラレシ物チ保全スルニ附キ)被リタル損失チ余ニ計算セサル可カラサレハナリ是チ以テ余カ汝ノ物チ滅失セシメテ汝ニ負ハセタル損失ハ此物ノ越價タルニ過キス故ニ余ハ余ノ物ト汝ノ物トノ差引高チ返還スルチ要スルノミト

第千九百二十
八條
〔千四十八號〕 受託者ニ責チ負ハシムル事ニ附キ大ニ嚴ニ涉ラサルチ得サルノ場合數箇アリ請フ之チ左ニ掲ケン

通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

(一) 受託者カ自己ノ方ヨリ附託ヲ受ク可キ事ヲ請求シタル時ハ蓋シ受託者ヨリ斯ク申述ヘタルニ由リ附託者他ノ鄭重ナル注意深キ人ニ其物ヲ信任スルノ妨碍トナリシヤモ知ル可カラサレハナリ

(二) 受託者預リ債ヲ受取ル可キ約アル時斯ノ如キ別約ニテ爲シタル契約ハ雙方ノ利益ニ於テ爲ス所ノ勞力ノ賃貸ニシテ附託者ノミノ利益ニテ爲ス所ノ附託ニ非サレハナリ

(三) 受託者ノ利益ノミニテ附託セシ時例之ハ旅行ヲ爲サントスルニ方リ友人ニ其人ニ入用ナル書籍ヲ附託シテ使用ヲ許シタル時ノ如キ是ナリ

〔附言〕 單ニ受託者ノ利益ノミニナシタル附託ト言フハ太過ナリ何トナレハ受託者ノ利益ノ爲メノミニ爲シタル附託アルヲ無シ若シ斯ノ如キ附託アラハ是レ使用物ノ賃借ニ外ナラサレハナリ

第一千九百三十三條

〔千四十九號〕 又之ヲ其儘ニテ返還ス云々トアリ此ニ由テ受託者ノ返還ス可キ者ハ其附託セラレシ物ノ外ニ在ルヲ無シ故ニ意外ノ事ニ

因リ此物ノ滅失スルニ於テハ其義務ハ目的ヲ失ヒシヲ以テ直ニ消滅ス

故ニ物ノ破損ハ其所有者タル附託者之ヲ擔當セサルヲ得ス因テ其物ヤ意外ノ事ニテ粗惡トナルニ於テハ附託者ノ不利トナリ又其善良ニナル時ハ附託者ノ幸トナル可シ何トナレハ受託者ハ返還ヲ請求セラレシ時ノ儘ニテ物ヲ返ス可ケレハナリ

然レモ物ノ滅失受託者其返還ヲ遲延シタリシ後ニ在レハ受託者ハ

通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

之ヲ以テ己レノ責ニ歸セサル可カラス但シ其物タル附託者ノ手ニ在リシトスルモ同シク其滅失セシニ相違ナキノ證明アル時ハ別段ナリトス(第千三百二條)

預リ質ヲ受ク可キノ約ヲ得タル受託者ハ意外ノ事ヲ明約ヲ以テ己レニ擔當スルモ差支ナシ(第千七百七十二條ニ據ル)預リ質ヲ受ケサル受託者モ亦此ノ如キ明約ヲ爲スヲ得可シ併シ此別約タル其實未必ノ贈與ニ異ナラサレハ無償ニテ收受ス可キノ能力ヲ有スル者公證人ノ面前ニ於テ之ニ協議セスンハ其効ナシ

第千九百四十
四條

〔千五十號〕又(其催促アル時ハ直ニ云々トアリ返還ノ期限ニ附キ一ノ明約モ無ク又黙約モナキ時ハ受託者ハ己レノ欲スル時物ノ返還ヲ爲スヲ得可ク附託者モ亦己レノ欲スル時其返還ヲ請求スルヲ得可シ然レモ若シ附託シタル物其返還モラル可キ場所ヨリ遠地ニ在レ

ハ則チ附託者ハ直ニ其返還ヲ請求スルヲ得ス受託者モ亦先方ノ不都合ニ關セスシテ其返還ヲ爲ス能ハス

若シ返還ノ期限ノ取定アルニ於テハ受託者ハ其期限前ニ強テ附託者ニ物ヲ返シ以テ己レノ義務ヲ免カル、能ハス然レモ附託者ハ己レノ欲スル時其返還ヲ請求スルノ權アリ何トナレハ其期限ハ附託者ノ爲メニ取定メシ者ナレハナリ

右ノ規則ハ第千九百四十四條ニ載スル所ニシテ其一例外ナル者モ亦載セテ該條ニ在リトス若シ受託者ニシテ返還ヲ爲サントスルニ際シ他ヨリ其故障ヲ受シレハ定期前ハ勿論滿期後ト雖モ其附託セラレタル物ヲ返還ス可カラス此例外ニ加フル第千九百三十八條及ヒ第千九百四十八條ニ在ル二箇ノ例外ヲ以テセヨ

〔千五十一號〕物ヲ監守ス可キノ別約他ノ契約ニ附従スル事間アリト

通常ノ附託ノ本義及ヒ其本質

ス併シ之レ有レハトテ其契約ノ變シテ附託トナル事ナカル可シ是
 ナ以テ余カ或人ニ委スルニ余ノ馬ヲ歲市ニ導キ之ヲ賣拂フヲ以
 テスレハ名代人ハ余ヨリ信任セラレシ物ヲ監守スルノ義務アリト
 雖モ是レ唯名代契約タルニ過キス此場合ニ於テハ物ノ監守ハ契約
 ニ附従スル第二ノ目的タルニ止マルノミ然リ總テ契約ノ性質ヲ定
 メンニハ其一大眼目タル所ノ點ニ附テ考案ヲ下サ、ル可カラズ
 [千五十二號] 今使用物ノ貸借ト附託ノ事トヲ比較シ以テ前文ニ陳述
 シタル所ノ論理ヲ畢ラントス

第一 借主ノ物ヲ受取ルヤ之ヲ使用センカ爲メナリ受託者ノ物ヲ
 受取ルヤ之ヲ監守センカ爲メニシテ使用スルカ爲メニ非サルナリ
 故ニ受託者ハ其附託者ヨリ之ヲ使用スルノ允許ヲ得ルコアリト雖
 モ其之ヲ使用スルニ於テハ此ニ由テ附託ト貸借トノ混淆シタル無

名契約ヲ成立セシムルニ至ル(千四十五號參觀)

第二 借主ハ人ニ依テ自己ノ用ヲ辨ス○受託者ハ人ノ用ヲ辨ス

第三 借主ハ物ヲ保全スルニ附キ善良ナル家長ノ如ク極メテ之ニ
 注意スルノ義務アリ○受託者ハ自己ノ物ヲ注意スルカ如ク之ヲ注
 意シテ足レリ

第四 使用物ノ貸借ニ於テ其期限ヲ定ムルハ是レ全ク借主タル負
 債主ノ利益ヲ圖ルニ在リ○附託ニ於テ其期限ヲ定ムルハ附託者タ
 ル債主ノ爲メナリ

附託ノ論理ハ皆ナ既ニ我輩ノ陳述セシ所タルヲ以テ今其細密ノ條
 件ニ就テ大ニ講究スル所アラントス
 通常ノ附託ニ必要ノ者アリ又隨意ノ者アリ

○第二款 隨意ノ附託

隨意ノ附託

ボローニオロンテール

第一千九百二十一條 [千五十三號] 隨意ノ附託トハ雙方ノ者少シモ外物ニ壓セラレ、事ナ

ク相互ノ協議ヲ以テ勝手ニ物ノ附託ヲ爲ス事ヲ謂フ必要ノ附託トハ之ニ反シ火災、騒亂、破船等ノ避ク可カラサル事故アリテ受託者ヲ擇フノ迫ナク且ツ附託ヲ爲サ、ルヲ得サル時止ムヲ得スシテ物ノ附託スル事ヲ謂フ

[千五十四號] 第壹 雙方ノ者ノ能力

「附託ハ物ノ所有者之ヲ爲シタル時又ハ其所有者ノ明許或ハ默許アリテ外人之ヲ爲シタル時ニ限り法ニ適從スル者トス」ト云フ規則ヲ了解シ以テ其趣旨ヲ探知セサル可カラス其旨趣タル所有者ニ非サル人ヨリ物ノ附託ヲ受ケタル時ハ受託者ハ其所有者ニ對抗スルヲ得サルニ在リ故ニ受託者ハ物ノ粗惡ナル事ニ附キ其被リシ損害ヲ償ハシム可キ訴又ハ約束ニ因リ其得可キ預リ賃ヲ請求スルノ訴ヲ

第一千九百二十一條
第一千九百二十二條
第一千九百二十三條
第一千九百二十四條
第一千九百二十五條
第一千九百二十六條
第一千九百二十七條
第一千九百二十八條
第一千九百二十九條

此物ノ所有者ニ對シテ起スノ權ナシ然レモ附託セラレシ物ヲ保全スル事ニ附キ爲シタル費用ノ如キハ事務管理ノ訴權ニ因リ其償却ヲ請求スルヲ得可キナリ是ヲ以テ所有ニ非サル物ノ附託ハ受託者ト所有者トノ間ニ於テ一モ其効ヲ生セサル可シ

然レモ此契約ヲ以テ附託者ト受託者トノ間ニハ効ナキ者ト爲ス可カラス其果シテ斯ノ如クナル所以ヲ證スルニ足ル可キ者アリ即チ受託者ハ其嘗テ附託セラレタル物ノ附託者ニ屬セス又ハ盜物タルノ證據ヲ有スルト雖モ之ニ其返還ヲ拒絕スルヲ得サルノ場合アル事是ナリ(第一千九百三十八條)

附託物其附託者ノ所有ニ非サルコトハ雙方ノ間ニ附託ノ効ヲ生スルニ妨ケナシト雖モ其附託ヲ變換ス何トナレハ法律ハ受託者ニ物ノ盜品ナル事ト其所有者タル人トヲ發見シタル時ハ其物ノ附託ヲ受

隨意ノ附託

ケタリシ事ヲ之ニ通知シ且ツ充分ノ期限ヲ定メテ其中ニ其物ヲ引取ル可キノ催促ヲ爲ス可シト命スレハナリ(法律ニテ所有者ノ引取ル可キ期限ヲ定メサルニ因リ受託者カ定メタル期限ノ充分ナルヤ否ヤハ裁判所ニテ實地ニ附キ決ス可キナリ)

附託者ニシテ此責務ヲ怠タリシ時ハ所有人ヨリ之ニ償金ヲ請求スルヲ得可ク又附託者其盜品ナルヲ知テ其附託ヲ受ケシ時ハ之ヲ盜犯ノ徒ニ準擬シ以テ刑ヲ科スルヲ得可シ

是ヲ以テ若シ此ノ如ク責ヲ免カレント欲スレハ其附託者ヨリ返還ヲ訟求セラル、ト雖モ其返還ヲ直ニ爲ス事ヲ拒絕シ以テ其附託ヲ受ケタル事ヲ所有者ニ通知スルカ若又既ニ其通知ヲ爲シタルニ於テハ約定ノ期滿ツルヲ待ツ可キナリ

假令ヒ所有者ヨリ返還ヲ請求スルモ受託者ハ其附託セラレシ物ノ

愈之ニ屬スルヤ否ヤヲ判定スルノ權ナキヲ以テ直ニ其返還ヲ爲ササルヲ要ス先ツ所有者ノ請求アル旨ヲ其附託者ニ通知ス可シ而シテ若シ此二人ノ間ニ爭論起ルアラハ物ノ所有者タルハ孰レナルヤヲ決スル時迄己レニ之ヲ保有セサル可カラス

然レモ其所有者ノ何人タル者ヲ知ラサリシ時又ハ既ニ所有者ニ附託ノ事ヲ通知セシニ其所有者ヨリ充分ノ期限内ニ請求セスシテ空シク經過シタリシ時ハ受託者ハ所有者ニ對シ一モ責務ナケレハ假令ヒ物ノ附託者ニ屬セサルノ證據アル時ト雖モ之ニ返還セサル可カラス

[千五十五號] 附託契約ノ効ヲ生センニハ雙方ノ者ニ結約スルノ能力無カラサル可カラス然レモ義務ヲ負フ可キ一方ノ者ニ能力アルヲ要スル而已ナレハ(且ツ總テ能力ノ者ハ其結約者ノ無能力ヲ以テ之

ニ對抗スルヲ得サレハ一方ノ者無能力ナリトモ是ニ由テ能力アル
 他ノ一方ノ者ノ附託ニ附テノ義務ヲ負フノ妨トナラス
 附託者ハ無能力者ニシテ受託者ハ能力者ナリトセン然ル時ハ附託
 者契約ヲ取消サシムルヲ得ク從テ其約シタル債銀ヲ拂フ可キ義
 務又ハ物ノ粗惡ナル事ニ附キ受託者ノ被ムリタル損害ヲ償フ可キ
 義務ノ如ク附託ノ正當ナル時總テ其負フ可キ義務ヲ免カル、ヲ得
 可シ但シ若シ物ノ粗惡ナル事ヲ知テ之ヲ附託シタル時ハ此契約ハ
 其身ニ取テハ一ノ犯罪(民法上ノ犯罪)トナルヲ以テ附託者ハ之ヲ取
 消スノ權ナシトス(第一千三百十條)加之無能力ナル附託者ト雖モ受託
 者ノ損失ニ附テ己レヲ益スルヲ得サレハ附託ノ事ニ因リ受託者カ
 爲シタル費用中ニテ己レノ利トナリシ分迄ハ之ニ返還スルノ義務
 アリ何トナレハ受託者ハ不當利益取還ノ訴權准契約篇ニ於テ詳カ
アグション、ド、インレム、ルツ

ナリ)ニ因リ之ヲ請求スルヲ得可ケレハナリ
 附託者ヨリ契約ノ取消ヲ請求セサレハ受託者ハ附託ノ事ヨリ生ス
 可キ總テノ義務ヲ盡サ、ル可カラス

〔千五十六號〕

附託者ハ契約ヲ取消サシメ以テ附託ノ事ヨリ生ス可キ義務(例之ハ約
 定ノ期限内中物ヲ監守ス可キ義務又ハ自己ノ物ヲ取扱フカ如ク注意
 セサリシ事ニ附テ生シタル損害ヲ償フ可キ義務)ヲ免カル、ヲ得可
 シ附託者ハ其嘗テ附託シタル物ノ受託者ノ手ニ在ラン限り之ヲ取
戻戻ノ訴ヲ起スヲ得可ク又之ニ反スル場合ニ於テハ物ノ滅失ニテ受
シヨ、アン、ルワン、カシヨ託者ノ得タル利益ニ附キ不當利益取還ノ訴ヲ起スヲ得可シ例之ハ
 他人ノ過ニテ附託物ヲ滅失セシメタル時受託者其償金ヲ得テ之ヲ
 有益ノ事ニ使用セシカ如キアテハ附託者ハ受託者ニ此償金ヲ要

望スルヲ得可キノ類ナリ然レト受託者既ニ之ヲ無益ノ事ニ費シ終
リタレハ附託者ハ一モ之ニ要望ス可キ者ナシ(第千三百十二條)但シ
其詐詭ニテ之ヲ爲シタル時ハ別段ナリトス何トナレハ無能力者ト
雖モ詐詭ヲ以テ事ヲナシタル時ハ其犯罪(民法上ノ犯罪)ヨリ生シタ
ル義務ヲ取消スヲ得サレハナリ(第千三百十條)

附託者ハ之ニ反シ附託ノ事ヨリ生スル總テノ義務ヲ負ハサルヲ得
ス

第千九百二十
三條第千九百
二十四條

(千五十七號) 第貳 附託ノ證據

此處ニテハ證據法ノ普通條規ヲ履マサル可カラス故ニ百五十「フ
ラ」以下ノ價ノ附託ハ證人ニテナリ又人意ノ推測ニテナリ總テ如何
ナル方法ヲ以テモ之ヲ證スルヲ得可シ(第千三百四十一條)第千三百
五十三條(百五十「フラン」以上ノ附託ハ證據ノ端緒アル場合又ハ證書

アリシモ意外ノ事ニ因リ之カ爲メ滅失シタル場合ニアラスンハ證
人又ハ事實ノ推測ヲ以テ之ヲ證スルヲ得サルナリ(第千三百四十七
條及第千三百四十八條)證書モナク又證人モ無キ時ハ受託者ノ申立
ル所ハ附託ノ事ニ關スルモ附託ノ目的タル物ニ關スルモ其返還ノ
事ニ關スルモ皆ナ是レ正實ノ事ナリト思考セサルヲ得ス然レト附
託者ハ之ニ事實ノ顛末ニ附テ糾問ヲ受ケシムルヲ得可ク又之ニ宣
誓ヲ爲ス可キノ求ヲ爲スヲ得可シ

古法ニ於テハ物ノ代價百五十「フラン」以上ナル時ト雖モ證人ヲ以テ
其附託ノ事ヲ證シ得ルノ成規ナリキ蓋シ附託者ハ己レカ依頼シタ
ル受託者ニ對シテ其證書ヲ要望スレハ之ニ信ヲ置カサルヲ示ス
ノ道理ニテ之カ爲メ受託者ノ憤怒センヲ恐ル、者トシテ普通法
ノ條規ニ據ラサルナリ民法ニ於テ第千三百四十一條ト第千九百二

附託ノ證據

十三條トニ於テ附託ニ附テノ證據ハ普通法ノ關スル所ナリト再言
スルモ是レ全ク此古法ノ成規ヲ廢センカ爲メナリ

○第三款 受託者ノ義務

自第九百二十七條至第九百三十六條

〔千五十八號〕 第壹 義務

受託者ハ左ノ義務ヲ負フ者トス

第一 自己ノ物ヲ監スルカ如ク其附託セラレタル物ヲ監守セサル
可カラス此義務ノ明解ト受託者ニ其責ヲ負フハシムルニ附キ殊ニ
嚴ニ渉ル可キ四箇ノ場合トハ千四十六ヨリ千四十八ニ至ル迄ノ諸
號ニ於テ我輩既ニ之ヲ陳述シタリ

第二 附託者ノ明許又ハ默許ナキニ於テハ附託セラレタル物ヲ使
用スルヲ得ス

第三 附託セラレタル物閉鎖シタル箱匱中ニ入レアル時又ハ封印

シタル包皮中ニ入レアル時ハ之ヲ知ランカ爲メ搜索ス可カラス

第四 其受取りシ物ヲ其儘ニテ返還セサルヲ得ス

〔千五十九號〕

返還ス可キ物○受託者ハ己レニ引渡サレシ物ノ全體ト

之ニ附屬スル器具及ヒ其生シタル利得トヲ返還セサル可カラス但
シ此物ノ損スルコトアリト雖モ己レノ過失ニ出テサル上ハ自己ノ責
ト爲スニ及ハス

附託セラレタル物ノ貨幣ナル時ハ其返還ヲ遲延セシ日ヨリ以後ノ
利息ヲ拂ハサル可カラス此効ノ生スルニハ唯一ノ催促アリシ事ニ
テ充分ナリ何トナレハ受託者ハ此處ニテハ金額ノ負債主ニ非スシ
テ(金額ノ負債主ナレハ出訴アリテ利息ヲ生ス)確定物ノ負債主ナル
ニ由リ適用ス可キ條規ハ第千百五十三條ニ在ラスシテ第千百三十
九條ニ在レハナリ

受託者ノ義務

貨幣ヲ附託セラレタル者ハ其附託シタル者ト同一ノ貨幣ヲ返還スルヲ要ス是レ此者ハ確定物ノ負債主ニシテ其損失ハ固ヨリ附託者ノ擔當ス可キ者ナレハナリ故ニ此貨幣ノ價ニ増減アリシトモ齒牙ニ懸クルニ足ラス唯現ニ在ル儘ニテ返還スレハ受託者ハ其義務ヲ免カル、ヲ得可キナリ

意外ノ事又ハ他人ノ過失ニ因テ附託セラレタル物ノ滅失シタル時ハ受託者其償トシテ得タル物或ハ代價ヲ返還セサル可カラズ若シ受託者ニシテ一モ其償ヲ得サリシニ於テハ此ニテ其義務ハ消散スルニ至ル但シ附託者ハ其物ヲ滅失セシメタル者ニ對シ又ハ騷亂ニテ損害ヲ受ケシ者ニ政府ヨリ償ヲ與フルノ令アル時ハ政府ニ對シ償ヲ求ムルヲ得可シ

受託者其附託セラレタル物ヲ廉價ニテ賣渡シ而シテ之ヲ良意ノ買主ニ引渡シタルニ於テハ其買主タルヤ動産ニ附テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シト云フ原則ニ保護セラレ、ヲ以テ附託者ハ最早之ヲ取戻スヲ得ス

然レ此賣買ハ素ト過失ヨリ發起セシ者タルニ因リ受託者ハ附託者ニ償フニ賣買ノ代價ヲ以テセスシテ其附託セラレシ物ノ眞價ヲ以テセサル可カラズ然レ此賣買ノ代價カ物ノ眞價ヨリ高額ナル時ハ受託者ノ返還ス可キハ其代價タルヤ論ヲ俟タス

受託者ノ相續人其先人ノ嘗テ附託セラレタル物ヲ然ラサル者ト思慮シテ之ヲ廉價ニテ良意ノ買主ニ賣渡シタル時ハ附託者此買主ニ對シ訴ヲ起スノ權ナク唯其受託者ノ相續人ニ請求スルノ一路アルノミ併シ其請求シ得ル金額ハ幾何ナル乎曰ク相續人ノ得タル代價ニシテ附託ノ目的タル物ノ眞價ニ非サルナリ法律ニ於テハ受託者

ノ自カラ爲シタル讓渡ハ詐詭又ハ(左ナクトモ)過失ナリト推斷スト
 雖モ斯ノ如ク附託ノ事ヲ知ラスシテ良意ニテ爲シタル此讓渡ハ全
 ク意外ノ事ニ出テタル者ト同視スレハナリ
 此相續人未タ其賣渡ノ代價ヲ受取ラサレハ其買主ニ對シテ之ヲ請
 求スルノ權ヲ以テ附託者ニ與フルノ義務アリ
 受託者ノ相續人其先人ノ營テ附託セラレタル物ヲ良意ニテ耗盡シ
 又ハ贈與シタルニ於テハ此物ノ價ヲ返還セサル可カラス是レ世人
 ノ可トシテ遵奉スル所ノ成例ナリ
 〔千六十號〕 附託セラレシ物ハ何人ニ返還ス可キ乎曰ク此物ハ或ハ其
 附託者或ハ其所有者或ハ之ヲ請取ル可キノ委任ヲ受ケシ者ニ返還
 スルヲ要ス

自第九百三
 十七條至第千
 百四十一條

附託者又ハ所有者ノ死去シタル時ハ附託セラレシ物ハ之ヲ其相續

人ニ返還セサルヲ得ス

若シ其相續人數名アリテ附託セラレシ物、金額、麥類等ノ如ク現ニ區
 分シ得ル者タル時ハ宜シク之ヲ分割シ以テ其中ノ各人ニ配當ス可
 キナリ反對ノ場合ニ於テハ相續人間ニテ協議シテ物件ヲ受取ル可
 シ

物件ヲ受取ル可キノ委任ヲ受ケシ者死去スルニ於テハ之ヲ附託者
 ニ還附ス可シ何トナレハ名代契約ハ之ヲ受ケタル者ノ死去ニ因テ
 消滅スレハナリ(第二千三條)

其委任ヲ解キタル時モ亦之ニ準ス但シ受託者此事ヲ知ラサリシ時
 ハ別段ナリトス

附託者附託ヲ爲シテヨリ後ニ其財産ヲ支配スルノ權ヲ失ヒシ時ハ
 附託者ノ爲メニ支配スル人ニ返還ヲ爲サ、ル可カラス例之ハ附託

受託者ノ義務

者治産禁ヲ受ケタル時ハ其後見人ニ返還ヲ爲ス可ク又附託者婦人ニシテ他ニ嫁シタル時ハ其夫ニ之ヲ爲ス可シ
又附託ヲ爲シタル者ハ支配人ニシテ後ニ支配スルノ權ヲ失ヒシ時ハ始メ支配ヲ任シタル本人ニ返還ス可シ例之ハ幼者丁年ト爲リシ時ハ其幼者ニ又後見人其職ヲ解カレタル時ハ新後見人ニ又婦ノ憂婦トナリシ時ハ其婦ニ返還ヲ爲ス可シ

〔千六十一號〕 我輩ハ千五十四號ニ於テ所有者タラサル者ヨリ物ノ附託ヲ受ケタル者ハ何人ニ其返還ヲ爲スノ義務アル乎ヲ開陳セリ

〔千六十二號〕 返還ハ何レノ場所ニ之ヲ爲スヲ要スル乎返還ハ附託ヲ爲セシ場所ニ於テ之ヲ爲スヲ常則トス但シ他所ニ之ヲ爲ス可キノ約アル時ハ別段ナリ然ル時ハ運搬ノ費ハ附託者之ヲ擔當ス可シ附託物ハ其要求セラル、處ニ之ヲ返還ス可キ約ヲ暗ニ爲ス事屢之

レ有リ例之ハ余カ羅馬ニ旅行中汝ニ時計若クハ他ノ物ヲ附託シタリトセンニ汝ハ此物ヲ余ノ要求スル處ニテ返還ス可キノ約ヲ暗ニ爲セシナリ左ナキニ於テハ余カ佛蘭西ニ還テ返還ノ訴ヲ起シタル時受託者ナル汝ハ〔余ハ汝ノ時計ヲ返還セント欲スルモ其附託ヲ受ケタル所ハ羅馬ナレハ余ハ羅馬ニ於テ之ヲ汝ニ渡サント申立ル〕ト申立ルヲ得ルニ至ラン

〔千六十三號〕 返還ノ期ハ如何曰ク千五十號ニ詳カナリ

第六千九百四十六條
〔千六十四號〕 受託者ニシテ其附託セラレタル物ノ所有者ナルヲ覺知シタル時ハ其義務ハ直ニ消滅ス可シ

〔千六十五號〕 第貳 附託ノ事ニ附キ拘身ヲ受ル事

第二千六十條ノ第一項ノ法文ニ必要ノ附託ヲ受ケタル者ハ拘身ヲ受ク可シトアリ併シ該條ニ隨意ノ附託ヲ受ケタル者ニモ之ヲ受ケ

受託者ノ義務

シム可シト云フ明文アルヲ見サレハ此者ハ決シテ拘身ヲ受ル事ナ
キカ如シ

第一千九百四十
五條

然レモ第一千九百四十五條ニ隨意ノ附託ヲ受ケタル者不正ノ所爲アル
時ハ拘身ヲ免カル、ヲ得ストアレハ此者ト雖モ絶テ拘身ヲ受ル
ヲ無シトモ謂フ可カラス何トナレハ拘身ヲ受ケシメ得ル者ニ對セ
スハ拘身ヲ免カル、ヲ得ス杯ト言フヲ得サレハナリ

現ニ他ノ法律ニテ此類ノ受託者ニモ拘身ヲ申渡スヲ有ルナリ先ツ
訴訟法第二百二十六條アリテ何人ニ論ナク民事ニ附キ三百「フラン」以
上ノ償金ヲ拂フ可キ者ニ對シ拘身ヲ申渡スヲ許セリ故ニ三百「フ
ラン」以上ノ額ヲ拂ハセンカ爲メ裁判官ハ受託者ニ之ヲ受ケシムル
ヲ得可キナリ次ニ物品ヲ返還セシメ又ハ償金ヲ差出サシムルカ爲
メ各犯罪人ニ拘身ヲ受ケシムル刑法第五十二條ト附託物ヲ消費シ

又ハ竊取シタル受託者ヲ背信罪トシテ罰スル其第四百八條ト併
合スレハ亦以テ受託者ニ拘身ヲ申渡シ得ル者ト爲ス可シ

故ニ附託物ノ受託者ノ過失ノミニテ滅失セシ事アリテ裁判廳ヨリ
之ニ三百「フラン」以上ノ償金ヲ申渡サ、ルヲ得サル時附託者ノ要求
アルニ於テハ裁判官此受託者ヲ拘身スルヲ得可シ

上文ニ得可シト言ヘリ其故何トナレハ此處ニテ拘身ヲ申渡スハ裁
判官ノ權内ニ在レハナリ併シ必要ノ附託ヲ受ケタル者ニ對シテハ
裁判官第二千六十條ノ第一項ニ據リ是非トモ之ニ拘身ヲ申渡サ、
ル可カラス

又附託者ノ要求アルニ於テハトアリ其故何トナレハ裁判官ト雖モ
附託者ノ求メテ受ケスンハ拘身ヲ申渡スノ權有ラサレハナリ
受託者カ不正ノ心志ヲ以テ詐詭ヲ行ヒタル時ハ裁判官附託者ノ求

受託者ノ義務

メニ從ヒ是非トモ拘身ヲ申渡スヲ要ス。○要ストアリ何トナレハ之ヲ申渡スハ法律ノ裁判官ニ命スル所ナレハナリ
過失アル受託者ト雖モ惡意ナキ以上ハ拘身ヲ免カル、ヲ得可シ蓋シ第千九百四十五條ハ不正ノ所爲アル受託者ノミニ限り之ヲ免カレシメサレハナリ

右ニ反シ不正ノ所爲アル受託者ハ決シテ拘身ヲ免カル、ヲ得ス總テ良意ノ負債主ニアラスンハ拘身ヲ免カル、ヲ得サルトハ是レ固ヨリ通常一般ノ原則タルヲ以テ不正ノ所爲アル受託者ノ之ヲ免カル、ヲ得サルヤ明カナレハ假令ヒ第千九百四十五條ニ此事ナクトモ之ヲ知ルニ何ノ難キヲカ之レ有ラン何トナレハ不正ノ所爲アル受託者ニ良意ノ無キヤ照々タレハナリ
以上陳述セシ所ノ事ヲ概言センニ隨意ノ附託ヲ受ケタル者カ過失

ヲ爲シタル時之ニ拘身ヲ受ケシメサルハ裁判官ノ權内ナリトス併シ此者ニ不正ノ所爲アル時ハ裁判官是非トモ之ニ拘身ヲ申渡サル可カラス必要ノ附託ヲ受ケタル者モ亦之ニ準ス

〔附言〕 千八百六十七年七月二十二日ノ法律以後拘身ノ事ハ商事民事及ヒ外國人ニ附テハ廢止セラレ獨リ重罪、輕罪及ヒ違警罪事件ニ附テ存在スルノミ

〔千六十六號〕 第參 附託者ノ訴權及ヒ其時効

使用物ノ貸主ノ訴權ニ附テ我輩既ニ開陳シタル者ハ總テ茲ニ適用ス可シ(九百六十號)

○第四款 附託者ノ義務

第千九百四十七條第千九百四十八條

〔千六十七號〕 附託者ハ左ノ義務ヲ負フ者トス

第一 其附託シタル物ノ粗惡ナル事ニ附キ受託者ノ被ムリタル損

附託者ノ義務

害ヲ償ハサル可カラズ
第二 其受託者カ物ヲ保全スル爲メ爲シタル費用ヲ返還セサル可
カラズ

下ロリ、下、デタンシヨ

此二ノ義務ノ保證タル可キ者ハ押留ノ權ナリ受託者ハ附託ヲ受ケ
タル事ニ由テ附託者ニ對シテ請求ス可キ者ノ拂方ヲ悉ク得ル時迄
其附託物ヲ押へ留ルノ權アリ

受託者ハ其附託セラレシ物ヲ返還シタルノ後ト雖モ第二千二百二條
ノ第三項ニ從ヒ保全ノ費用ヲ得ルカ爲メ此物ニ附キ先取特權ヲ有
スルナリ然レモ物ノ粗惡ナルコトニテ其被ムリタル損害ノ償ヲ得ル
カ爲メ受託者ニ斯ノ如キ特權アリト云フ規則アルヲ見ス

○第五款 必要ノ附託

自第千九百四
十九條至第千
九百五十一條

〔千六十八號〕我輩ハ既ニ必要ノ附託ヲ釋義シテ言ヘリ曰ク必要ノ附

託トハ火災、騷亂、破船等ノ如キ非常ノ事由アリテ附託者ヲ撰フノ違
ナシ且ツ附託ヲ爲サ、ルヲ得サル時止ムヲ得スニテ物ヲ附託スル
事ヲ謂フト〔千五十三號參觀〕此類ノ附託ト隨意ノ附託ト異ナル所ノ
要點二箇アルヲ見ル可シ

第一ノ差違ハ拘身ノ事ニ在リ〔千六十五號參觀〕第二ノ差違ハ附託ヲ
證スル事ニ在リ〔千五十七號參觀〕必要ノ附託ノ事モ亦其目的タル物
ノ代價モ〔百五十「フラン」〕ヲ超過スル時ト雖モ總テ證人ヲ以テ之ヲ證
スルヲ得可シ是レ債主其權利ヲ證スル證書ヲ得ルコト能ハサリシノ
情實アルニ於テハ之ニ許スニ證人ヲ以テスト云フ原則ノ適例ナリ
〔第千三百四十八條〕

然レモ附託物ノ請求スル人ヲ正シカラサル者ト認メ且ツ之ヲ受取
ラサリシト答辯スル被告人ハ世人ヨリ尊重セラル、者ナレハ法律

必要ノ附託

ハ裁判官ニ證人ヲ拒絕スルヲ許ス(第千三百四十八條第二項)

自第千九百五十二條至第千九百五十四條

〔千六十九號〕 行旅ノ旅店ニ投スルヤ店主ノ人物如何ヲ精察シ而シテ

後チ其所持品ヲ預クルノ違ナケレハ法律ハ其旅店ニ物品ヲ持來リ

シ事ヲ以テ必要ノ附託ナリト看做ス依テ左ノ二件ノ發出スルアリ

第一 此類ノ附託ハ其物件ノ價額幾何ナルヤニ關セス雙方ノ者ノ

身分ト事實ノ模様トニ由リ證人ニテ之ヲ證セシムルヲ得可シ(第千

三百四十八條第二項)

第二 裁判廳ニ於テ旅店ノ主人カ過失ヲ爲シタル事ヲ知ラハ唯、此

事ノミコテモ之ニ拘身ヲ受ケシメサルヲ得サルコトアリ(第千六十

條第一項)

物ヲ持來リシ事ノミチ以テ附託ナリト看做サ、ルヲ得ス何トナレ

ハ法律ハ其物ノ店主ニ渡サル、チ要望セサレハナリ故ニ唯、之ヲ旅

店又ハ店内ニ備附タル物置場ニ置ク事ニテ充分ナリトス然リト雖

モ旅人ノ過失ニテ物ノ滅却スルコト有ラハ其責ハ己レニ歸スルヤ論

ヲ俟タス故ニ各人ノ出入スルヲ得可キ場所ニ輕便ナル物ヲ置キ之

ヲ店主ニ告知セス又ハ其舍室ノ鑰ヲ捨テ置クカ如キハ是レ皆ナ人

ノ過失ナリトス

加之若シ旅人ニシテ貨幣、銀行紙幣又ハ他ノ大切ナル高價ノ品物ヲ

持來リシ時ハ宜シク其旨ヲ店主ニ告知シ之ヲシテ殊ニ其品物ニ注

意スルヲ得セシメサル可カラス然ラサレハ店主ハ其大切ナルヲ知

ルコト能ハサルヲ以テ之カ滅失スルコトアルモ旅客ノ通常携帯スル物

品ノ價額ニ比較シ償金ヲ拂フノ責アルノミナリ

旅店ノ主人ハ他人ノ所爲ト雖モ之ヲ己レノ責ニ歸セサルヲ得サル

ノ場合アリ例之ハ僕婢又ハ其使役ヲ受ル者盜ヲ爲シタル事又ハ損

害ヲ被ムラシメタル事ヲ以テ己レノ責トナサ、ルヲ得サル而已ナ
ラス唯ニ旅店ニ出入スル外人ノ爲シタル分ヲモ亦己レニ擔當スル
ノ義務アリ

旅店ノ主人持兇器強盜ノ爲メ旅人ノ物品ヲ奪ハレ又ハ意外ノ事ニ
由リ之ヲ失ヒタル時ハ其責ニ任スルヲ要セス

旅客其旅店ヲ立去ルニ臨ミ持テ往クヲ欲セサル物品ヲ店主ニ託ス
ル時ハ必要ノ附託ハ隨意ノ附託ニ變ス

○第三章 係争物ノ附託

第一千九百五十
五條

〔千七十號〕係争物ノ附託ニ二種アリ一ハ契約上ノ係争物ノ附託一ハ

ヒケストル

裁判上ノ係争物ノ附託是ナリ

○第一款 契約上ノ係争物ノ附託

第一千九百五十
六條

〔千七十一號〕契約上ノ係争物ノ附託トハ二人又ハ數人互ニ相争フ物

ヲ他人ノ手ニ渡シ置キ他人其争ノ終ル時迄ヲ監守シ其物ヲ得可キ
ノ裁判言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ返還ス可キ事ニ任スルヲ謂フ

第一千九百五十六條ニ此類ノ附託ヲ數人中ノ一員ニテ爲シタル場合

ヲ豫定ス是レ一ノ校正ス可キ誤謬ナリ何トナレハ數人中ノ一員ニ

テ爲シタル係争物ノ附託ハ是レ全ク通常ノ附託タルニ過キサレハ

受託者ハ其争ノ終ル前ト雖モ附託者ノ請求アルニ於テハ直ニ之ヲ

返還ス可キノ義務アレハナリ

契約上ノ係争物ノ附託ハ其本質ニ於テハ無報ノ者ナリ受託者ノ賃

銀ヲ受ルハ法律ノ禁セサル所ナリト雖モ此ノ如キ條件アルニ於テ

ハ其契約ハ附託ト勞力ノ賃貸トヲ併合シタル者ト爲ル可シ

〔千七十二號〕若シ此附託無報ナル時ハ通常ノ附託ト異ナル所唯ニ二箇

アルノミ

係争物ノ附託 契約上ノ係争物ノ附託

第一千九百五十
八條至第一千九
百六十條

第一 通常ノ附託ハ動産ノミニ限ル者トス(第千九百十八條)契約上ノ係争物ノ附託ハ動産ノミニ限ル可カラス不動産ト雖モ亦以テ其目的トナスヲ得可シ然レモ人或ハ云ハシ不動産ヲ監守セシムルハ名代契約タルニ非スヤト成程不動産ヲ以テ争ニ係ラサル者トナサハ此言ハ信ナリト謂フ可シ何トナレハ此不動産ヲ監守セシムルモ一モ移轉ヲ爲スコトナケレハナリ然レモ今ノ場合ハ大ニ之ニ異ナルアリ何トナレハ係争物ノ附託ハ一時受託者ニ其占有權ヲ移轉シ争論中勝ヲ得ル者ノ爲メ其物ヲ所持セシムルノ目的タルコト多キニ居レハ實ニ一ノ移轉アリテ其係争物ノ占有權ハ暫ク他人ノ掌中ニ落シト言フヲ得レハナリ

第二 受託者ハ争論ノ終ラサル前ニハ附託(係争物ノ附託)ヲ謂フニ關係スル者ノ許可ヲ得ルカ又ハ正當ナル譯柄ヲ申立ルニ非サレハ

義務ヲ免カル、ヲ得ス此規則ハ係争物ノ附託ト通常ノ附託トノ異ナル所以ヲ示スニ足ル第二ノ要件トシテ第千九百六十條ノ掲クル所ナリ余ハ之ヲ了解スルニ困ム通常ノ附託モ數人ニテ其期限ヲ定メテ之ヲ爲シタル時ハ受託者ハ附託者ノ允許アル場合ノ外其満期前ニ義務ヲ免カル、ヲ得サルヤ明カナリ亦係争物ノ附託ニ於テモ各附託者協議ノ上ハ其満期前(總論ノ落着前)ニ返還ヲ請求スルヲ得可キヤ知ル可キナリ故ニ第千九百六十條ノ特ニ掲クル所ハ係争物ノ附託ニ於テハ受託者正當ノ譯柄ヲ申立テ裁判官ニ其然ル所以ヲ納得セシムレハ定期前ト雖モ其義務ヲ免カル、ヲ得ルト云フ一件タルニ過キス通常ノ附託ヲ受ケタル者ニ此ノ如キ特權ヲ與フルノ法文ハ余未ダ曾テ之ヲ見スト雖モ此類ノ受託者ニ此特權アルハ法律ノ文意ニ由テ明カナリ何トナレハ第千八百八十九條ト第二千七

條トニ就テ考案ヲ下タセハ他人ノ爲メニ任務ヲ負フ者ハ其之ヲ實行スルコトニ附キ許多ノ損害ヲ被ムラサルヲ得サル時ハ其義務ヲ免カル、ノ權アルコトヲ明知スルヲ得可ケレハナリ

○第二款 裁判上ノ係争物ノ附託

自第九百六十一條至第九百六十三條

〔千七十三號〕 裁判上ノ係争物ノ附託トハ裁判所ノ命令又ハ其命令ナクモ裁判所ノ權カニ因テ爲セシ所ノ附託ナリ今茲ニ此類ノ附託ト契約上ノ係争物ノ附託トノ異ナル所ノ件ヲ左ニ掲ケン

第一 監守人即チ受託者ハ裁判所之ヲ撰定スト雖モ契約上ノ係争物ノ附託ニ於テハ雙方ノ者協議ノ上之ヲ撰定スルヲ法トス

第二 裁判所ヨリ監守ノ任ヲ受ケタル者ハ當然給料ヲ得ルノ權アリ〔第九百六十二條〕之ニ反シ雙方ノ者ヨリ撰任セラレタル監守人ハ格別ノ約束アル時ノ外給料ヲ得ルノ權ナシ〔第九百五十七條參

觀）

〔千七十四號〕 第九百六十一條ハ適例ヲ示サンカ爲メ〔何トナレハ係争物ノ附託ヲ命スルハ固ヨリ保有ヲ圖ルノ事業タルヲ以テ啻ニ便且ツ利ナル而已ナラス亦必要ナルコト往々之レ有ルニ由リ法律ハ之ヲ命スルノ權ヲ制限セサレハナリ〕裁判上ノ係争物ノ附託ヲ爲ス三箇ノ場合ヲ掲ケリ

裁判所ハ左ノ者へ附託ヲ命スルヲ得

第一 負債主ニ附テ差押ヘタル動産○若シ差押ヲ受ケタル者〔即チ負債主〕其差押ヲレタル物ノ監守人ヲ撰定セサルカ又ハ其撰定シタル監守人ハ其監守ス可キ物ノ價ヲ償ヒ得可キ財産ヲ有セサルカノ事アラハ其差押ノ手續ヲ爲シタル使吏自カラ此物ノ監守人ヲ擧ク可キナリ〔訴訟法第五百九十六條及第五百九十七條〕ハ此監守人ヲ稱

呼シテ裁判上係争物ノ受託者又ハ裁判上ノ受託者ト謂フ何トナレ
セケストル、シユヂシエル
 ハ其監守ノ職ニ任セラル、ハ裁判所ヨリ直ニ命令アリテ然ルニ非
テホジアル、シユヂシエル
 サルモ之ヲ任スル者ハ使吏ニシテ其事ヲ行フモ亦裁判所ノ名義ヲ
 以テスレハ實ニ裁判所ノ權力ニ由テ然ルナリト謂ハサル可カラサ
 レハナリ

使吏ノ任シタル監守人ハ物ヲ保存スルヲニ附キ良善ナル家長ノ如
 ク極メテ之ニ注意スルノ義務アリ

又其監守ニ託セラレタル物差押ノ後ヲ賣却ス可キニ決スル時ハ之
 ナ其差押人ニ渡シ若シ差押取止ニ決シタル時ハ之ヲ其差押ヲ受ケ
 タル者ニ渡スノ義務アリ
 差押ヲ爲シタル者ハ法律ニテ定メラレシ所ノ給料ヲ監守人ニ拂フ
 ノ義務アリ(訴訟入費表第三十四條參觀)

第二 所有權又ハ占有權ニ爭論アル動産若クハ不動産

第三 負債主己レノ義務ヲ免カレシカ爲メ債主ニ提供シタルニ債
 主カ之ヲ受取ルヲ肯セサル物件但シ金額ハ此例ニ在ラス○若シ提

供シタル物ノ金額ナル時ハ預リ役所ニ之ヲ附託シ以テ其金庫内ニ
 納ムルヲ成例トス(第二帙第千二百五十七條及第千二百六十四條ノ
 解釋參觀)

右最終ノ二箇ノ場合ニ於テハ雙方ニテ協議ノ上監守人ヲ撰ム可ク
 若シ其協議セサルコト有ラハ裁判所ニテ之ヲ撰ム者トス

○第十二卷 偶生契約

コントラクト、アレグトール

第一千九百六十〔千七十五號〕互易契約ト偶生契約ノ區別ハ要償契約中小區別ニ外ナ

ラス

要償契約トハ一方ノ者他ノ一方ノ者ヨリ得タル物又ハ其與ヘント
約セシ物ノ償トシテ之ト同額ノ物ヲ與ヘ又ハ與フルヲ約スル所ノ
契約ヲ謂フ

雙方ノ者其利益ノ交換ニ因テ得キ所ヲ契約取結ノ時ヨリ直ニ確
平タル代價ニ定メ得ル時ハ其要償契約ヲ名ツケテ互易契約ト謂フ
若シ雙方ニテ得キ所確平タル代價ニ定ムルヲ得サル者ニテ之カ
其利益トナルヤ又ハ損失トナルヤモ圖ラレサル時ハ其要償契約ヲ
偶生契約ト謂フ

偶生契約ヲ解シタル條ハ民法中ニ二箇アリ一ハ第一千百四條ニシテ

一ハ第千九百六十四條ナリ
 第一ノ條ニ據レハ雙方ノ者ニ損失アルヤ又ハ利益アルヤモ圖ラレ
 サル時ハ其契約ヲ偶生契約ト謂ヒ第二ノ條ニ據レハ雙方ノ者又ハ
 唯一方ノ者ノミニ損失アルヤ利益アルヤモ圖ラレサル時ハ其契約
 ナ偶生ノ事ニ關スル者ト謂フト
 此二箇ノ解義中ニテ熟レカ當然ノ者トナス乎曰ク、第千九百六十四
 條ノ解ヲ取ル可シト主持スル者多シ其言ニ曰ク若シ一方ノ者ノミ
 其確乎タル物ヲ與ヘテ利ヲ射ルノ望ヲ得レハ其契約ヲ以テ偶生ノ
 事ニ關スルト謂フヲ得可キナリ故ニ彼ノ偶生ノ事ニ關スルト公認
 セラル、保險契約ニ於テハ一方ノ者ノ得可キ所ハ契約取結ノ時ヨ
 リ確乎トシテ知ル可キモ他ノ一方ノ者ハ唯一ノ希望アルニ過キス
 蓋シ一ノ災害ナケレハ保險料ヲ利スルヲ得可シト雖モ若シ此事ア

ルニ於テハ其受取リタル保險料ヨリ餘程許多ノ金額ヲ其結約人ニ
 拂ハサルヲ得サルヲ以テ之カ利ヲ得ルニ至ルヤモ知ル可カラス又
 損失ヲ被ムルニ至ルヤモ知ル可カラス故ニ保險者ヨリ其契約ヲ見
 レハ之カ偶生ノ事ニ關スルヤ明ケシ何トナレハ之カ其利益ヲ生ス
 ルモ其損失ヲ生スルモ皆ナ是レ未定ノ事柄ニ關スルヲ以テナリ
 然リト雖モ保險ヲ依頼シタル者ニ附テハ右ノ如ク然ルニ非ス此者
 ヨリ之ヲ見レハ皆ナ一トシテ契約取結ノ時ヨリ確乎タラサルハ無
 シ蓋シ此者ノ損失ヲ被ムルハ必然ニシテ少シモ利ヲ得ルノ希望ナ
 シトス若シ災害ノ發スル有ラハ則チ保險ノ依頼者ハ償金ヲ受取リ
 得ルモ其得ル所唯其失フ所ヲ償フニ足ルノミ又假令ヒ一ノ災害ナ
 クトモ其保險者ニ拂ヒタル保險料ハ其損失タルヲ免カレスト(以上
 第千九百六十四條ノ解ヲ可トスル者ノ論)

我輩ハ第千四百四條ノ解ヲ以テ最モ其宜シキヲ得ル者ト思慮ス夫レ要償契約ニ於テ一方ノ者ノ損失ヲ負フヤ必然ナリトハ我輩其意如何ヲ知ルニ苦ムナリ若シ一方ノ者利ヲ得ルノ望ナクンハ如何シテ之カ契約ヲ取結フ事アランヤ保險ノ依頼者ハ契約ニ因ラスンハ其有スル能ハサリシ所ノ利益ヲ契約ニテ得タルニ一モ其得ル所ナシト謂フハ唯ニ事ノ一端ノミニ拘泥シテ其他ヲ顧ミサルノ説ト謂フ可シ成程契約ニテ其己レヲ富マサ、ルノ事ヨリ立論スレハ一モ其得ル所ナシト主持スルモ敢テ不可ナルナシ然レモ契約ニ因ラスンハ其有スル能ハサリシ益ヲ得タルハ實ニ瑣細ノ事ニ非サルヲ以テ保險ノ依頼者ハ契約ヲ爲シタル事ニ附テ大ニ得ル所アリト謂フヲ得ルナリ

總テ要償契約ニ於テ一方ノ者カ失フ所ハ他ノ一方ノ者ノ利トナリ又一方ノ者カ利スル所ハ他ノ一方ノ者ノ失トナル是レ自然ノ常數ナリ是ヲ以テ一方ノ者ニ失フノ希望アリテ他ノ一方ノ者ニハ得ルノ希望ナシト謂フ理有ル可カラス然ル故ニ若シ保險者ニシテ得可キノ望又ハ失フ可キノ畏レ有ラハ保險ノ依頼者ニモ必シモ之ニ反スルノ望及ヒ畏レ無カラサルヲ得ス

第千九百六十四條ハ契約ノ効ト其成立ニ緊要ナル條件トヲ混淆セシ者ナリ總テ偶生契約ニシテ其偶生ノ効チ一方ノ者ノミニ及ホシ他ノ一方ノ者ニ之ヲ及ホサ、ルノ理アランヤ之ニ反シテ一方ノ者ノ約セシ事ハ確乎不拔ノ者ニテ他ノ一方ノ者ノ約セシ事ハ將來ノ未定ナル者タルヲ得可シ

例之ハ彼ノ保險契約ニ於ケル如ク其條件ハ保險者ノ爲メニハ偶生ノ事ニ關スルヲ以テ之カ其約シタル物ヲ拂ハサルヲ得サルニ至ル

モ亦之ヲ免カル、ヲ得ルニ至ルモ總テ事ノ起リシト起ラサリシトニ關ス然レヒ保險ヲ依頼シタル者ノ身ニ取テハ其條件ノ確乎不拔ナルヤ疑フ可キニ非ス何トナレハ其者ハ事ノ有無ニ關セスシテ其保險料ヲ拂フノ義務アレハナリ

〔千七十六號〕今茲ニ互易契約ト偶生契約トニ區別アル所以ヲ陳スルハ無益ノ事ニ非サルナリ各相續人ノ間ニ於テ分派又ハ不動產賣買等ノ如キ互易契約ニ於テハ損失ヲ以テ其取消ノ原因ト爲スヲ得ルモ此分派又ハ賣買ノ契約ニ偶生ノ質アル時ハ損失モ其取消ノ用ヲ爲ス能ハサルナリ(六百五十七號及千二十三號參觀)

互易ノ年金譯者曰ク一方ノ者ハ資本ヲ讓與シ他ノ一方ノ者ハ其代リニ幾年間各歳息銀幾兩ヲ拂フノ契約ヲ謂フ是レ互易ノ語アル所以ナリニ於テハ息銀ノ割合ヲ法律上ノ利息ノ割合ニ超ヘシムルヲ

得ス然レヒ畢生間ノ年金ト稱スル所ノ偶生ノ質アル年金ニ於テハ何程タリトモ之ヲシテ法ノ制限上ニ出テシムルヲ得可シ(千二號及千二十一號參觀)

民法ニ於テ偶生契約トシテ擧クル者ハ保險契約、船舶又ハ積荷ヲ引當トシテ金高ヲ貸渡ス契約、遊賭及ヒ賭博、畢生間ノ年金ノ契約是ナリ他又其列ニ加ハル可キ者夥多アリ例之ハ未タ開始セサル相續權訴訟權、入額所得權等ノ賣買又ハ未タ生セサル收穫物ノ賣買ノ如キ類是ナリ

保險契約トハ一方ノ者他ノ一方ノ者ヨリ保險料ヲ受ケ此ニ由テ其請合ヒタル物ニ破滅等ノ災害アル時ハ之ヲ償フ可キ契約ヲ謂フ船舶又ハ積荷ヲ引當トシテ金高ヲ貸渡ス契約トハ海上ノ危險ヲ受ク可キ物ヲ引當ニ取テ金額ヲ引渡シ而シテ若シ此物ノ無事ニ到着

ナル時ハ其資本ト豫メ議定シタル所ノ料金トチ受取ルチ得可ク若シ此物ノ減スルコト有ルカ又ハ損失スルコト有ラハ其殘分ノ價ノ外、他ニ請求セサル旨ヲ約スル所ノ契約ヲ謂フ
畢生間ノ年金設置ノ契約ハ千十八號以下ニ之ヲ明解シタリ

○第一章 遊賭及ヒ賭博

第一千九百六十
五條
〔千七十七號〕遊賭トハ二名ノ人協議ノ上各、金額ヲ賭ケ勝者ハ負者ヨリ之ヲ取ル可キノ權アル旨ヲ約スルコトヲ謂フ

賭博トハ二名ノ人アリテ互ニ相反スル意見ヲ主持シ甲ハ其事アリ又ハ有ル可シト謂ヒ乙ハ之ニ反スルコトヲ謂ヒ其言當リタル者ハ他ノ者ヨリ若干ノ金額ヲ受取ル可キノ契約ヲ謂フ

〔千七十七號ノ二〕余ハ今此等ノ契約ニ關スル刑法ノ條規ヲ論スルニ及ハスト思慮ス然レモ之ヲ知テ而シテ益ナキニ非ス即チ左ノ如シ

第一 體操ノ遊賭(千七十七號ノ三參觀)及ヒ「エセク」(譯者曰ク我將某

ニ類似セル者)ノ遊賭ノ如キ純然タル數理ニ出テタル遊賭ハ何レノ場所ニ於テ之ヲ爲スモ皆ナ適法ノ事タリトス

第二 之ニ反シ偶運ニ任スルノ遊賭ハ遊戯場、街衢又ハ道路ニ於テ之ヲ爲ス時ハ不法ノ者トナル事若シ之ヲ犯ス者アル時ハ官其賭物ヲ沒スルノ規ナリ(刑法第四百十條、第四百七十五條第五項及第四百七十七條參觀)

第三 相場ノ遊賭乃チ公債證書ノ價額低昂ニ附テノ賭博ハ刑法上ノ犯罪ニシテ其之ヲ犯シタル者ハ懲治ノ刑ニ處セラル可キ事(刑法第四百二十一條、第四百二十二條)

〔千七十七號ノ三〕是レヨリ民法ノ條規ヲ論セン總テ遊賭モ賭博モ皆ナ之ヲ以テ訴チ起スノ原因ト爲スチ得ス其理甚タ單純ナリ夫レ人

ノ賭博ヲ爲スヤ其敵手ヨリ物ヲ得テ己レヲ益スル乎又ハ一時ノ愉快ヲ招ク乎ニ外ナラサル可シ

第一ノ場合ニ於テハ賭博ノ正シカラサルヤ論ヲ俟タス然リ而シテ法ハ風儀ヲ保全スル者タルヲ以テ道義ニ悖戾スルノ事ヲ制裁セサレハナリ第二ノ場合ニ於テハ賭博ノ如キハ民間不用ノ事ナルヲ以テ法律ハ之ヲ保護スルニ足ラスト爲スナリ(千七十九號ノ三以下ヲ參觀ス可シ)

第一千九百六十
六條

然レヒ兵器運用ノ賭博、競足、競馬、競車、打球等ノ賭博其他水上騎馬戰鬪ノ如キ總テ智力及ヒ體力ニ關スル賭博ハ全ク上ノ法則外ノ者トス此等ノ賭博ハ少シモ道義ニ反スル所ナク却テ有益ナル者ト謂フ可シ何トナレハ吾人ハ此ニ由テ膂力ヲ強クシ藝術ヲ巧ミニスルヲ得レハナリ是レ法律ニテ之ヲ許ス而已ナラス尙ホ之ニ貸スニ其制

裁ヲ以テスル所以ナリ

「エシエック」ノ遊賭ノ如キ數理ヨリ出テタル賭博モ亦吾人ノ智力ヲ増加ナルセシムルニ因リ膂力ヲ強盛ナラシムルノ賭博ヨリ稍有益ニ似タリ然レヒ法律ハ之ヲ法則外ノ者トナサス是レ抑、故アリ民法編纂ノ頃ハ殊ニ武勇ヲ重ニスルノ風ナリシヲ以テ其編纂者モ之ニ壓抑セラレ唯、慄悍輕捷ノ兵士ヲ創作スルニ足ル賭博即チ體操ノ遊戯ニ心ヲ止メタル而已ナリ

千七十七號ノ四「法律ニテ許セル遊賭ヲ爲スニ當リ其賭博者ノ外他人アリテ其勝負ニ附テ賭博ヲ爲ス事往々之レ有リ此賭博ハ適法ニシテ且ツ訴ヲ起スノ權ヲ生スル者ナル乎余ノ見ヲ以テスレハ否ノ語ヲ以テ之ニ答フルニ在ルノミ

夫レ此賭博者唯ニ遊賭ノ傍觀人タルニ過キサレハ躬親カラ之ニ加

ハリシニ非ス從テ其精力ヲ強フシ又ハ其藝術ヲ巧ミニスル能ハサルナリ故ニ此賭博ハ上ニ述ヘタル法則外ノ中ニ入ラサルヤ明ケシ
〔附言〕 馬ノ育養者又ハ所有者其馬ヲ競馬セシメ自カラ騎驅セスシテ賭博ヲ爲ス時ハ法律ニテハ之ヲ適正ナリトス蓋シ其目的ハ馬種ノ改良ヲ獎勵スルニ在ルナリ

然レモ若シ此賭博者ノ賭物ハ勝ヲ得ル賭博者ノ利トナル契約アルニ於テハ其賭博モ之ニ由テ適正トナリ而シテ其勝ヲ得タル賭博者ナシテ負ヲ取りタル賭博者ニ訴ヲ起スヲ得セシムルナリ此場合ニ於テノ賭物ハ之ヲ受取ル賭博者ノ爲メニハ實ニ其勇氣ヲ勵マサシメ其藝術ヲ巧ミニセシムルノ賞ナリト謂フ可キナリ

〔附言〕 ビレット氏曰ク甲ハ自カラ働テ事ヲ爲シ乙ハ之ヲ見物シ此兩人間ニ賭博ヲ爲ス其賭博ハ甲勝ツ時ハ訴權ヲ生シ乙勝ツ時

ハ生セス

〔千七十七號ノ五〕 我輩カ體操ノ遊賭ト名ツケル遊賭ニ訴權アルトハ前文ニ於テ之ヲ陳述セリ是レ法ノ原則ナリ然レモ又之ニ制限ヲ爲サ、ル可カラス故ニ賭物ノ高過當ナル時ハ裁判官ハ願訴ヲ退クルヲ得可シ

夫レ遊賭ヲ爲ス者ハ其最モ熟鍊強壯ナル敵手ニ物ヲ賭ケシメ之ニ打勝チ且ツ是レヨリ利益ヲ得ルヲ以テ其樂トナスナリ然ルニ若シ賭物ノ過當ナル有レハ賭博者ノ目的タル唯ニ利ヲ得ル而已ニ止マルヤ明カナレハ其爲ス所道義ニ反シ變シテ不正ノ事トナル可シ
法律ノ文面ニ注視セヨ若シ賭物ノ過當ナル事アラハ裁判官其願訴ヲ退クルヲ得可シト併シ此場合ニ於テハ裁判官之ヲ減スルヲ得可シト云フ明文ナシ故ニ法ノ言フ所左ノ言語ヲ以テ詳ニ之ヲ述フル

ヲ得可シ

曰ク若シ賭物カ僅少ノ者ニテ其約條モ至當ナルニ於テハ裁判官負者ヲシテ賭物ノ全部ヲ拂ハシメサルヲ得ス若シ其條約ノ至當ナラサルニ於テハ遊賭ハ不正トナルヲ以テ裁判官ハ唯其願訴ヲ退クルヲ要スルノミト

第一千九百六十
七條

〔千七十七號ノ六〕賭博者隨意ニ其賭物ヲ拂ヒタルニ於テハ最早之ヲ

取戻スヲ得ス是レ法ノ原則ナリ總テ法律ハ人ノ好テ爲シタル事迄モ干涉シテ以テ之ヲ取消ス可キ者ニ非ス

故ニ法律ニテ訴權ヲ生セシメル賭物ニ附テモ又法律ノ其制裁ヲ與フル賭物ニ附テモ又相當ナル賭物ニ附テモ又過當ナル賭物ニ附テモ遵守ス可キ原則ハ即チ一ナリ法ノ述フル所ハ如何ナル場合タルニ關セス負者ハ其隨意ニ拂ヒタル物ヲ取戻スヲ得スト云フニ在

リ

相場ノ遊賭ニ附テ其賭物ノ拂方ヲ爲シタル時ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ取消スヲ得可シト云フ論ヲ主持スル者アリ其言ニ曰ク法ノ其制裁ヲ與フル遊賭又ハ法ノ許ス所ノ遊賭ニ附テノ負債ハ之ヲ正當ニ拂フヲ得ルモ相場ノ遊賭ニ附テハ決シテ然ラサルナリ此類ノ遊賭ハ實ニ法律ニテ不正有害ノ者ト看做ス所タリ(千七十號ノ二參觀)然リ而シテ不正ノ事ヨリ生シタル義務ハ全ク無効ニシテ一モ効チ生スル事無ク(第千百三十一條)且ツ不成立ノ負債譯者曰ク即チ不正ノ事ヨリ生シタル義務ニテ全ク無効ノ者ハ正當ニ拂フヲ得可カラサレハ右ノ場合ニ於テ仕拂ヒシ物ハ又再ヒ之ヲ返還セシムルヲ得可キナリト(第千二百三十五條及第千三百七十六條ヲ參觀ス可シ)

論理ノ堅牢ナル敢テ疑フ可キニ非サルモ若シ之ヲ以テ第千九百六十七條ノ文面ニ照セハ其之ニ觸ル、ナ如何センヤ成程該條ニ擧クル所ハ法律ニテ犯罪ニ列セサル遊賭ノミニ相違ナカル可シト雖モ右ノ如ク論ヲ立ツルハ法ヲ解スルノ規則ニ反シ却テ之ヲ創定スルニ類スル者ト謂フ可シ法律ノ文意タル一モ區別ヲ爲サ、ルニ在ルナリ

〔千七十八號〕 既ニ仕拂ヒシ物ト雖モ之ヲ取戻スヲ得可キ例外アリ

其一 勝者ニ詐詭奸謀若クハ騙取ノ術アリシ時
 其二 誤テ仕拂ヲ爲シタル時法律ハ隨意ニ負債ヲ拂ヒタル場合ノ外其取戻ヲ爲スヲ拒マサルナリ然リ而シテ誤謬ナル者ハ隨意ニ非サレハナリ故ニ茲ニ相續人アリ其先人ノ負債ハ法ノ制裁セサル遊戯胚胎セシ者タルヲ知ラスシテ其拂方ヲ爲シタル時ハ之ヲ取消

スヲ得可キナリ

其三 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ如キ無能力者賭物ヲ訴權ナキ勝者ニ拂ヒタル時

〔千七十八號ノ二〕 我輩ノ未ダ講究セサル所ノ一問題アリ

體操ノ遊賭ハ適正ノ約束タルニ外ナラサレハ之ヲ以テ効ヲ生ス可キ契約ナリト爲スヲ得可シ故ニ其義務ヲ生スルハ尋常民事上ノ契約ニ異ナル所ナシトス(千七十七號ノ三參觀)
 之ニ反シ相場ノ遊賭ハ不法ナル約束ノ列ニ在ルヲ免カレス故ニ民事上ノ義務ハ勿論自然ノ義務ト雖モ其能ク得テ生スル所ニ非サルナリ

此二點ニ於テハ一モ異論アルヲ聞カス然レモ此特別ナル遊賭ヲ除キ他ノ遊賭ニ附テハ此事ヲ孰レニ決シテ可ナラン乎此ニ三箇ノ説

アリ

第一説 遊賭ヨリ生スル義務ハ第一千二百三十五條ニ云フ所ノ自然義務タルニ過キス自然義務トハ法律上ノ推測ニ蔽遮セラレテ効ヲ生スル能ハス且ツ負債主ハ隨意ニ之ヲ免カレ得ルト雖モ正當ニ拂ヒ得可キ義務ヲ謂フ(第二帙千三百九號參觀)

然ルニ遊賭ニ附テノ負債ニ訴權有ラサルハ(即チ遊賭ヨリ生スル負債ハ自然ノ義務タルニ過キサルハ)何等ノ理由アリテ然ル乎曰ク是レ唯、敗ヲ取リシ一方ノ者カ利慾ニ眩惑セラレ又ハ策畧ニ陥リテ平心ノ承諾ヲ爲セシニ非スト看做スルニ因レハナリ法律ハ此等ノ情實ニ拘ハリ風儀ヲ傷フ可キ訴訟ノ生センコトヲ畏レ此憂ヲ除カンカ爲メ一ノ推測ヲ立テ是ニ由テ負者ヲシテ其義務ヲ免カル、ヲ得セシム是故ニ此推測ニ因ルモ因ラサルモ固ヨリ負者ノ隨意ナリトス

因テ勝負決スルノ後チ一モ外物ニ壓抑セラレスシテ其賭物ヲ拂ヒシニ於テハ負者カ此推測ノ保護ヲ受ルヲ欲セサリシナリト思考セサルヲ得ス

此ニ由テ之ヲ觀レハ若シ負者ニシテ己レヲ庇保スル所ノ推測ニ據リ無効ナリト申立テ得ル約束ヲ隨意ニ實施シタリシニ於テハ是ヲ以テ民事上ノ義務アル負債主ノ爲ス可キナリ眞ノ辨濟ト名ツク可キ事ヲ爲シタリト稱スルヲ得可シ是レ負者ハ其取戻ヲ爲ス能ハサル所以ナリ

[千七十八號ノ二] 此論說タルヤ余ノ見ヲ以テスレハ決シテ民法編纂者ノ意ニ適中セサルナリ若シ編纂者ニシテ此論アリシトセハ遊賭ヨリ生スル負債ト雖モ負者若クハ他人カ之ヲ正當ナル者ト自認シテ隨意ニ實施スルコトアラハ此事ニ因リ之ニ民法上ノ効ヲ屬セシメ

得ルヲ知ラサルヲ得サル而已ナラス尙ホ其拂方ナキニ於テモ負者若クハ他人カ其氣儘ニテ暗然又ハ明白ニ之ヲ確的ニシタル事ノミニ附テモ之ニ民事上ノ効チ有セシメ得ル所以ヲ覺ユルニ至ラン果シテ然ラハ何人ニ論ナク總テ此負債ヲ適正ノ者トナシ以テ之ヲ確的ニシタル者ヨリ之ヲ見レハ訴權ヲ生スル民法上ノ負債タルニ異ナル所ナシトス然レハ此ノ如キ論ヲ可トスル者ハ未タ嘗テ之レ有ラサルナリ世人皆ナ曰ク遊賭ヨリ之ヲ確的ニスルモ其効ナク又更約ノ方法ヲ以テ之ヲ訴權アル義務ニ更ユルヲ得ス又之ニ保護ヲ立テ其保證人ヲ訴フルノ權ヲ付與スルヲ得スト總テ此等ノ場合ニ於テ遊賭ヨリ生スル事ニ訴權アラサルハ是レ全ク其根本タル遊賭カ法律ノ擯斥スル所タレハナリ故ニ法理ヲ解セサルニ非サルヨリハ安ク之ニ民法上ノ効アリト謂フヲ得ンヤ

〔千七十九號〕第二說 羅馬人ハ法律ヲ以テ遊賭ヲ禁シタリキ此ニ由テ法律ハ遊賭ニ制裁ヲ付與セス我國ニ於テハ遊賭ノ質一變シ最早羅馬ニ於テノ如ク不法ナル者ニ非サルナリ法律モ亦之ヲ承認シ而シテ之ヲ契約ノ列ニ加ヘリ(第千九百六十四條)

夫レ遊賭ノ契約タル既ニ斯ノ如ク分明ナレハ其生ス可キ者ハ何ソ獨リ自然義務ノミナランヤ民法上ノ義務モ生スルヤ明カナリ成程我法律ハ此義務ニ訴權ヲ生セシムルニ及ハスト爲スモ此一事ヲ除キ總テ其効ヲ生スル事ニ於テハ尋常民法上ノ義務ニ別アル所ナシトス是レ隨意ニ拂方ヲ爲シタル負者ハ其拂物ヲ取戻スヲ得サル事ニ於テ判然タリ實ニ其取戻ニ訴權ナキハ其拂方ノ正當ナルニ基ツクナリ然リ而シテ其拂方ノ正當ナルハ義務ノ成立ノ適正ナル所以ナリ

此論ヲ可トスル著述者ハ遊賭ヨリ生スル負債ヲ以テ法律ノ認ムル所トナスカ故ニ之ヲ改約シ又ハ之ニ保證ヲ立ツレハ則チ其効ナキ能ハストナセリ然レヒ亦之ニ附言シテ左ノ如ク論決セサルニ非ス曰ク左レヒ更約又ハ保證ノ事ニ因テ勝者カ訴權ヲ生セサル其根本ノ請求權ニ更ニ之ヲ生セシメ得ルト云フニハ非サルナリ負債ノ辨濟ヲ除テハ如何ナル事ヲ以テスルトモ最初ヨリ附着スル所ノ環瑾ハ決シテ消滅スル能ハサルナリト

〔千七十九號ノ二〕 此說ハ甚タ妙ニ渉ル者ト謂フ可シ然レヒ余ハ決シテ之ニ從フ能ハス(後文ニ於テ余カ之ヲ駁スルノ論理ヲ見ユ)

〔千七十九號ノ三〕 第三說 遊賭ハ義務ヲ生セス夫レ賭ケタル金額ハ僅少ノ高ナルカ又ハ然ラサルヤノ二者ニ外ナラサレハナリ
第一ノ場合即チ賭金僅少ナルニ於テハ賭博者ハ一時ノ遊戯ヲ爲ス

ニ過キス如何ナル事爲ト雖モ其目的タル唯ニ一時ノ事ニ在ル者ハ法律ニテ管領ス可キノ限ニ在ラスボチエー氏ハ遊賭論ニ於テポルタリー氏ハ其辯明書ニ於テ皆チ此論ヲ承認セリ且ツ余ノ今抗論スル所ノ著述者殊更ボン氏モ亦之ト同論ナリ

斯ノ如ク法律ニテ管領スルニ足ラストナセル所爲ナルニ何ソ之ニ法律上ノ効ヲ生スルコト有ランヤ

第二ノ場合(即チ賭高僅少ナラサルニ)ニ於テハ一方ノ者ハ他ノ一方ノ者ノ物ヲ剝取リ自己ヲ利セントスルニ在リボチエー氏曰ク此ノ如キハ決シテ正直ノ事ニ非サルナリ故ニ自然法モ道義モ皆チ之ヲ嫌忌スト余ノ敵モ亦之ニ追加シテ曰ク道德モ之ヲ禁制スト又民法編纂者モ嘗テ明白ニ立論シテ曰ク眞理之ヲ罰シ至正之ヲ退ク社會ノ風儀及ヒ公益モ亦其害スル所ト爲ルト夫レ法律ヲ作爲シタル編

寡者ハ公ケノ風儀ヲ紊亂シ全社會ヲ損傷シ妻子ノ安全ヲ妨ケ醜耻ノ心ヲ薄フシ百般ノ惡風ヲ胚胎、増加、發出セシメ遂ニ人性ノ最モ嫌惡ス可キ騷亂及ヒ重罪等社會ノ大害ヲ醸生セシムル者ト言ヒシニ今更區々タル事ニ拘泥シ之ヲ以テ法律ノ保護スル所杯ト主持スルカ如キハ余ノ敢テ取ラサル所ナリ總テ義務ノ原因ニシテ風儀ニ反スル者之ヲ不正ト謂フ(第千百三十三條)而シテ不正ノ原因ヨリ生セシ義務ニ其効ナキハ是レ法律ノ明言スル所ナレハナリ若シ果シテ論者ノ主持スルカ如ク遊賭ハ法律ニテ正當ナル者ト目セラレシナラハ其之ニ訴權ヲ生セシメサルハ何等ノ理由アリテ然ル乎又負者カ賭博畢リシ後又ハ二三日ヲ歷テ其心平靜ナル時其約束ヲ鞏固ナラシムルカ爲メ事ヲ爲スヲ有レハ法律ハ之ニ強迫スルノ權力(即チ義務ヲ實行セシムル權力ナリ)ヲ附セサルハ何ノ故ソ

ヤ又賭博畢リシヨリ許多ノ時日ヲ經テ他人カ負者ノ代リニ拂フ可キ旨ヲ約スルヲ有ルモ何ノ旨趣ニ因テ法律ハ之ヲ制裁スルヲ肯セサル乎余カ駁スル所ノ辯議ニ於テハ此等ノ問ニ答フル有ル莫シ余カ開陳シタル所爲ニ訴權ヲ附セラレサル所以ハ其基本タル賭博カ法律ニテ風儀ニ反スル者トセラレテ其効ヲ生セサルニ在ルナリ是レ余ノ持論ナリ

法律ヲ制定シタル諸家ニシテ賭博ノ道德ニ反スル旨ヲ明言シタルヤ其幾回ナルヲ知ラス且ツ此一點ヲ證明ナラシメ此ニ由テ賭博ニ附テノ負債ハ全ク原因ナキ者タルヲ論決セシナリ是レ其原因ハ不正ナリト言フニ異ナラス彼諸家ハ唯、之ニ訴權ヲ生セスト論決セシ而已ニ非ス尙ホ是ヲ以テ全ク不成立ナル者無効ナル者ト爲スナリ

ポルタリー及ヒデウエイリーノ二氏曰ク我邦ノ法律ニシテ賭博ヲ契約トシテ保護シタルハ未ダ曾テ有ラサルナリ千六百二十九年ノ布令ハ賭博ヨリ生スル負債ヲ以テ無効ナリトシ且ツ之ニ關係スル所ノ義務及ヒ約束モ其體裁如何ニ關セス總テ皆ナ無効ナル者ニテ其事タル民法上ト道義上トニ於テ少シモ異別アルヲナキ旨ヲ布告セリ我法律ニテ此布令ノ條規ヲ違ケタル者非ス故ニ我古人モ亦斯ノ如ク風儀ヲ補翼スルニ足ル法理ヲ棄ツルノ不可ナルヲ信シタルニ相違ナキナリト

余ハ此言ニ因リ論ノ決ス可キヲ信ス

〔千七十九號ノ四〕余(ムールロン氏)ヲ駁スルノ說ニアリ第千九百六十四條ハ遊賭及ヒ賭博ヲ以テ契約ノ列ニ置ケリ是レ法律ハ之ヲシテ適正ナル契約ニ列スルニ非スヤ故ニ之カ民法上ノ効ヲ生スルヤ疑

ナント

其答辯ヲ爲ス何ノ難キヲ之レ有ラン第千九百六十四條カ遊賭及ヒ賭博ヲ以テ契約ニ列スルハ果シテ其言ノ如クナルモ此事ノミニ因リ何レノ場合タルニ關セス是ヲ民法上ノ契約ナリト論決スルヲ得可キ乎是レ前進スルノ甚シキ者ト謂フ可シ

余カ嚮ニ戰ヒシ所ノ敵ト雖モ相場ノ遊賭ハ民法上ノ契約ニ非サル旨ヲ承認シテ此迄ニ論シ詰メサルナリ遊賭賭博ハ法律上適正ノ者トセラル、時ニ限リ契約ノ列ニ入ルノミ是レ前文ニ陳述セシ條件ノ我輩ニ教ユル所ノ要領ナリ又其正當ニシテ法律モ之ヲ正當ナリト認ムルハ如何ナル場合ニ於テ如何ナル條件ヲ具有スル時ナル乎ノ問題ニ至テハ獨リ第千九百六十五條及ヒ第千九百六十六條ノミ之ヲ解スルニ用アリ然リ而シテ此二條ニ據レハ我輩カ體操ノ遊賭

ト名ツケタル遊賭ト之ニ關係スル賭博トノ外他ニ法律ノ庇保スル者有ルヲ莫シ

〔千七十九號ノ五〕 又難者アリ之ヲ駁シテ曰ハシ若シ遊賭ヨリ生スル負債ハ民法上ニ於テモ自然上ニ於テモ不成立タルヲ免カレストセハ負者カ隨意ニ其仕拂ヲ爲シタル時何故ニ法律ハ之ヲ正當ナリトシテ且ツ動ス可カラサル者ト爲ス乎此仕拂ハ何ノ名義ニテ適正タルヲ得可キ乎之ヲ以テ仕拂ナリト稱呼セン乎曰ク不可ナリ何トナレハ仕拂ハ負債ノ成立ナクシテ爲スヲ得サレハナリ之ヲ以テ贈與ナリトセンカ然レモ其雙方ノ存意ニ反スルヲ如何センヤ是ヲ以テ遊賭ハ適正ナル義務又ハ假令ヒ然ラサルモ正當ニ盡スヲ得可キ自然上ノ義務ヲ生ス可キ者ト爲ス乎將々又負債者ニシテ隨意ニ物ヲ仕拂ヒタル時ハ之ヲ取戻スヲ得スト公言スル所ノ第千

九百六十七條ハ之ヲ明解セントスルモ其術ナク是レ全ク正理ノ存セサルニ因ル者ト爲ス乎ノ二論中ニ就テ孰レヲ取ラサルヲ得スト

此ノ如キ駁撃アルモ余猶ホ之ニ屈スル能ハス賭博ニ附テノ負債ハ法律上全ク不成立タルヲ以テ負者カ其仕拂ヲ爲スヲ有ルモ之ヲ眞ノ仕拂ト爲ス能ハス又之ヲ以テ贈與トモ爲ス能ハサルナリ何トナレハ仕拂ノ金額ハ贈與トシテ之ヲ引渡シタルニ非サレハナリ故ニ仕拂モ無ケレハ贈與モ無キナリ然レモ法律ハ遊賭ニ附テノ紛議杯ヲ受理シ賭博ヲ爲スニ法律ヲ畏レスシテ今更之ヲ引證スルカ如キ徒ノ願訴ヲ法廷ニ於テ判セシムルヲ欲セサルヲ以テ彼ノ既ニ仕拂ヒタル物ハ最早之ヲ取戻スヲ得スト公言シタルナリ然ル故ニ既ニ仕拂ヒタル物ヲ取戻ヲ得サルハ法律カ之ヲ取戻スノ力ヲ貸サ、ル

ニ因テ然ルナリ決シテ其任拂ヒノ正當ナルニ因ルニ非サルナリ
 千七十九號ノ六」此ヲ以テ余ノ見ニ於テハ遊賭及ヒ賭博ハ法律上訴
 權ヲ生スル者ノ外全ク無効ノ契約タル可シ此ニ由テ大切ナル事ノ
 其間ニ發出スルアリ請フ其最モ緊要ナル者ヲ左ニ掲ケン
 第一 遊賭及ヒ賭博ニハ負者ヨリ之ニ保證ヲ與ヘ若クハ之ヲ改約
 スルヲ得ス又他人モ之ヲ保證シ若クハ之ヲ改約スルヲ得ス故ニ
 遊賭ヨリ生スル負債ニ姓名ヲ記シタル證書アリト雖モ之ヲ以テ其
 姓名ヲ記シタル者ニ對シ訴ヲ起スヲ得ス若シ其事ニ附テノ證書ニ
 シテ他ノ原因例之ハ貸借上ノ事ヨリ姓名ヲ記シタルカ如キ體裁ヲ
 帶スルヲ有ラハ是レ法律ヲ欺罔セントスルノ目的ニ出テシニ外ナ
 ラサルヲ以テ單ニ推測プレジュージョン第千二百五十三條ノ力ニ據リ證人ヲ以テ其
 然ル所以ヲ證スルヲ得可シ故ニ此證ノ判然タルニ至レハ姓名ノ記

者ハ一モ其拂フ可キ者ナシ

然リト雖モ曾テ此證書ノ讓渡ヲ良意ニテ受ケタル者アリテ其取消
 ニ附キ損害ヲ被ムリタル時ハ別段ニシテ姓名ノ記者ハ第千三百八
 十二條ニ循ヒ其損害ヲ償フ可キノ義務アリ但シ之ヲ償ヒタル後チ
 證書ノ讓渡者ニ對シ其償ヒタル額ヲ要求スルハ妨ケ無シトス

第二 遊賭及ヒ賭博ノミニテハ賭物トシテ机上ニ置キタル金額又
 ハ品物ノ讓渡ヲ爲ス能ハス是ヲ以テ負者カ勝負ノ決スルヤ否ヤ直
 ニ其賭ケタル物ヲ己レニ収ムルヲアルモ勝者ハ引渡ノ強制ヲ爲ス
 チ得ス且ツ假令ヒ勝者ノ先シテ之ニ手ヲ下タスヲアルモ其所有權
 ノ如キハ未タ失ハサル所タルヲ以テ彼ヨリ強テ之ヲ返還セシムル
 チ得可シ又タ勝負決スルニ先シテ豫メ爲シタル仕拂ノ如キハ素ト
 是レ賭博者ノ熱心ヨリ起リシ者タルヲ以テ之ヲ自由又ハ隨意ノ事

爲ナリト思考スルヲ得サルナリ然ルニモセヨ若シ負者ニシテ其取戻ヲ求ムルニ大ニ時日ヲ經過スル時ハ其之ヲ求メスシテ空シク光陰ヲ費シタル事ニテ既成ノ事ハ總テ念ヲ入レ且ツ自由ニ成サレタルト看做スヲ得キニ附キ是ニ由テ隨意ノ仕拂アリシト勝者ヨリ主張スルコトアルモ亦如何ントモスルコト能ハサル可シ

第三 負者其賭物ノ仕拂ニ附キ訴ヲ受ケ裁判所ニ出席セスト雖モ裁判所ハ缺席裁判ヲ申渡シ以テ之ニ裁判ヲ下スヲ得ス夫レ訴ヲ受ケタル者出席セサルコト有リト雖モ原告人ノ申立ツル所當然ニシテ精細ノ糾彈ヲ經サル以上ハ裁判官之ヲ受認ス可キノ限リニ在ラサルヤ論ヲ俟タス(訴訟法第一百五十條)然ルニ勝者ノ願訴スル所ハ法律上不成立タル負債仕拂ノ要求ニ在レハ其正當ナラサルヤ明カナリ

第四 遊賭ヲ爲ス可キ名代契約ハ法律上不成立ニシテ無効ナル者ナリ名代人負ヲ取テ隨意ニ若干ノ金額ヲ拂ヒタリトセンカ委任者ハ民法上ニ於テ之ヲ償還スルノ義務アルニ非ス又名代人勝ヲ取テ利ヲ得タリトセンカ其委任者ハ法律上ニテ其計算ヲ要求スルノ權ナシ

負者カ勝負決シタルノ後テ他人ニ仕拂ヲ爲スコトヲ委シタル名代契約ハ之ヲ正當ナル者ト爲サル可カラズ此ノ如キハ少シモ道德ノ嫌忌スル所風儀ノ責罰スル所ニ非サレハナリ然レモ左ノ適例ノ如キハ則チ余カ汝ニ若干ノ金額ヲ渡シ余ニ代テ遊賭ヲ爲サンコトヲ命シタルノ場合ニ於テハ此事ヲ孰レニ決シテ可ナラン乎若シ汝カ負ヲ取テ之ヲ勝者ニ引渡シタル時ハ余ハ汝ヨリ之ヲ返還セシムルヲ得可キ乎余ハ斯ク迄ニ歩ヲ進ムモ敢テ不可ナカル可キヲ信ス蓋シ

余ハ汝ノ道德、風儀ニ悖戻スル命令ヲ與ヘタリト雖モ法律上ニ於テ
 之カ爲メ余ハ一ノ義務ヲ負フニ非ス然ラハ汝ハ正當ノ譯柄モ無ク
 且ツ權利モ無キニ余ノ損害トナルヲ顧ミスシテ金額ヲ濫費シナカ
 ラ亦何ノ口實有リテカ余ニ返還ヲ拒ミ得ンヤ

右ノ如キ場合ニ於テ勝者ハ名代人ヨリ己レニ渡シタル物ヲ保持ス
 ルヲ得可キ乎余ハ區別ヲ立テ、之ヲ辯セン名代人自己ノ名目ニテ
 賭博ヲ爲シ因テ其仕拂ヲ爲シタリトセハ勝者ハ其取戻ヲ拒ムヲ得
 可シ之ニ反シ名代人其委任者ノ名目ニテ賭博シ而シテ仕拂ヒタリ
 トセハ其金額タルヤ勝者カリス可キノ限ニ在ラス實ニ此場合ニ於
 テハ委任者カ賭博ノ相手トナリタリト謂フ可キナリ然リ而シテ此
 者ノ自カラ爲シタル事ハ譯者曰ク名代ヲ任セタル事ヲ謂フ總テ其
 賭博ニ加ハリシ前ニ在レハ今爲シタル事ハ皆ナ一トシテ隨意ニ且

ツ自由ニ爲サレシ者ト見做スヲ得サルナリ(千七十九號第二項參
 觀)

第十三卷

名代

第一章 名代ノ本義及ヒ其體裁

第一千九百八十四條

〔千八十號〕 第壹 解義

「マンドー」譯者曰ク原來此語ノ字義ハ依頼ト云フ意ニシテ通常ノ事ニ之ヲ用フルハ多ク此意ニ因レリ法律上ニ於テモ下ニ譯記スルカ如ク之ヲ三箇ノ義ニ用フルト雖モ其義ヤ皆ナ本來ノ字義ヨリ出ル者タルハ一目瞭然タリ然ルニ今之ヲ譯スルニ名代ノ語ヲ以テシ依頼ノ語ヲ以テセサルハ名代ノ語ヲ頗ル用法ニ便ナルト既ニ譯例アルトキ以テノ故ナリノ語ニ三箇ノ義アリ

第一 他人ニ事務ヲ委任シ自己ノ爲メ自己ノ名前ニテ之ヲ行ハシムルノ權ヲ謂フ此權ハ「マンドー」(名代)トモ稱シ又「プロキユラシヨ」(委任)トモ謂フ

名代 名代ノ本義及ヒ其體裁

第二 委任ノ事ヲ記載スル證書

第三 委任スル者即チ名代ヲ依頼スル者ト其委任ノ事ヲ承諾シタル者(即チ名代人)トノ間ニ成ル契約

第一千九百八十四條ハ其第一項ニ委任ノ解ヲ舉ケ其第二項ニ名代契約ノ解ヲ掲ケリ

委任ハ契約ヲ成立セシムルノ階梯ナルヲ以テ其契約ノ成立スルハ主トシテ之カ承諾セラル、ニ因レリ故ニ名代契約ハ委任ノ承諾ナリト解スルヲ得可シ語ヲ變ヘテ言ハ、名代契約トハ一方ノ者他ノ一方ノ者ノ爲メ好テ或ル事ヲ爲ス可キ旨ヲ約スル所ノ契約ナリ委任ノ承諾ノミニテ契約ノ成立セサルコトアリ若シ此場合ヲ知ラント欲セハ結約者雙方ノ存意如何ヲ推究シ名代人カ事ヲ行フヲ約セスシテ唯其權ヲ受ケ之ヲ行フト行ハサルトノ自由ヲ保持シタルヤ

否ヤナ吟味スルニ如カサルナリ余ノ巴里ニ赴クニ際シ人アリ余ニ託スルニ商品買求ノ事ヲ以テセリトセンニ若シ余之ニ答ヘテ「足下ノ與フル權ハ余實ニ之ヲ受ケタリ然レモ此事ニ附キ義務ヲ負フハ余ノ好マサル所若シ間暇アリテ我事務ニ差支ヘ無クンハ余ハ足下ノ望ム所ノ商品ヲ買求メント」言ハ、余ニ一モ義務ナク從テ名代契約モ成立セサルニ至ラン

第一千九百八十五條

「千八十一號」第貳 委任及ヒ其承諾ノ證據

委任及ヒ其承諾ハ文書ニテ之ヲ爲スモ可ナリ口上ニテ之ヲ爲スモ可ナリ而シテ結約者雙方ノ者ノ制定シ若クハ制定セシムル證書ハ公成證書タルモ私印證書タルモ皆ナ其自由ナリトス又單一ノ書面ニテモ委任及ヒ其承諾ノ事ヲ證スルニ足ル可シ然ラハ則チ私印證書ヲ制定スルニ之ヲシテ二通タラシムルヲ要セサルヤ明カナリ我

名代ノ本義及ヒ其體裁

輩ハ下文ニ於テ名代契約ハ給料ヲ受ク可キ旨ノ別約アル時ト雖モ實ニ片務契約タルニ過キサル所以ヲ陳述セント欲スルナリ
 證書ナキニ於テハ結約者雙方ノ者ハ唯_レ誓ヲ求ムルト事實頗末ノ疑問ヲ受ケシムルトノ二方法ヲ有スルノミ然レモ若シ名代契約ノ目的トスル事務ノ百五十「フラン」ヲ超過セサルヤ(第千三百四十一條)又假令ヒ此額内ニ存セサルモ證據ノ端緒アルヤ雙方ノ者ニ證書ヲ得難タカリシノ情實アリシヤ(第千三百四十七條)若クハ既ニ制定シタル證書ノ意外ノ事ニ因テ紛失セシヤ(第千三百四十八條)ノ事アルコ於テハ證人ヲ以テ其證ヲ立ツルヲ得可シ
 委任ノ承諾ハ暗ニ成ルヲアリ例之ハ名代契約ヲ執行シタル事又ハ之ヲ執行セリト推測スルニ足ル二三ノ情狀アル時ノ如シ足下出立セントスルニ際シ余ニ言フニ「余ハ足下ヲ以テ我カ名代人ト爲シ我

カ何某ニ對シテ始メタル訴訟ニ足下ヲ出頭セシメントス此證書ハ我カ權利ヲ足下ニ與フルノ證ナリト」ノ語ヲ以テセリトセン此時ニ當リ若シ余カ直ニ此證書ヲ取テ之ヲ懷ニセハ余ハ此所爲ニテ足下ノ與ヘシ權ヲ受ケタリト看做サル、ニ至ル可シ然レモ若シ委任ノ事ヲ記シタル書面ノ余ニ郵送セラレタル時ノ如キハ假令ヒ余ニ於テ之ヲ受取ルト雖モ此所爲ヤ未タ以テ余カ其委任ヲ承諾シタルノ證ト爲ス_レ能ハサルナリ何トナレハ其書面ノ如何ナル事ヲ記載セシ者タルヤヲ知ラサルモ余ハ之ヲ受取ルノ權アレハナリ
 故ニ委任ノ承諾ハ暗ニ成ルヲアル可キナリ委任モ亦其承諾ノ如ク暗ニ成ルヲアル可キヤ羅馬法律ニ於テハ他人カ自己ノ事務ヲ管理セルヲ知り而シテ之ヲ拒マサル時ハ之ヲ拒マサル_レニ因テ事務管理_シタル准契約ヲ成立セシメ暗黙ナル名代契約ヲ成立セシムルニ至_ルダツヘル

ル可ク蓋シ自己ノ利害ニ關スル事務ヲ自己ノ名目ニテ他人ノ管理
スルヲ知り而シテ之ヲ捨置クカ如キハ是レ暗ニ之ヲ許シタリト推
測セサルヲ得サレハナリ是レ至當ノ論理ニシテポチエー氏ノ教フ
ル所モ亦之ト同一ナリキ

法文ニ據テ考フルニ我民法ハ此理論ヲ拋棄シタル者ノ如シ請フ第
千三百七十二條ノ法文ヲ觀ニ事務管理ナル准契約ノ成立スルハ本
人ノ其事務ノ管理セラル、ヲ知ルト否トニ關セサル可シト云フノ
意ナリ而シテ第九百八十五條ノ此意ヲ確乎タラシメンカ爲メ授
任者ニ望ムニ證書又ハ口上ニテ其存意ヲ表ス可キ旨ヲ以テスレハ
假令ヒ暗ニ其存意ノ表ハル、事アリト雖モ我民法ハ敢テ之ニ効ヲ
附セサル者ノ如シ且ツ該條ニ委任ハ證書又ハ口上ニテ之ヲ爲スヲ
得可シト有ルモ其本項ニ委任ノ承諾ハ暗ニ爲スノミヲ以テ足レリ

トストアルカ故ニ此解釋方ハ益々鞏固ナルカ如ク見ユ可シ
故ニ法文ノミニ附テ考フル時ハ我民法ハ暗黙ノ委任ヲ承認セサル
ヤ明カナリトス

然ルニ此法文上ノ論決ヲ顧ミス默許ノ委任ト雖モ之ヲ以テ適正ナ
ル者トスルハ一般普通ノ公論ナリ第九百八十五條ニ在ル口上ノ
語ハ其字義ニ依テ解ス可カラサル者トセサル人ナシ法ノ此語ヲ用
フルハ文書ヲ以テセストモ敢テ授任ヲ請合フニ差支ナキ事ヲ述ヘ
ンカ爲メニシテ文書ヲ以テノ請合ニ反對ナルヲ表スルニ在リ然リ
而シテ其請合ヲ示サンニハ必シモ言語ヲ以テスルヲ要トセス相圖
(手似ノ如キ類ナリ)ヲ以テスルヲ得可ク又所爲ヲ以テスルヲ得可ケ
レハナリ是レ我民法ノ云ハント欲スル所ナリ他又訴訟法第五百五
十六條ニモ暗黙ナル委任ノ適例トス可キ者アリ該條ニ裁判言渡書

又ハ證書ヲ使吏ニ渡セハ不動産ノ差押及ヒ禁錮ヲ除キ總テ其執行ノ權ヲ之ニ附スルニ等シトアリ

且ツ夫レ羅馬法ノ無益ナル法規ヲ嫌惡シタル佛蘭西立法者ニシテ羅馬法ニ於テ同意契約ニ列シタル契約(名代契約)ヲ成就セシムル爲メ口上ノ陳述アル事ヲ要セシナリトス可カラス

且ツ又第千三百七十二條ニ在ル「本人ハ事務ノ管理セラル、チ知ルト知ラサルトニ關セス」ノ語ノ如キハ是レ全ク本人ハ事務ノ管理セラル、チ許ス、ハ意ナキ場合ヲ言フナリ故ニ余人アリテ余ノ事務ヲ管理スルヲ知ルモ通信ノ自由ナク又ハ重疾ニテ思想ヲ吐露スル能ハサルノ情實アリテ之ヲ拒マントスルモ其方法ナキ時ハ假令ヒ余ニ於テ事務ノ管理セラル、チ知ルト雖モ余ノ爲メニ余ノ名目ニテ事ヲ行フチ暗ニ他人ニ許シタリト云フチ得サル可シ此ノ如キ時ハ

意思ノ合同ナキヲ以テ名代契約アリト謂フチ得ス唯事務管理ナル准契約アリト謂フ可シ

之ニ反シ若シ本人ニテ事務ノ管理セラル、チ知り而シテ之ヲ拒ムノ方法ヲ有シナカラ之ヲ拒マサル時ハ默許ノ名代契約アリト謂フチ得可キナリ

〔千八十三號〕 默許ノ名代契約ト事務管理ナル准契約トヲ區別スルニ於テハ二箇ノ益アリ

第一 事務管理者ハ完全ニ事務ヲ仕遂ケサレハ本人ニ向テ償ヲ要求スル能ハス即チ語ヲ變ヘテ之ヲ言ハ、償ヲ要求シ得ルト得サルトハ事ノ成否ニ關ス(第千三百七十五條)故ニ管理者ハ必要ナル費用又ハ有益ナル費用ノ償ノ外要求シ能ハサルナリ之ニ反シ名代人ハ其任セラレタル事ヲ行ヒ本人ニ利益ヲ得セシメサリシ時ト雖モ其

費シタル額ハ悉ク要求スルヲ得可ク且ツ其諸雜費ノ如キモ過分ナリトノ口實ニテ本人ヨリ之ヲ減スルヲ得サル者トス但シ名代人ニ過失アリテ其責ニ任ス可キ時ハ別段ナリ(第千九百九十條ヲ參觀ス可シ)

第二 委任者ノ死去スル時ハ名代ノ任解クルヲ以テ唯之ヲ捨置ケハ大害アル時ノミニ限り名代人ハ其着手ノ事務ヲ成就ス可キノ義務アルナリ(第千九百九十一條)之ニ反シテ管理者ハ本人ノ死去スル時ト雖モ猶ホ引續テ其管理ヲ爲サ、ル可カラス是レ啻ニ打捨テ置ケハ大害アル時ノミナラス如何ナル場合ニ於テモ管理者ハ本人ノ相續人カ自カラ之ヲ擔任スルヲ得可キ時迄其管理ヲ爲スノ義務アリ(第千三百七十三條)

〔千八十四號〕 第參 數種ノ權限

第一 委任者ノ名目ニテ事ヲ爲スノ權○若シ余或ル事件ニ附キ汝ヲ以テ名代人ニ任シ且ツ汝ニ命シテ云フ他人ト結約スルニ際シ其人ニ告グルニ汝ノ結約スルハ余ノ爲メ余ノ名目ニ於テス可キ旨ヲ以テセヨト是レ余ノ名目ニテ事ヲ爲スノ權ヲ汝ニ與ヘタルナリ

第二 名代人ノ名目ニテ事ヲ爲スノ權○名代人ハ必ス委任者ノ名目ニテ事ヲ爲スヲ以テ名代契約ノ本質ト爲ス勿レ名代人ハ委任者ノ許可アレハ自己ノ利益ニ於テ己レノ爲メ事ヲ行フカ如ク己レノ名目ニテ其任ヲ盡スヲ得可シ余ハ汝カ家屋ヲ賣却セント欲スルヲ知リ之ヲ買求ムルニ熱心ナルモ汝ハ余ト仇敵ナルヲ以テ若シ余自カラ其示談ヲ爲ス時ハ汝ハ之ヲ拒ムカ又ハ之ヲ承諾スルモ取纏メ難キ事柄ヲ申立ツルノ畏レアルニ於テハ朋友ニ之ヲ任セ其事ヲ汝ニ申入レシメ其名目ニテ契約ヲ遂ケ以テ余ノ爲メニ此家屋ヲ買ハ

シムルヲ得可シ

名代人ノ事ヲ爲スニ委任者ノ名目ヲ以テスルト自己ノ名目ヲ以テスルトニ因リ其結果ハ大ニ異ナル者トス

名代人委任者ノ名目ニテ事ヲ爲ストセンカ名代人ハ委任者ノ代人即チ器械タルノミ故ニ此場合ニ於テハ委任者カ名代人ノ口ヲ借りテ言述シダリト謂フヲ得可シ又名代人カ其權限中ニ於テ言述シ又ハ事ヲ行ヒ又ハ意ヲ示シタル事アレハ皆ナ委任者自カラ言述シ行爲シ意ヲ示シタルナリ是ヲ以テ他人ト結約セシ者ハ實際上ニ於テ名代人ナリト雖モ法律上ニ於テハ委任者ナリト謂ハサル可カラス且ツ其結約終ハルニ至レハ直ニ名代人ノ任解クルヲ以テ其法律上ノ効ノ如キモ義務ヲ生スルト權利ヲ生スルトニ拘ハラズ委任者ノ身上ニ係ルハ猶ホ其躬親カラ契約ヲ取結ヒシ時ト異ナルヲ無シ然

ル故ニ他人ハ名代人ト結約スルニ際シ委任者ノ資力ニ注意ス可ク名代人ノ資力ニ注意ス可カラサルナリ何トナレハ其結約スルハ名代人ト結約スルニ非ス委任者ト結約シ以テ之ト關係ヲ爲セハナリ」名代人自己ノ名目ニテ事ヲ爲ストセンカ名代人ハ權利ニモセヨ義務ニモセヨ總テ法律上ノ効ヲ己レノ身ニ負ハサル可カラス他人ハ獨リ名代人ノミヲ知ルニ過キサルヲ以テ負債ノ事ニ附テモ人權ノ事ニ附テモ一モ委任者ト關係アルヲ無シ故ニ其債主トナリ其負債主トナル可キハ名代人ニシテ委任者ニ非サルナリ然リト雖モ委任者ハ名代人ノ取結ヒタル負債ヲ償フノ義務アリ又名代人モ其得タル所ノ權利ヲ委任者ニ與フルノ義務アルヲ以テ名代人ノ債主トナリシ他人ハ第千百六十六條ニ循ヒ名代人ニ代リ委任者ニ對シテ訴權ヲ行フヲ得可ク委任者モ亦名代人ノ債主タル時ハ同シク該條ニ